

# 茨城の文化財

第62集（令和5年度）

茨城県教育委員会

## 序

豊かな自然と歴史に恵まれた郷土茨城には、有形・無形の貴重な文化財や自然の造形が数多くあります。文化財は、わが国の長い歴史の中で生まれ、育まれ、今日の世代に伝えられてきた貴重な国民的財産です。これら文化財は、わが国の歴史、伝統、文化を正しく理解するために欠くことのできないものであり、文化のさらなる向上発展の基礎をなすものです。したがって、文化財の保存とともに積極的な公開活用を図ることがますます重要となっております。

令和4年4月に施行された新たな文化財保護法により、これまでの有形文化財、有形民俗文化財、記念物と併せて文化財全般にわたり登録制度が整備され、文化財の保存活用のための施策がさらに充実することがますます期待されております。県教育委員会では、これらの文化財を良好なかたちで次の世代に伝えていくため、様々な施策を講じておりますが、今後とも皆様の一層の御理解と御協力をお願いする次第です。

さて、本書では令和5年度に指定された国・県指定文化財及び登録された国登録文化財等について収録するとともに、国・県指定及び国登録等の文化財一覧表を掲載いたしました。

また、令和5年度茨城県埋蔵文化財センター事業概要、令和4年度に県内で実施された埋蔵文化財発掘調査の概要なども収録いたしました。本書が多くの方々に活用され、文化財の保存・活用の一助となれば幸いです。

結びに、本書の作成にあたり御協力をいただきました茨城県文化財保護審議会委員をはじめ、関係市町村文化財主管課並びに文化財の所有者及び保護団体の皆様方に対して深く感謝いたします。

令和6年3月31日

茨城県教育委員会

教育長 森作 宜民

# 例 言

1 本書は、文化財保護法の規定に基づき、令和5年度に指定及び追加指定された国指定文化財5件、登録原簿に登録された登録文化財1件及び茨城県文化財保護条例の規定に基づき、令和5年度に県指定文化財となった3件について、解説を収録したものである。

2 国・県指定文化財等総数は令和6年3月31日、市町村別指定文化財数量は令和6年3月1日現在のものである。

3 茨城県文化財保護審議会委員は、次の各氏である。

会 長	小野寺	淳
副会長	徳丸	亞木
委 員	浅見	龍介
委 員	伊藤	紫織
委 員	金出	ミチル
委 員	小森	正明
委 員	谷口	陽子
委 員	千葉	真由美
委 員	白田	正子 (令和6年1月28日から)
委 員	藤井	英二郎
委 員	藤川	昌樹
委 員	古家	晴美 (令和6年1月28日から)
委 員	山田	利博
会 長	糸賀	茂男 (令和6年1月27日まで)
委 員	串田	紀代美 (令和6年1月27日まで)

4 令和5年度茨城県埋蔵文化財センター事業概要は、茨城県埋蔵文化財センター（いせきびあ茨城）運営方針及び令和5年度12月までの事業実績をもとに編集したものである。

5 遺跡発掘調査報告は、令和4年度に県内で実施された埋蔵文化財発掘調査の概要を、市町村教育委員会、公益財団法人茨城県教育財団及び調査担当者が作成した埋蔵文化財発掘調査概要調査票に基づき、茨城県教育委員会が集約、編集したものである。

# 目 次

序

例 言

1	令和5年度に指定された国指定文化財	1
(1)	国指定重要文化財(建造物) 旧矢中家住宅	2
(2)	国指定重要文化財(建造物) 旧坂野家住宅(追加指定)	5
(3)	国指定重要文化財(考古資料) 茨城県風返稻荷山古墳出土品	7
(4)	国指定重要文化財(歴史資料) 五馬力誘導電動機 明治四十三年、久原鋳業所製 1台 附 設計図面5枚	9
(5)	国指定史跡 十五郎穴横穴群	11
2	令和5年度に指定された県指定文化財	14
(1)	茨城県指定有形文化財 絵画 絵第83号 絹本着色阿弥陀如来来迎図	15
(2)	茨城県指定有形文化財 古文書 古第10号 税所文書(山戸本)	19
(3)	茨城県指定無形民俗文化財 無民第37号 中田永代太々神楽	25
3	令和5年度に登録された国登録有形文化財	31
4	国・県指定文化財等一覧	33
(1)	国・県指定文化財等総数	34
(2)	国指定文化財等一覧	35
(3)	ユネスコ無形文化遺産一覧	48
(4)	県指定文化財一覧	49
(5)	国登録文化財一覧	78
5	市町村別指定文化財数	86
	令和5年度新規指定(解除)市町村指定文化財一覧	90
6	令和5年度茨城県埋蔵文化財センター事業概要	92
7	令和4年度茨城県遺跡発掘調査報告	97

# 1 令和5年度に指定された 国指定文化財

## (1) 国指定重要文化財（建造物）

### 旧矢中家住宅

指定日 令和5年9月25日

名称	員数	所在地	所有者	指定基準
きゅうや なか け じゅうたく 旧矢中家住宅 ほんかん 本館 べっかん 別館 つけたり 附 石蔵	2棟          1棟	茨城県つくば市 ほうじょう ふるしろ 北条字古城94番地 1号	個人	意匠的に優秀なもの 学術的価値の高いもの

旧矢中家住宅は、つくば市の北部、筑波山南麓にある北条地区に位置する。セメント防水の研究者で、現在の株式会社マノールの創業者である、当地出身の矢中龍次郎（1878～1965）が建築した。矢中は明治43年（1910）に中国で研究所を設立し、大正10年（1921）に東京で油脂化工社（現株式会社マノール）を創立し、セメント防水材（マノール）の製造販売及び施工を手がけた。

もと多気城の出城であったとされる小高い土地の南下がりの傾斜面に、南北に長い旗竿状の敷地を呈し、切土、盛土をして平場を造り、建物を建てる。敷地南前面の通りから斜面を上がり、東西方向の石塀に開いた門の奥の西寄りに高い基礎を築いて本館を建て、その東には敷地南北の段差に擁壁を築く。本館の北に別館を建て、本館と渡廊下で接続する。石塀は門の東西から北に折れ、敷地の西辺及び東辺を画す。本館、別館及び石蔵は平成23年（2011）7月25日付けで国の登録有形文化財に登録されている。

本館は棟札から昭和17年（1942）の建築、棟梁は保科菊次で、設計は矢中が自ら行った。敷地奥行中央に東面して建ち、基礎は大谷石の切石を高く積み上げ、内部の一部を地下室とする。地下室は、南に出入口を開き、内部はL字形の平面で南北二室に区切り、床は土間、壁は大谷石積を化粧であらわし、天井は根太天井とする。一階平面は南北棟と東西棟からなる鉤型とし、建築面積197.53㎡、木造平屋建、陸屋根とし、パラペットに棧瓦を葺く。南面には玄関への石階、西面には内玄関への石階、北面に別館に接続する五角形の変形平面の渡廊下が附属する。

外壁は腰は花崗岩切石積、上部は大壁で山吹色のモルタル塗とし戸袋も塗込め、四周に矩形窓や横長の出窓を開け庇を付す。

内部へは南面石階を東からアプローチし、布目タイル敷の玄関の北に玄関ホールを配する。玄関ホールは床板に幅広のケヤキを用い、天井は格天井で中央を折り上げ照明を仕込む。東西棟の東に和室を食違いで四室配し、北東を床付座敷とする。床柱はモミジで、襖には紅葉や菊水を描く。寄付となる南西の四畳にはスギの一枚板を用いた板戸を建て、日本画家の南部春邦の絵を描く。北面に広縁を通し、床板には長大なケヤキを用いる。杉戸絵や襖絵等各所に意匠を凝らし、全体に良材を用いた贅を尽くした和風の接客空間である。また、天井に仕込まれた照明廻りのスリットや、建具の足元の無双窓で換気を図り、南・東面の出窓建具は外から雨戸、ガラス戸、カーテン、障子戸、網戸とするなど、採光と換気の調節に細心の注意を払う。一方、西側の南北棟は東面に玄関ホールから続く廊下を通し、南西の六畳から北に、物置、女中室、内玄関、台所、風呂・便所等を並べ、さらに北西に石蔵を取り込むかたちで土間の炊事場を張り出す。風呂・便所の設えを上質なものとす以外は、いずれも内向きの室で簡素に造る。

内装は真壁造で表向きの部屋は緑色の土壁、内向きの部屋は黄漆喰仕上とし、床は表向きの部屋は板

敷に幅広のケヤキを用い、天井も棹縁を主体に、要所を格縁天井や網代天井、中央を折上げの天井とするなど多彩な表現をみせる。小屋は大梁を組み、根太を配して野地板を受ける。

屋上には矢中龍次郎が発明した防水剤を使用する。外壁の山吹色も同人の会社が福島県で採掘精錬した顔料を用い、ほかにも、外壁の下地に矢中防火板と称して軽量コンクリート板を貼るなど、矢中の発明及び創意工夫が散りばめられた住宅である。

別館は接客棟で、一階は西辺の敷地境に鉄筋コンクリート造の擁壁を立ちあげて駆体の一部とし、ほか三辺の外壁は大谷石積で、この一階部分は、古写真や食堂小壁絵画の落款等から昭和16年頃には建築されたとみられる。墨書から、戦後の昭和24年に木造で二階を建て竣工した。桁行16.2m、梁間5.6m、二階建、切妻造の照り屋根とし、棧瓦葺である。一階は大谷石積の壁に矩形の窓を開ける。二階は木造モルタル塗で白色塗装をほどこし、東・北面に横長の出窓を開けて棧瓦葺の庇を廻らし、東面は出桁で軒を受ける。

玄関は本館渡廊下と接続するほか、東面南端に庭からの出入口を設ける。一階は、玄関の北奥に六畳、その北は一四畳の食堂とする。食堂は四周の小壁を北川金鱗の水墨画、西面の板戸を南部春邦の手になる色鮮やかな動植物画で飾る。天井は中央を折上げて照明を仕込む。照明廻りには本館同様、通気口を設ける。東面いっぱいには据えられたキャビネットには一枚板のサクラの天板を使用するなど、銘木使いと鮮やかな絵画が上質な接客空間を造る。

南に配した階段は総ケヤキ造で透漆をかける。二階は南を応接間、北を座敷とし、いずれも一二畳半で、応接間は西面中央に大谷石の暖炉を据え、天井は格天井とする。座敷は床、床脇、書院を備え、天井は棹縁天井である。床柱はスギの四方柱、床框を漆塗とするなど材料を吟味する。両室とも蟻壁長押を廻すなど格調高く、また、東面いっぱいを出窓風にし、外からガラス戸、カーテン、網戸を建て込み採光と眺望を誇る。南面の五畳は東・南面にガラス戸を建てサンルームの扱いとし、南の玄関上部にバルコニーを設ける。小屋組はトラスを組む。

別館も、本館同様銘木使いと鮮やかな絵画で上質な接客空間を造り、換気にも細心の注意をはらう。

石蔵は本館の北西に東面して建つ。古写真等から、昭和13年頃の建築と判断され、敷地内最古の建物である。南北3.6m、東西2.2m、大谷石を積み上げた小規模な石造平屋建で陸屋根とする。内部は土間の一室で壁は石積を化粧とする。

石蔵の南北に石塀が敷地西辺に沿って建つ。敷地東辺も敷地形状に沿って石塀が建ち、東辺の北端に木戸を開く。通りと本館の間にも東西方向に石塀を建て中央を開けて門とする。また、本館の東面から東辺の石塀間に石積の擁壁をたち上げ、段差によって敷地を南北に分ける。石塀、擁壁とも大谷石切石積である。さらに擁壁東寄り下部を出入口として穿ち、内部に当地の伝統的な横井戸を設ける。

旧矢中家住宅は、建材研究者で実業家の矢中龍次郎の住宅である。本館は木造ながら陸屋根とし、矢中発明の防水剤を使用するほか、大壁にも同人採掘精錬にかかる顔料を用いる。また、別館ともども、各所に設けた通風口や、工夫を凝らした建具で換気に細心の注意を払うなど、日本の気候風土を考慮した実験的な住宅として、学術的な意義を認めることができる。

一方、杉戸絵や襖絵、水墨画等を随所に配し、銘木をはじめとした吟味した材料を使用するなど、意匠的にも優れた近代和風住宅である。高低差のある地形を生かした敷地及び敷地を画する石塀や擁壁等とあわせて保存を図る。

(文化庁文化財第二課「新指定の文化財—建造物—」『月刊文化財』令和5年10月号、第一法規より転載)



本館正面（南東面）外観



別館一階食堂

【写真提供 つくば市教育委員会】



## (2) 国指定重要文化財（建造物）

### 旧坂野家住宅（追加指定）

指定日 令和5年9月25日

（次の文化財を追加し、改めて指定）

※ 追加される文化財：書院 1棟、文庫蔵 1棟

名称	員数	所在地	所有者	指定基準
きゅうさかのけじゅうたく <b>旧坂野家住宅</b> （茨城県常総市大生郷町） おもや <b>主屋</b> しょいん <b>書院</b> ぶんこくら <b>文庫蔵</b> おもてもん <b>表門</b>	4棟	じょうそうし <b>茨城県常総市</b> おおのごうまち <b>大生郷町2037番地</b>	常総市	意匠的に優秀なもの 流派的又は地方的特色 において顕著なもの

旧坂野家住宅は、茨城県の南西部にある常総市の大生郷町に位置する。坂野家は中世以来の当地の土豪で、近世には代々大生郷村の名主を務めた。台地上に広がる屋敷地は広大で、南に表門を開け、中央に主屋を南面して構える。主屋周囲には書院、土蔵、井戸屋形等を建て並べ、土塀や板塀で囲む。

主屋は居室部及び座敷部からなる。18世紀初期に建築され、天保9年（1838）に座敷部を増設した。太い柱や梁で構成された構造は豪壮で、意匠的にも優れており、豪農の屋敷構えを伝えているとして、表門及び塀とともに昭和43年（1968）4月25日付けで重要文化財に指定された。

書院は、上棟の矢飾墨書から大正9年（1920）の建築で、大工は落合新蔵である。東西棟で二階建の主体部に、南北棟で平屋建の東棟が続き、渡廊下で主屋と繋がる。主体部は、桁行9.4m、梁間5.8m、寄棟造、棧瓦葺で、腕木を出して深い軒を受け、一階には下屋を付す。北西には二階建の便所棟を突出する。東棟は桁行10.6m、梁間3.6m、屋根南方は主体部から葺き下ろし、北は寄棟造として棧瓦を葺く。

一階は一〇畳二室の座敷を東西に並べ、西室西面の中央を大床、両脇を棚とし、北面に書院を構える。大床にケヤキの一枚板の床板、床柱と框に黒柿を用い、書院には玉杵のタモ材を用いるなど、銘木を使用した端正な意匠をもつ。座敷境の欄間は繊細な組子欄間とする。座敷の南・北には半間の廊下を通す。東棟は南から廊下、三畳、浴室、廊下とし、廊下の北に八畳大の板間を配する。浴室は床、腰をタイル貼とし、天井は垂木を放射状に配して中央に空気抜を開けた瀟洒な造りとする。

二階は、八畳二室の座敷を東西に並べ、西室には床、棚、書院を構え、東室東面に押入を設ける。座敷の南・北に廊下を通し、南面はさらに手摺を張り出す。

外部は真壁造漆喰仕上に一部下見板を張り、内部は座敷を砂壁とするほかは漆喰で仕上げる。一、二階とも座敷・廊下境はガラス入腰障子戸とし、外周はガラス戸を建て廻らせ、特に二階南面は手摺越しに庭への眺望を誇る。

書院は、坂野家の歴代当主が文人墨客を招き、文化活動の拠点とした施設である。設えられた山岡鉄舟の軸、中村不折の扁額や川村雨谷の「四君子」の襖絵はその遺例となる。また、各室における銘木の使用やガラス戸を多用した軽やかな構成は、上質な近代和風住宅の特徴をよく示している。

文庫蔵は、明治初年（1868）の建築とみられる。書院東棟北から渡廊下で接続し、桁行6.4m、梁間4.5m、土蔵造、二階建、切妻造棧瓦葺で、南面に土庇を掛け、東北西面に水切庇を二段に廻す。外壁は腰を袴腰状に造り、漆喰で鉢巻まで塗り込める。一階南面に出入口を開け、外は土戸両開き、内は土戸と

格子戸を引込みとする。一階西面と二階の西・東面に窓を開ける。内部は一、二階とも一室で、床、壁とも板張とし南面西寄りに階段を設ける。小屋は牛梁うしはりに登梁のぼりぼりを架け地棟木じむなぎを受ける。袴腰状の塗りや水切庇等、重厚ながらも意匠を凝らした上質な土蔵である。

坂野家住宅の書院は、大生郷地域における文人墨客の活動拠点となった施設で、材料、意匠ともに秀でた上質な近代和風の座敷棟として評価される。既指定の主屋等に追加し、文庫蔵とあわせて保存を図る。

(文化庁文化財第二課「新指定の文化財－建造物－」『月刊文化財』令和5年10月号、第一法規より転載)



書院南面全景



書院及び文庫蔵北側全景

【写真提供 常総市教育委員会】

### (3) 国指定重要文化財（考古資料）

#### 茨城県風返稻荷山古墳出土品 一括

指定日 令和5年6月27日

所有者 かすみがうら市

(かすみがうら市歴史博物館保管)

風返稻荷山古墳は茨城県かすみがうら市安食<sup>あんじき</sup>にあり、霞ヶ浦沿岸の台地上に位置する。墳丘長78メートルの前方後円墳で、33基の古墳で構成される風返古墳群に属し、古墳時代後期末から終末期初頭（6世紀末から7世紀初頭）の築造と推定されている。本一括はその副葬品であり、銅鏡<sup>どうわん</sup>1点、金属製品47点、ガラス小玉1点、須恵器4点にて構成される。

注目される資料の一つに承台付きの銅鏡がある。蓋・鏡身・承台<sup>うけだい</sup>の3点で構成され、遺存状態が極めて良く、小形で姿形も整う。様式的・技術的に朝鮮半島、百済<sup>くだら</sup>からの搬入品かその系譜をひくとみられ、その入手経路や契機、及びこの頃国産化が始まるとみられる銅鏡の変遷を検討する上で欠かせない資料である。

また、金・銀で装飾された馬具類や大刀・刀子<sup>とうす</sup>の豊富さと良好な遺存状態が特筆される。馬具類は、石室出土一式とくびれ部箱形石棺傍出土一式の二組があり、鏡板<sup>かがみいたつきつわ</sup>付轡<sup>くらかなぐ</sup>、鞍金具<sup>しりがい</sup>、尻繫装飾<sup>うず</sup>（雲珠・辻金具<sup>ぎょうよう</sup>）が遺存する。石室出土の金銅装馬具は大形で、特に鍍金層<sup>とぎん</sup>がよく残り当時の馬具が放つ光彩の実相をよく伝える。装飾付大刀は金銅装円頭大刀<sup>えんとうのたち</sup>3口、金銀装頭椎大刀<sup>かぶつち</sup>1口があり、拵<sup>こしら</sup>えが良好に遺存しその構造がよく理解できる。これらの馬具や装飾付大刀はいずれも6世紀末から7世紀前半に国内で製作されたものであるが、杏葉や装飾付大刀の拵<sup>こしら</sup>え等における製作工程の省略化から、横穴式石室出土の一式がやや先行して作られたとみられる。

なお、石室前室の手前から出土した4点の須恵器<sup>すえき</sup>は、時期がやや下り、また内2点は副葬時に打ち割られた可能性があることから、追葬や葬送儀礼を考える上でも興味深い。

西日本で築造が終了した後も東日本で継続して造られた、最末期の前方後円墳における副葬品組成をよく示す遺存状態の良好な一括である。また、当時の金工品の形状や製作技術についての変遷を知る上でも重要であり、高い学術的価値を有している。

(文化庁文化財第一課「新指定の文化財－美術工芸品－」『月刊文化財』令和5年1月号、第一法規より転載)



風返稻荷山古墳出土品

【写真提供 かすみがうら市教育委員会】

#### (4) 国指定重要文化財（歴史資料）

ごぼりきゆうどうでんどうき  
五馬力誘導電動機 明治四十三年、<sup>くはらこうぎょうしよせい</sup>久原鋳業所製 1台  
<sup>つけたり</sup>附 設計図面 5枚

指定日 令和5年6月27日

所有者 株式会社日立製作所

(日立オリジンパーク保管)

明治43年に久原鋳業所日立鋳山工作課長<sup>おだいらなみへい</sup>小平浪平(1874～1951)の指導のもとに製造された五馬力誘導電動機で、日本人により設計・製造された現存最古の誘導電動機である。

小平浪平は明治33年7月に東京帝国大学工科大学電気工学科を卒業した後、藤田組小坂鋳山等を経て、同39年に茨城県多賀郡の久原鋳業所日立鋳山に入社した。小平は国産の電気機械製造を優先すべきであるという意見をもち、日立鋳山工作課修理工場で変圧器の部品製作を試みる等の試行錯誤を重ねた後、職員ですべての設計と製図を行い、同43年3月には3台の五馬力誘導電動機を完成させた。本機は銘板に製造年「一九一〇」とともに製造番号「一」と刻まれており、この際製造された3台のうちの1台である可能性がある。設計・製図を担当したのは、同42年に東京帝国大学工科大学電気工学科を卒業して久原鋳業所に入社した<sup>たかおなおさぶろう</sup>高尾直三郎であった。

五馬力誘導電動機に続いて二〇〇馬力誘導電動機の製作に成功すると、小平は明治43年11月に日立町内の新工場で本格的に電気機械製作を開始した。事業は軌道に乗り、久原鋳業所は同45年1月にこの工場に日立製作所の名称を付与して日立鋳山工作課より分離させた。大正時代に入ると、第一次世界大戦の勃発等を契機として日立製作所は販路を拡大し、大正9年(1920)には久原鋳業株式会社(久原鋳業所の後身)より完全に独立するに至った。

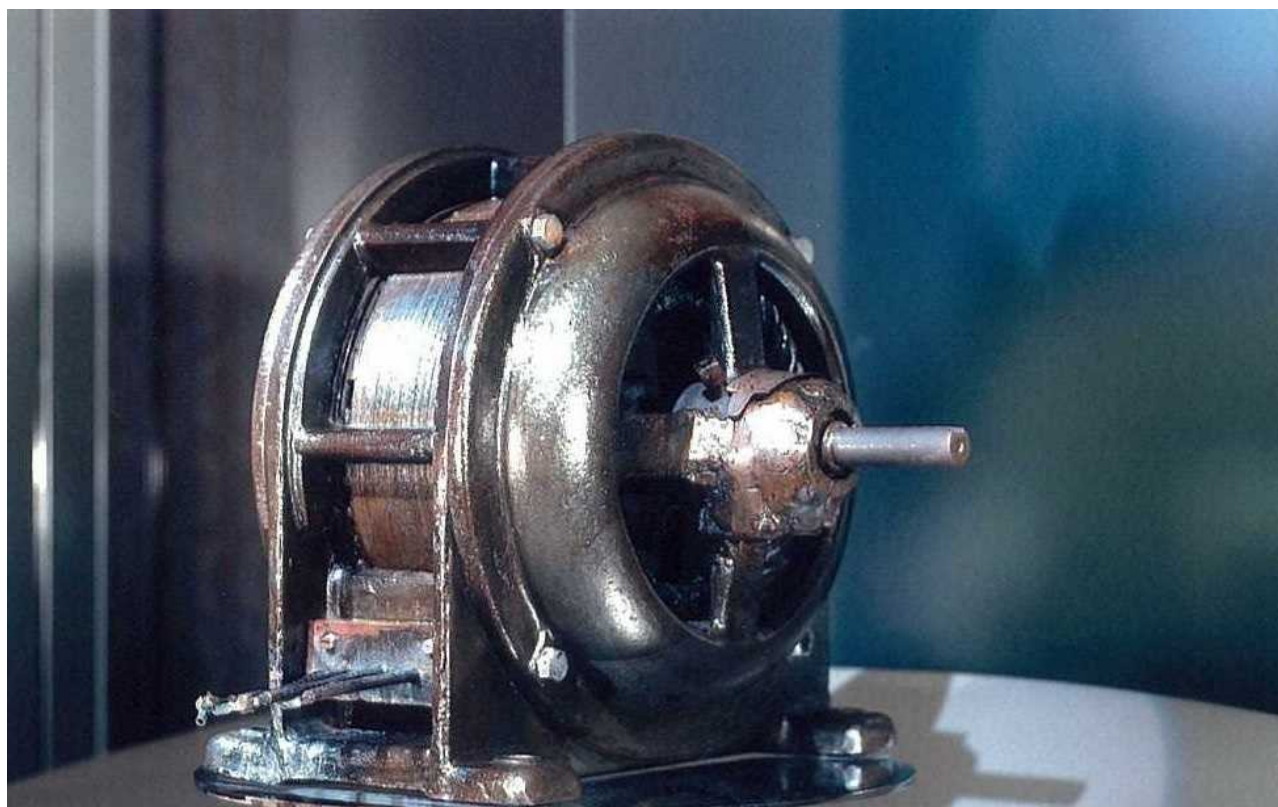
誘導電動機は、磁場と電流の相互作用による力を利用して回転運動を起こす交流電動機で、本機のようなご形ごがたの誘導電動機は始動回転速度が大きく回転速度の制御が容易である。銘板によれば本機は五馬力、440ボルト、60ヘルツ、4極、毎分1760回転の電動機である。五馬力誘導電動機は小型工作機械の動力として一般的によく用いられ、日立製作所が創業期に製作した誘導電動機の中でも多数を占めた。

本機が製造以後どのように運用されてきたかは不明であるが、本機とその同型機は主に日立鋳山内の小型ポンプや送風機の動力等の用途に幅広く利用されたことが推測される。昭和31年(1956)に日立市に小平記念館が開館するに当たり、本機は同館の創業製品室において展示された。令和3年(2021)の日立オリジンパーク開場後は、同施設に移管された。

所蔵者のもとには本型式の電動機に付随する設計図面5枚がともに保存されている。いずれもトレーシングクロスろく(蠟引きの絹布)に墨で描写されており、コンパス孔が見られる。「トレース原図」として日立製作所内で厳重に保管されてきた。本型式の製造時のありようをうかがうことのできる貴重な設計図面、かつ日立鋳山工作課で製作された最初期の設計図面であり、附として併せて保存を図る。

本機は我が国に現存する最古の国産誘導電動機である。現在に至るまで、国産の産業用誘導電動機は小型化・軽量化・高効率化を目指した製品開発が続けられており、本機はその原点に位置付けることができる。電気機械の国産化の礎を築いた機械として、電気機械工学史、産業技術史上に貴重である。

(文化庁文化財第一課「新指定の文化財－美術工芸品－」『月刊文化財』令和5年1月号、第一法規より転載)



五馬力誘導電動機

【写真提供 日立オリジンパーク】

## (5) 国指定史跡

### 十五郎穴横穴群

指定日 令和6年2月21日

所在地 ひたちなか市中根字館出

3490番1ほか27筆

面積 56,781.90㎡

管理者 ひたちなか市

十五郎穴横穴群は、関東平野の北縁、太平洋に東流する那珂川の支流である大川と本郷川に挟まれた舌状台地南端部に位置する横穴墓群である。7世紀前葉に造営が始まり、9世紀前葉まで追葬で使用された。横穴墓は那珂川の河口を眺望できる台地の東端崖面に造られており、那珂川河口を意識して築造されたとみられている。また、横穴墓群は谷により大きく3つの支群に分けられ、北端台地は「指洪支群」、南側台地は「館出支群」、西方台地は「笠谷支群」と呼ばれている。

台地上には十五郎穴横穴群との関連をうかがわせる古墳が展開する。指洪支群の台地上には、7世紀前葉築造の墳長約56メートルの前方後円墳である史跡虎塚古墳が、館出支群の台地上には、横穴墓の後背墳丘であるI区墳丘が所在する。これは、かつて虎塚古墳群2号墳と呼ばれていたが、発掘調査の結果、古墳ではないことが判明している。笠谷支群の台地上には、6世紀後葉築造の墳長約43メートルの前方後円墳である笠谷第6号墳、7世紀前葉築造の墳長約28メートルの前方後円墳である笠谷第7号墳と複数の円墳で構成される笠谷古墳群が所在する。

十五郎穴横穴群の存在は古くは江戸時代から知られており、昭和25年(1950)には井上義による発掘調査が、昭和51～55年には明治大学による発掘調査が実施されていたが、遺跡の範囲や横穴墓の基数等、不明な点も多かった。そこで、ひたちなか市教育委員会は平成20年(2008)度から、指洪支群、館出支群、笠谷支群の順に三次元微地形測量調査を行い、平成22年度から発掘調査を実施した。

指洪支群では、明治大学の調査によって、120基の横穴墓が確認されるとともに、横穴墓が標高5メートルから10メートルの間に集中すること、7世紀から8世紀までの玄室形態がみられること、前庭部から7世紀後半から8世紀代の須恵器や、玄室からガラス小玉・丸玉・切子玉等が出土することなどが知られていた。今回のひたちなか市教育委員会の調査の結果、新たに2基の横穴墓を確認し、総数122基となった。加えて、北端で指洪支群II区第121号墓を確認したことにより、十五郎穴横穴群全体の北端が確定した。また、築造時期が7世紀前葉まで遡る玄室構造がドーム形となる指洪支群VI区第81号墓や、7世紀中葉の須恵器フラスコ形長頸瓶が出土した指洪支群II区第121号墓等を新たに確認した。

館出支群では、同支群北部で横穴墓34基が露出しており、昭和15年には「十五郎穴」として茨城県指定史跡となっている。このうち、館出支群I区第32・第33号墓は、井上義によって発掘調査が行われた横穴墓で、第32号墓からは墓前域に蔵骨器を含む多数の須恵器と、玄室内から直刀などが出土し

た。直刀は正倉院宝物の「黒作大刀」<sup>くろつくりのたち</sup>との類似性が指摘されている。第33号墓からは、墓前域から須恵器、玄室内から火葬骨や鉄鏃<sup>てつぞく</sup>などが出土した。ひたちなか市教育委員会の調査の結果、これまで確認されていた45基に加え、新たに52基を確認したことにより、横穴墓の合計は97基となった。また、新たに発見された館出支群Ⅰ区第35号墓からは蕨手刀<sup>わらびてとう</sup>と正倉院宝物に類例のある金銅装の刀子<sup>とうす</sup>、唐櫃<sup>からひつ</sup>の存在を示唆する漆が付着する鉄釘などが出土した。さらに、玄室構造がドーム形の館出支群Ⅰ区第33号墓や玄室構造が平天井形の館出支群Ⅶ区第3号墓が、7世紀前葉まで遡ることも確認された。

笠谷支群では、これまで知られていた16基に加え、新たに39基を確認したことにより、横穴墓の合計は55基となった。支群の西端で笠谷支群Ⅷ区第4号墓を確認したことで、十五郎穴横穴群全体の西南端が確定した。玄室構造がドーム形の笠谷支群Ⅵ区第1号墓は、7世紀前葉まで遡る横穴墓と考えられる。

これまでの調査で十五郎穴横穴群では274基の横穴墓が確認されている。ただしこれらは、開口しているものと、発掘調査により把握できたものに限った数であり、表土除去による悉皆調査<sup>しつぱい</sup>が行われた指洪支群の南端崖面の分布状況から推定すると、支群ごとの推定基数は、指洪支群149基、館出支群210基、笠谷支群162基となり、総数は521基となる。東日本で確認されている大規模な横穴墓群には、318基が確認され、推定総数が500基を超える福島県双葉町の清戸迫横穴群<sup>きよとさくよこあな</sup>、219基が確認されている埼玉県吉見町の史跡吉見百穴<sup>よしみまち</sup>があり、十五郎穴横穴群はこれらと並ぶ東日本最大級の横穴墓群となる。

また、玄室構造から7世紀前葉に築造されたと考えられる横穴墓が各支群において確認されたことで、各支群の造営がほぼ同時期に始まったことが判明した。一方、初現期の横穴墓でも支群ごとにそれぞれ玄室構造などの形態が異なることが明らかになり、これは支群により造墓集団が異なる可能性を示している。さらに、横穴墓群は7世紀前葉から8世紀中頃、遅くとも8世紀後半まで造られ、9世紀前葉まで追葬で使用されていることが確認されており、このことは古墳時代終末期から平安時代に至るまでの集団の展開を知る上で重要である。

なお、横穴墓群の造墓集団は、この地が那珂川、潤沼川水系<sup>ひぬまがわ</sup>と太平洋との結節点として内水面と外洋とをつなぐ交通の要衝である点や、館出支群Ⅰ区第35号墓の蕨手刀や刀子、唐櫃を示唆する鉄製品などの出土品を考慮すれば、古墳時代終末期から平安時代にかけての国家による対東北政策と関係した集団である可能性が考えられる。

横穴墓と台地上に築造された首長墳<sup>しゅちやうふん</sup>と考えられる前方後円墳との関係が一様ではない点も特徴である。指洪支群では、台地上で最初の前方後円墳である虎塚古墳の築造とほぼ同時期に横穴墓の造営が始まるが、館出支群では、古墳は築造されず、後背墳丘をもつ横穴墓が造られる。一方、笠谷支群では、台地上で最初の前方後円墳である笠谷第6号墳に遅れて、後続する笠谷第7号墳とほぼ同時期に、横穴墓の造営が開始する。この多様さは、横穴墓の造墓集団と首長層の関係や、造墓集団間<sup>しゅちやうふん</sup>の関係を考える上で重要である。

なお、横穴墓の形態については、豊後地域に類例があるものや、肥後地域に源流があり、房総半島を中



心とした南関東地域との関連をうかがわせるコの字形屍床をもつものなどがあり、複数の地域に系譜をもつ可能性が指摘されている。

以上のように、十五郎穴横穴群は、7世紀前葉に造営が始まり、9世紀前葉まで追葬で使用された東日本最大級の横穴墓群であり、古墳時代終末期から平安時代初頭の東日本社会を考える上で重要である。よって史跡に指定して、保護を図ろうとするものである。

(文化庁文化財第二課「新指定の文化財－記念物－」『月刊文化財』令和6年1月号、第一法規より転載)



十五郎穴横穴群 指浜支群

【写真提供：ひたちなか市教育委員会】

## 2 令和5年度に指定された 県指定文化財

## (1) 茨城県指定有形文化財 絵画

### 絵第83号

けんぼんちやくしよくあみだによらいらいごうず  
絹本 著色阿弥陀如来来迎図 1幅

指定日 令和5年12月28日

所在地 茨城県笠間市笠間350

所有者 宗教法人月崇寺

#### 1 法量

縦119.2cm 横50.6cm

#### 2 製作年代

鎌倉時代(13世紀～14世紀)

#### 3 説明

継ぎ目の確認できない一枚物の平織の絹に描かれた斜め向きの金色の阿弥陀如来の立像である。右下には檜皮葺の建物があり、内部に複数の人物が見える。

如来の肉身は白色下地に金泥を塗る。衣は白色地に截金で雷文繫ぎ文、麻葉繫ぎ文、華唐草文が表され、部分的に色隈が施される。全般的に丁寧で柔らかな描写がなされ、古様さがある。絵画として優れた作品であり芸術的価値が高い。全般的に古様な雰囲気を持ち、白色下地の使用は13世紀の制作を伺わせる一方、上唇と下唇の合わせ目に濃墨線の下部に金泥で暈しを入れたり、館の扉を灰色に塗ったり14世紀の作例と近い表現も指摘できる。鎌倉時代、13世紀から14世紀の制作と考えられる。阿弥陀如来の姿は画面に対してやや大きく、あるいは左端、上部、下部を切り詰めた可能性がある。

『無量寿経』第十九願は往生時の阿弥陀仏の現前を説くが、来迎するとは記していない。寛和元年(985)に源信が浄土思想に関するさまざまな文献を集めた『往生要集』を著し、以後浄土信仰が広まり、阿弥陀如来が西方極楽浄土より往生者を迎えにくるさまを描く来迎図が成立した。本図の建物内には須弥壇、厨子らしきものが見え、往生者ではなく修行者が一心に念ずることによって阿弥陀仏が現前するさまを表すという解釈から「現前図」と称されてきた。本図の阿弥陀如来は、右手を胸前で屈臂し、左手は体側に垂下して、それぞれ第一、二指を捻じて「来迎印」を結んでいる。頭部からは来迎図によく見られる放射光が放たれ、足元には来迎図によく見られる踏割蓮華だが来迎雲はない。来迎図には、踏割蓮華があつて来迎雲がない作例もあるが、下部が切り詰められている可能性もある。本図の成立に来迎図が深く関係していることは疑いなく、来迎図として受容されるものである。

光学調査、蛍光X線を用いた調査により、光り輝く体から極彩色の頭光が広がるきらびやかな姿をしていたことが判明した。左手首に腕輪のようなものがあるが、阿弥陀如来は装飾品をまとわないことが通例であるため、今後の検討を待ちたい。ボーンホワイト、水銀朱、鉛丹、石黄、レッドオーカー、金等の使用が確認できる。

参考文献

濱田隆『来迎図』（『日本の美術』273、至文堂、平成元年1月）

『茨城の仏教美術』展図録、茨城県立歴史館、平成8年10月

※ 様式、年代判定については沖松健次郎氏（東京国立博物館）の協力を得た。

（茨城県文化財保護審議会 伊藤 紫織 委員）



全図

# 1614 (肉身)

検出元素：Ca, S, P, Si, Al, Au, Pb, As

顔料：金泥、鉛丹・石黄、石灰・リン灰石・白土



# 1588 (手首・黒, 白)

検出元素：Ca, Si, S, Al

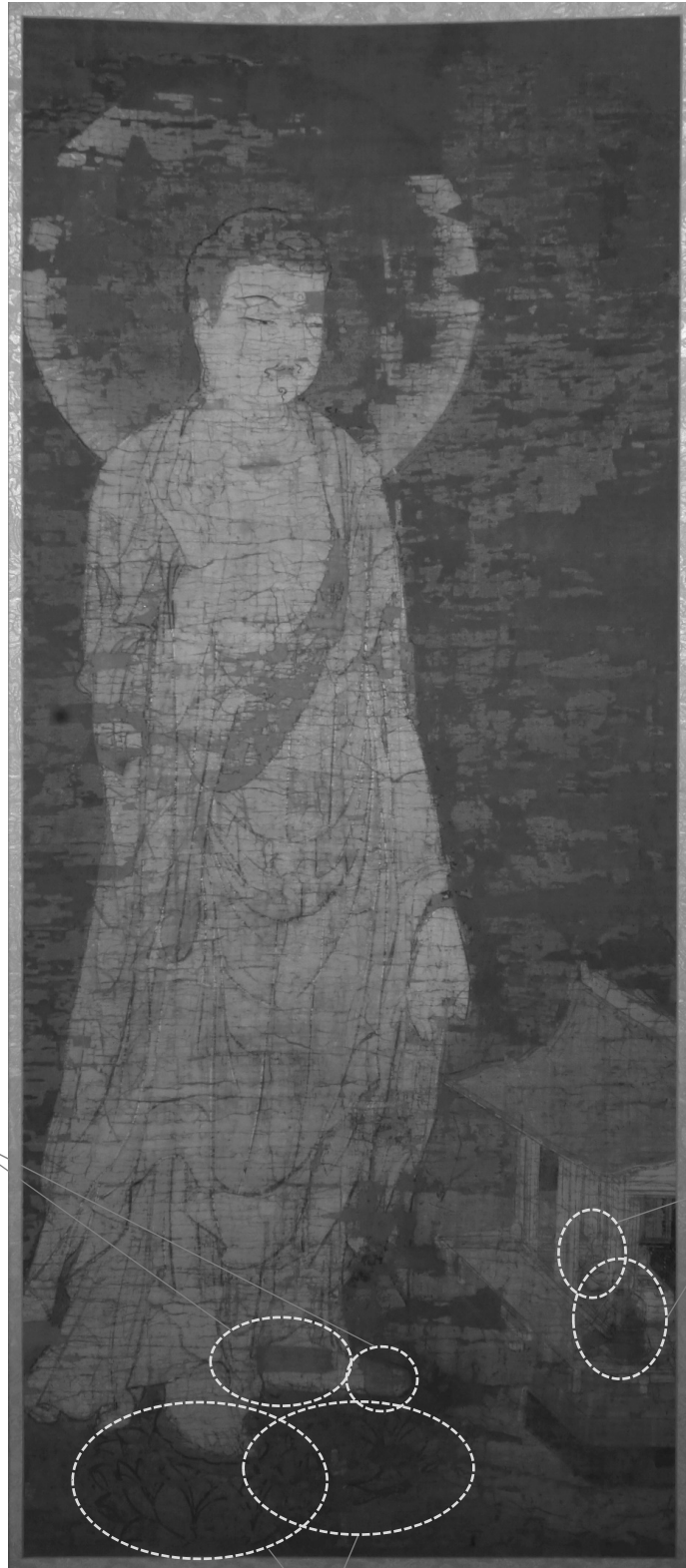
顔料：石灰・リン灰石、白土

# 1589 (手首・白, 金)

検出元素：Ca, Si, Al, S, P, Pb, Mg, As, Cl, Au

顔料：金泥、鉛丹・石黄、石灰・リン灰石・白土

IRR (Infrared Reflected) (画像加工)  
赤外線を照射し，赤外線領域で観察



補修？

人物2人？

蓮弁2輪

## (2) 茨城県指定有形文化財 古文書

### 古第10号

さいしよもんじよ やまとぼん  
税所文書 (山戸本) 86点

指定日 令和5年12月28日

所在地 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町

所有者 個人

本文書(以下、山戸本)は、平成27年(2015)1月22日に県指定有形文化財となった税所文書(19点〔第1帖〕、石岡市個人蔵。以下、山本本)と本来一具(全3帖)のもので、装丁も文化4年(1807)水戸藩儒立原翠軒が仕立てた折帖2帖に貼付された文書86点である。翠軒は税所文書の散逸を防ぐため、概ね年代順に文書を配列貼付した折帖3帖を手ずから仕立て、自筆の題箋を付し税所家に返却した。山本本たる第1帖には主として鎌倉期～南北朝期の文書(19点)が、山戸本の第2帖には南北朝期～戦国期の文書(50点、一部江戸期)が、第3帖には江戸期の文書(36点)がそれぞれの折帖の表裏に貼付されている。

税所とは済所とも書き、古代律令国家の地方支配の拠点であった国衙機構に置かれた徴税等を行う機関名であったが、のちそれを担う在庁官人がその職務を独占的に請負うことによりその官人の名字と化した。ここにとりあげる税所文書を伝えた税所氏は、その典型である。税所氏は、律令時代には百済姓であったが、鎌倉期に至り常陸平氏の大掾氏のもとで一族化し、以降大掾氏と歩みをともにしたと考えられる。大掾氏は、常陸一国の徴税という特殊技能を有する税所氏の重要性を認識していたのであろう。こうした税所氏のもつ徴税機能は、概ね室町期まで維持されたようである。一族である大掾氏は戦国末期に滅亡するが、税所氏は江戸期を迎えたのである。

ちなみに、第1帖の山本本に鎌倉期の弘安2年(1279)の内容を伝える常陸国内の田数を記した作田惣勘文注進状案(大田文ともいう)が伝わり、また平安末期以降真壁郡を領した真壁氏のもとに伝えられたとされる嘉元4年(1306)の大田文案には「税所殿よりの田文案文」という端裏書があり、税所氏が常陸国一国の大田文を掌握していたことは確実である。

このたび県指定となった山戸本の特筆すべき第一点目は、これら大田文を課税の基礎台帳として南北朝期～室町期にかけて賦課された役夫工米(やくぶくまい)の徴収方法の具体的なあり方を示す文書が多いという点にある。ちなみに、第1帖の山本本にも同様の関係文書が伝わっており、山戸本第2帖にみえる文書と本来一体のものであることは明らかである。

すなわち、これらの文書群によって、律令国家の地方支配の拠点であった国衙機構が鎌倉幕府の地方支配に継承され、かつ南北朝～室町期に至っても、国役としての役夫工米の徴収に、在庁官人の系譜を引く税所氏が大きく関与している実態を、具体的に知ることができるところとなる。この文書が「国衙文書」あるいは「国府文書」と称される所以である。

役夫工米とは、正しくは「造大神宮役夫工米」といい、伊勢神宮の20年に一度の遷宮費用として諸国

の公領・荘園に賦課される臨時課役をいう。当初は伊勢国周辺諸国の負担であったが、11世紀頃から全国的な規模となり、鎌倉期～戦国期に至るまで、その都度賦課されたのである。第2帖に所収される第20、25～29、32、34号文書は、役夫工米賦課・徴収に関わるものである。これらの文書によって、役夫工米徴収のため伊勢神宮より大使とよばれる担当者が派遣され、税所氏のような徴税を職務とする官人との交渉を通して、切手郷と称する地域の設定や徴収などを行っていたことを知ることができる。その前提には、税所氏保持の大田文やそこに記された国内田数の把握があったが、実際には賦課対象地を領有する現地の領主層との交渉や徴税の実現など様々な困難はあったであろう。また、切手郷の実態は不明な点が多いが、役夫工米を賦課あるいはその得分所在の郷を指すのであろうか。

ほかには常陸国一宮鹿島社の祭礼である大使役関係の室町期～戦国期の史料（第37、38、48号ほか）、鹿島社大宮司との遣り取り（第1、2号ほか）、周辺領主との遣り取り（第40、42、45号ほか）を示すものなど、室町期～戦国期にかけての常陸国周辺の宗教的・政治的状況を知りうる重要な文書も含まれている。さらに第16号は、江戸期の写ながら大掾詮国が奉行所あてに大田文の写を進上した際の手紙と考えられ、延文6年（1361）という時期に大田文の進上を命じた主体を確定することはできないが、甚だ興味深い内容を有する文書である。

第3帖には、江戸前期以降の税所氏の様子を示す文書が所収されており、これが特質すべき第二点目である。江戸期の税所家は、常陸府中の名家として存在したと考えられるが、残された文書の内容は、主として税所氏開基と伝えられる菩提寺万福寺の住職に関わるもの（第8～14号）、税所家の屋敷・土地に関わる売買やその権利に関わるもの（第1～4号ほか）、同家の由緒書（第26号）・系図（第36号）・過去帳写（第6号）など、江戸期の税所家の存在形態を示すものである。

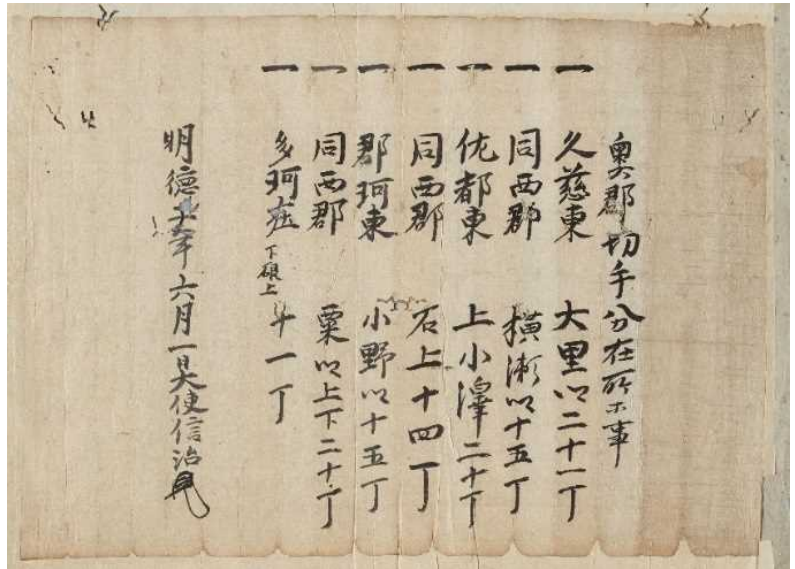
税所家の継承に関しては、われわれが知ることでない様々な状況があったと思われるが、律令官人の末裔として平安末期から戦国期にかけて税所氏を名乗り、関係の古文書を伝来させた営為は高く評価され、また同家の江戸期の姿を知ることができる点も注目すべきことである。紆余曲折はあったと思われるが律令官人の系譜を引く家を江戸期に至るまで継承した例は珍しく、南北朝から江戸期に至る文書を含む山戸本は極めて貴重で、今回の山戸本の指定によって、改めて山本本と一具の文書群としての税所文書の学術的関心を高めるところとなるであろう。

なお、本文書は茨城県立歴史館に寄託され、所定の手続きにより写真帳（原本保護のため）での閲覧が可能で、その利用については広く開かれている状況にある。関連する学術利刊行物については、『茨城県古文書集成 第二』（1962年）・『茨城県史料 中世編 I・II』（1970年、1974年）・『茨城県立歴史館史料叢書22 税所文書・芹沢文書・鳥名本文書』（2019年）などがある。

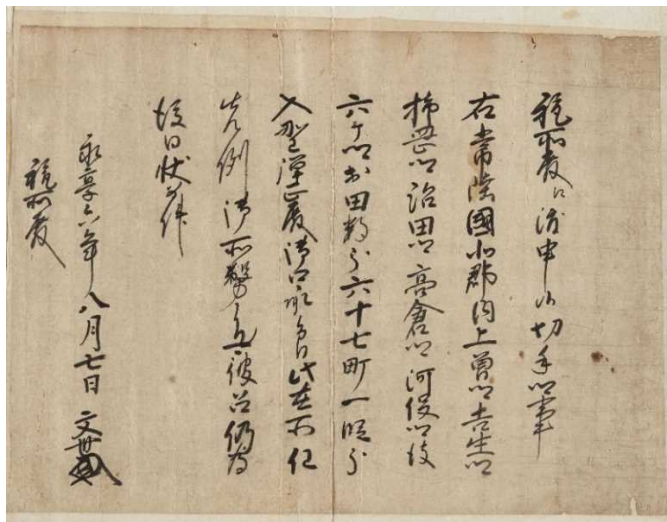




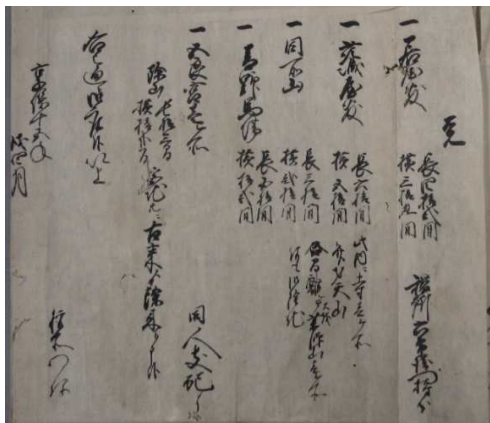
第2帖 表紙(立原翠軒筆)



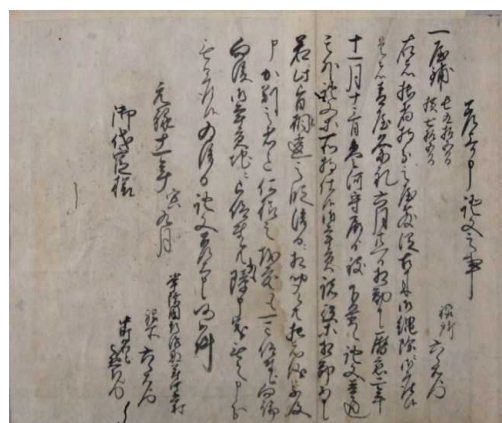
明德2年(1391)6月1日 奥郡切手分在所等注文(第2帖20号)



永享6年(1434)8月7日 役夫工米大使一志文世安堵状(第2帖27号)



享保15年(1730)4月 覚(第3帖2号)



元禄11年(1698)9月 差上ケ申証文之事(第3帖25号)

【写真提供 茨城県立歴史館】

税所文書(山戸本) 略目録						
第2帖						
通番号	枝番	年号(西暦)等	月	日	文書名	員数
1	2-1	(年未詳)	10月	17日	大宮司中臣則道書状	1通
2	2-2	(年未詳)	7月	7日	大宮司中臣則道書状	1通
3	2-3	(年未詳)	5月	11日	某書状	1通
4	2-4	(年月日未詳)		15日	某消息	1通
5	2-5	(年月日未詳)			税所各代々氏神	1通
6	2-6	天正4年(1576)	6月	吉日	鹿島社参次第覚書	1通
7	2-7	(年未詳)	11月	12日	横澤五郎兵衛盛治書状	1通
8	2-8	(年未詳)			社参式	1通
9	2-9	宝永1年(1704)	12月	吉日	社参次第	1通
10	2-10	(年月日未詳)			奉幣次第	1通
11	2-11	(年月日未詳)			百濟税所氏系図	1通
12	2-12	(年月日未詳)			桓武平氏系図	1通
13	2-13	天文4年(1535)	2月	吉日	坂和之名代之事	1通
14	2-14	(年未詳)	2月	28日	植栗詮高書状	1通
15	2-15	(年未詳)	2月	28日	植栗詮高書状写	1通
16	2-16	延文6年(1361)	5月	3日	大掾詮国書状写	1通
17	2-17	応永4年(1397)	8月		笠間家朝訴状写	1通
18	2-18	(年未詳)	11月	19日	税所国詮置文写	1通
19	2-19	応永5年(1398)	1月	20日	在家・田島四至境注文案	1通
20	2-20	明德2年(1391)	6月	1日	奥郡切手分在所等注文	1通
21	2-21	応永12年(1405)	10月	3日	真言院支配在所注文	1通
22	2-22	応永13年(1406)	閏6月	7日	有氏文書借状	1通
23	2-23	応永17年(1410)	12月	13日	江橋某沽却地打渡状	1通
24	2-24	応永28年(1421)	11月	6日	大掾満幹安堵状	1通
25	2-25	正長2年(1429)	8月	10日	役夫工米大使一志文世書状	1通
26	2-26	永享6年(1434)	8月	7日	役夫工米大使一志文世安堵状案	1通
27	2-27	永享6年(1434)	8月	7日	役夫工米大使一志文世安堵状	1通
28	2-28	永享6年(1434)	8月	10日	役夫工米大使一志文世安堵状案	1通
29	2-29	(年月日未詳)			常陸国切手郷切手員数注文	1通
30	2-30	嘉吉1年(1441)	3月	8日	上杉清方書状	1通
31	2-31	嘉吉2年(1442)	1月	15日	常陸国留守所下文	1通

通番号	枝番	年号（西暦）等	月	日	文書名	員数
32	2-32	文安5年（1448）	5月	21日	役夫工米大使一志文世相博状	1通
33	2-33	（年未詳）	12月	21日	室田範長書状案	1通
34	2-34	（年月日未詳）			常陸国行方・鹿島郡切手郷注文	1通
35	2-35	享徳14年（1465）	4月	5日	勘解由次官成康奉書	1通
36	2-36	享徳14年（1465）	3月	14日	勘解由次官成康奉書	1通
37	2-37	天文21年（1552）			大使神役用途注文	1通
38	2-38	元龜3年（1572）	6月	3日	鹿島社七月祭大使職差定	1通
39	2-39	（年未詳）	10月	4日	勘解由次官成康書状案	1通
40	2-40	（年未詳）	11月	9日	鹿島幹胤書状	1通
41	2-41	（年未詳）	6月	11日	常陸国国宣	1通
42	2-42	（年未詳）	1月	28日	平久幹書状	1通
43	2-43	（年未詳）	7月	25日	民部丞真壁朝幹書状	1通
44	2-44	（年未詳）	3月		鹿島社国司代平頼詮書状案	1通
45	2-45	（年未詳）	2月	22日	沙弥浄康書状	1通
46	2-46	（年未詳）	6月	1日	玉造辰勝書状案	1通
47	2-47	（年未詳）	7月	5日	鹿島社家衆・供分衆連署書状	1通
48	2-48	（年月日未詳）			鹿島大使役神物注文（後欠）	1通
49	2-49	（年未詳）	7月	7日	鹿島某書状	1通
50	2-50	（年未詳）	10月	17日	鹿島某書状	1通
第3帖						
通番号	枝番	年号（西暦）等	月	日	文書名	員数
51	3-1	享保6年（1721）	7月		指上申寺社御除地書付	1通
52	3-2	享保15年（1730）	4月		覚	1通
53	3-3	正徳5年（1715）	11月	6日	覚下書	1通
54	3-4	（年月日未詳）			差上申証文之事下書	1通
55	3-5	（年月日未詳）			光林山万福寺開基覚	1通
56	3-6	（年月日未詳）			万福寺過去帳	1通
57	3-7	（年未詳）	2月	7日	海源寺書状	1通
58	3-8	享保12年（1727）	11月		乍恐以書付奉願上候事	1通
59	3-9	享保12年（1727）	11月		乍恐以書付奉願後住之事	1通
60	3-10	寛保1年（1741）	4月		乍恐以書付奉願上候事	1通
61	3-11	寛保1年（1741）	4月		乍恐書付を以奉願上候事	1通
62	3-12	明和2年（1765）	8月		乍恐以書付住職之儀奉願候事	1通

通番号	枝番	年号（西暦）等	月	日	文書名	員数
63	3-13	明和2年（1765）	8月		乍恐以書付奉願上候事	1通
64	3-14	（年月日未詳）			乍恐以書付後住願上申候事	1通
65	3-15	天和2年（1682）	5月		切支丹訴人高札写	1通
66	3-16	文政10年（1827）	8月		指上置申一札之事	1通
67	3-17	嘉永1年（1848）	8月		御侘申一札之事	1通
68	3-18	（年月日未詳）			日本紀口伝三種神器	1通
69	3-19	（年月日未詳）			日本紀神代之卷上卷二見タリ	1通
70	3-20	宝暦13年（1763）	6月	21日	無上六根清浄大祓詞	1通
71	3-21	（年月日未詳）			税所氏除地書上	1通
72	3-22	（年未詳）	5月	28日	乍恐由緒口上書差上候事	1通
73	3-23	元禄15年（1702）	4月	11日	乍恐以願書申上候御事	1通
74	3-24	元禄11年（1698）	9月		指上ケ申証文之事	1通
75	3-25	元禄11年（1698）	9月		差上ケ申証文之事	1通
76	3-26	（年月日未詳）			税所家由緒書写	1通
77	3-27	正徳5年（1715）	11月	7日	指上申寺社御除地書付之覚	1通
78	3-28	享保6年（1721）	7月		指上申寺社御除地書付之覚	1通
79	3-29	宝暦10年（1760）	6月		乍恐以書付奉願上候事	1通
80	3-30	（年未詳）	7月	16日	井坂茂二郎書状	1通
81	3-31	寛文1年（1661）	12月	21日	相渡申手形之事	1通
82	3-32	寛文2年（1662）	4月	13日	売渡し申屋敷地之事	1通
83	3-33	寛文7年（1667）	2月	6日	売渡し申屋敷地之事	1通
84	3-34	元禄11年（1698）	9月		差上ケ申証文之事	1通
85	3-35	貞享4年（1687）	2月	14日	売渡し申畠之事	1通
86	3-36	（年月日未詳）			税所氏系図	1通

（茨城県文化財保護審議会 小森 正明 委員）

### (3) 茨城県指定無形民俗文化財

#### 無民第37号

なかだえいたいだいだいかぐら  
中田永代太々神楽

指定日 令和5年12月28日

所在地 茨城県古河市中田1337-6

所有者 古河神楽保存会

#### 概要

神楽は、素面での舞と面をつけた黙劇で構成され、神社の神楽殿かぐらでんで囃子とともに奉納される神事芸能である。茨城県下の神楽の大半は、県西地域と県南地域に集中している。これらは流派や演目の内容により、「太々神楽」「大々神楽」「十二座神楽」「岩戸神楽」「里神楽」と呼ばれている。古河市の中田永代太々神楽も同様に、「太々神楽」「磐戸神楽」「十二座神楽」「古河神楽」等の別称を持つ。出雲流神楽の系譜とされ、記紀神話に登場する神々が幣、鈴、刀、鉾、弓などの採り物を持ち、祈祷の舞や黙劇を演じる。古河神楽保存会には、複数の神楽面と装束などの有形資料が残されており、これらの調査結果から、江戸時代後期には神楽が執行されていたことが裏付けられた。

#### 実施期日ならびに場所

毎年4月第3日曜日に開催される鶴峯八幡神社つるがみね（古河市中田）の春例祭のほか、毎年4月第2日曜日にも雀神社（古河市宮前町）例祭で実施される。鶴峯八幡神社では、神社境内の神楽殿にて神職により神事が行われた後、十二座の神楽が4時間にわたり奉納される。

#### 由来・歴史

神楽の起源については、「享保10（1725）年3月10日に五穀豊穰、家内安全、社会の安寧等の祈願のためにはじめられた」との伝承のほか、「有力者の病気平癒を祝して神楽奉納を行った」、「近在の神職によって奉納された」など複数の伝承がある。この地域の18世紀における太々神楽の状況がわかる史料「野木宮大々神楽取立修行之記」には、古河市八幡神社神主の吉羽出羽親子が神楽を指南し、旧中田町や旧大和田村の社家が関与していたとある。さらに鷲神社所蔵「鷲神社誌」には、宝暦10（1760）年3月10日に、名主の斎藤所左衛門を願主、当時の神主鮎川撰津守を斎主とし、鶴峯八幡神社の高橋大和守のほか、宗任神社むねとう、大宝八幡神社たいてい、鷲神社、八幡神社など複数の神主が参集し神楽を執行していたと記録している。

当該神楽保存会が所蔵する「只今に至りては八幡神社永代大々神楽保存会（昭和四年十二月中田永代太々神楽保存会規約）」には、「当八幡社に於ける永代大々神楽の起りは不詳なれ共」「安政年間（1855-1860）の大飢饉年には氏子より奉納困難に付きある篤志家一人にて奉納仕り」と記されている。これらは、関東地方における十二座神楽が、祈願者の希望により座を組み、神職が舞うという奉納神楽の特徴

を有してきたことを、客観的に裏付ける資料であると言える。

さらに当該規約には、当時すでに「神楽手不足となり執行困難の状態に之有り」、八幡神社で何十年と執行奉納しており、一人が欠けると執行困難の状態となり、中絶は大変遺憾であるため、同じ志を持った有志を募り永代大々神楽保存会を組織したという経緯が記述されている。よって、保存会結成の前後、すなわち大正時代後期から昭和初期にかけて、太々神楽の担い手は神職から神社氏子へと次第に移行したとみられる。

当該神楽の特徴は、近世から大正時代初期にかけて、現在の古河市をはじめとする旧猿島地域を含む社家と神社神職による神楽執行組織が、協働的に十二座神楽の各演目を継承してきたという点であり、製作年代がわかる史料とともに墨書銘を持つ複数の面と装束は、当該神楽が貴重な文化財であることの傍証になる。

### 組織と演目と芸態

十二座構成の中田永代太々神楽は、古河神楽保存会が中心となり伝承している。近年では、児童・生徒の後継者養成に注力し積極的に継承活動を行っており、鶴峯八幡神社と古河神楽保存会が協力し次世代の担い手を育成している。

現在、十二座すべての演目が上演可能である。当該神楽は、古河市の無形文化財第1号として昭和49(1974)年5月23日に指定されたが、現行演目名が当時と異なるため、以下、市指定時の演目名と現行演目名を併記する。

- 一座 奉幣の舞／幣舞 (国常立神)
- 二座 五行の舞／五行の舞 (高御産巢日之神、神産巢日之神、天之常立神、国常立神、  
宇摩志阿備比古遲神)
- 三座 那岐那美舞／諾冊 (伊邪那伎命・伊邪那美命)
- 四座 翁の舞／翁 (思兼命)
- 五座 猿田の舞／猿田 (猿田彦命)
- 六座 墓目の舞／墓目 (天稚彦命)
- 七座 狐の舞／天狐・白狐
- 八座 正稻荷 (宇迦之御魂命)
- 九座 釣の舞／蛭子 (事代主命)
- 十座 尉の舞 (天兒屋根之命・天太玉之命)
- 十一座 岩戸関の舞／岩戸開きの舞 (天鈿女命・手力男之命)
- 十二座 山神の舞／山祇 (大山祇之命)

神楽執行は、装束、素面あるいは神楽面を身につけ、幣束、鉾、刀、神楽鈴などの採り物を持つ。各座の基本構成は、出立ちの舞で始まり、手の所作を繰り返す四方舞、八方舞と続き、最後に神楽鈴を手にして神楽舞で締めくくる。様式化された所作に特徴がある。採り物は最後に神前に供える。

第一座は素面の神主が舞う。右手に鈴、左手に幣束を持ち、国常立神が四方固めを行う(15分)。第二座は幣束を手に、烏帽子、狩衣姿の四人(素面)が神楽殿を右回りに回りながら舞う(10分)。

第三座は神楽面をつけた伊邪那伎と伊邪那美の婚儀の場面である。神楽殿中央の八尋殿に見立てた黄

色い幣束を挟み、二柱の神が対座し相互に問答する。この間、囃子は演奏しない(10分)。第四座では、翁面の神の一人舞で、大口袴、千草、頭巾を身につけ、太刀を持って舞う。まず出立ちで太刀を抜き、四方に向かい剣で穢れを振り払う(15分)。第五座では、天孫降臨の際に導き役として登場する猿田彦が、天狗面に鉾を持ち荒々しい所作で舞う(15分)。

第六座は、弓の名人の天稚彦命が登場する。弓と矢を持ち、切れのある早い動きで舞いながら、四方に矢を射る所作を繰り返す。墓目の面は、享保16(1731)年の墨書を持つ(約10分)。第七座では、稲荷神の眷属である天狐と白狐が田を耕し、種を撒き、仲睦まじい連れ舞を披露する(25分)。

第八座では、狐の撒いた種が無事に実り、稲を刈り取る様子を宇迦之御魂命が舞う。右手に鎌、左手に稲穂を掴み、無事に稲刈りができたことに感謝する(10分)。第九座は、蛭子が鯛を釣る黙劇である。蛭子が神楽殿から切り餅をつけた釣り糸を垂らし、観客がそれを引き、おひねりと作り物の鯛を挟むと、蛭子が釣り上げるという場面である(20分)。第十座は、黒色尉のような面をつけ青い幣束を持った天児屋根之命と、白色尉のような面をつけ白い幣束を持った天太玉之命が祝詞を奏上し、天照大御神が姿を現すよう祈る(15分)。

第十一座は岩戸開きの場面である。天照大御神が隠れた岩戸の前で、天鈿女命が舞い、手力男命が岩戸を押し開く。その後、手力男命が岩戸から鏡を取り出し、鏡を受け取った天鈿女命が舞い、最後に手力男命が幣束を持ち舞う(30分)。

第十二座の山神の舞は、大山祇命が豊作を祝う。三つ目の面をつけた大山祇命が登場し、神楽殿から観衆に餅を投げて場を和ませる。黒く塗られた面の眉間には金色の第三の目が異様な光を放つ。質素な衣装を身につけ、榊で地面を叩く、あるいは祓う所作が特徴的である(5分)。

## 神楽面と装束

当該神楽の由来には複数の伝承があり、客観的な実証が困難なため、無形民俗文化財に伴う有形資料の重要性に着目し、神楽面14面、装束12件を調査した。

神楽面14面はいずれも18世紀と19世紀の作であった。そのうち六座の墓目の舞(天稚彦命)を除く13面には、昭和61年(1986)に彩色が新たに施されたため当初の造形は不明であるが、七座の天狐面以外の面は面裏が当初のままで削りの様子もわかり、墨書銘により制作年代の推定が可能であった。八座の宇迦之御魂命と十座の天児屋根之命は、能面の面打の作とみられる。さらに、六座の天稚彦命(1731年奉納)、八座の宇迦之御魂命(1769年奉納)、七座の白狐(1777年奉納)、五座の猿田彦命(1780年奉納)は銘文より18世紀の作であることが確定された。

装束は、12件のうち8件に墨書がある。奉納された年紀は染織の製作年代をはかる基準作であり、製作期の明記は極めて稀な染織工芸の編年を見る上で重要な資料と位置付けられる。また、年紀のみならず、奉納された人物の名前も明確に記されていることから、鶴峯八幡神社の神楽が具体的にはどのような地元の有志によって支えられていたのかを知る上でも重要である。装束の裏地はいずれも手つむぎの和製木綿を用いる仕立て方で、表地の絹織物の組織と模様の特徴から、江戸時代後期に製作された神楽衣装の特徴を備えていることが明らかになった。さらに4件は清朝末期の舶来品と考えられる絹織物を用い、ほか1件は京都の有職織物業者に発注したと考えられる。

## 参考文献

河野弘「鶴峰八幡神社の太々神楽—その推移—」古河市史編さん委員会『古河市史研究』古河市、1980年、39-43頁

古河市史編さん委員会『古河市史 民俗編』古河市、1983年、881-886頁

中村茂子「関東神楽の源流・土師一流催馬楽神楽の影響からみた茨城県の十二座神楽」『実践女子大学美術美術史學』21、2007年、49-67頁

中村茂子「茨城県指定無形民俗文化財 無民第35号 上山川諏訪神社太々神楽」『茨城の文化財』44集、2006年、19-23頁

三田村佳子『里神楽ハンドブック 福島・関東・甲信越』おうふう、2005年

「八幡神社永代太々神楽保存会（昭和四年十二月中田永代太々神楽保存会規約）」平成30年1月28日調査

DVD『茨城県無形民俗文化財 上山川諏訪神社太々神楽』茨城ビデオパック、2007年



一座 奉幣の舞／幣舞



二座 五行の舞／五行の舞



三座 那岐那美の舞／諾冊



四座 翁の舞／翁





五座 猿田の舞／猿田



六座 墓目の舞／墓目



七座 狐の舞／天狐・白狐



八座 正稻荷



九座 釣の舞／蛭子



十座 <sup>じょう</sup>尉の舞



十一座 岩戸開の舞／岩戸開きの舞



十二座 山神の舞／山祇



天稚彦命の面（表）



天稚彦命の面（表）

（茨城県文化財保護審議会 串田 紀代美 委員）

### 3 令和5年度に登録された 国登録有形文化財

◇令和6年3月6日登録

登録番号	名称	建築年代	所在地	登録基準
08-0319	土浦市民会館	昭和44年／ 令和2年改修	土浦市 東真鍋町1480-2	2 造形の規範と なっているもの
土浦の市域中心部真鍋地区に位置する市民会館。設計は建築音響工学の大家で知られる佐藤武夫。正面列柱と大階段など佐藤による古典主義的な意匠が記念性を高める。				



【写真提供 土浦市教育委員会】

## 4 国・県指定文化財等一覧

(1) 国・県指定文化財等総数 (令和6年3月31日現在)

国・県指定文化財

区分	種類	国 指 定				県指定	合 計	
		指定文化財	国宝	特別	計			
有形文化財	建造物	重要文化財	33			33	77	110
	絵画		7			7	83	90
	彫刻		15			15	164	179
	工芸品		15	2		17	128	145
	書跡						34	34
	古文書						10	10
	考古資料		6			6	28	34
	歴史資料		4			4	10	14
無形文化財		重要無形文化財	2			2	4	6
民俗文化財	有形民俗文化財	重要有形民俗文化財	1			1	6	7
	無形民俗文化財	重要無形民俗文化財	3			3	33	36
記念物	遺跡	史跡	31		3	34	56	90
	名勝地	名勝	4			4	5	9
	動物・植物・地質鉱物	天然記念物	8			8	58	66
合 計			129	2	3	134	696	830

国選定重要伝統的建造物群保存地区

名称	所在地
桜川市真壁伝統的建造物群保存地区	桜川市

選定保存技術の選定・保存団体の認定

選定保存技術	1	茅採取
保存団体	1	日本茅葺き文化協会

記録作成等の措置を講ずべき無形文化  
無形の民俗文化財総数(国選択)

無形文化財	工芸技術	3
無形の民俗文化財	風俗慣習	10
	民俗芸能	9
	民俗技術	1
合 計		23

ユネスコ無形文化遺産

名称	所在地
結城紬	結城市
山・鉾・屋台行事	日立市
伝統建築工匠の技—木造建造物を受け継ぐための伝統技術—	つくば市

国登録有形文化財・国登録有形民俗文化財・国登録記念物

種 別	数 量	備 考	
有形文化財	建築物	253	家屋・公共建築物等
	土木構造物	13	水路・水槽等
	その他工作物	28	門・煙突・橋梁・擁壁等
	小 計	294	
有形民俗文化財	2	常陸大子のコンニャク栽培用具及び加工用具ほか	
記念物	3	岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦(※) 岡山氏庭園(養浩園)	

(※) 「岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦」の登録基準は、遺跡関係と名勝地関係の両方。

## (2) 国指定文化財等一覧

(令和6年3月31日現在)

### ア 国宝

No.	種類	名称・数量	所有者	指定年月日	時代等
1	工芸品	直刀 黒漆平文大刀拵 1口 (附 刀唐櫃 1合)	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 30. 6. 22	奈良～平安時代
刀身長さ 224.0cm、反り 0.7cm。普通の大刀の3振分もある長大な大刀。無銘。「ふつのみたまのつるぎ」と呼ばれる神宝。					
2	工芸品	短刀 銘「筑州住行弘 観応元年八月日」 1口 (土浦市立博物館保管)	土浦市大和町 9-1 土浦市	昭 32. 2. 19	南北朝時代
師である左文字(さもじ)の作風に近似し、その作風樹立を知る上で観応元年(1350)の年紀は貴重。土浦藩土屋家旧蔵品。					

### イ 国指定重要文化財

#### 【建造物】

(表中の凡例) 解：解体修理工事、半解：半解体修理工事、部：部分修理、自：県補助事業以外の自費修理工事

No.	名称・数量	所在地・所有者	指定年月日	建築年代
1	鹿島神宮本殿・拝殿・幣殿・石の間 4棟 (附棟札2枚)	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	明 34. 3. 27	江戸初期
祭神は武甕槌大神。常陸国の一の宮。元和5年(1619)徳川秀忠の造営。屋根・塗装修理(平23～25)				
2	鹿島神宮摂社奥宮本殿 1棟(附棟札1枚)	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	明 34. 3. 27	慶長10年(1605)
旧本殿を元和5年(1619)に移築[棟札]。三間社流造、檜皮葺。				
3	佐竹寺本堂 1棟	常陸太田市天神林町 2404 佐竹寺	明 39. 4. 14	室町後期
天文15年(1546)造営。寄棟造、茅葺。江戸時代後期に改造。				
4	大宝八幡神社本殿 1棟	下妻市大宝 667 大宝八幡	明 39. 4. 14	天正5(1577)[棟札]
多賀谷尊経の造営。三間社流造。解(明42)。屋根現状変更(昭40)				
5	小山寺三重塔 1棟	桜川市富谷 2190 小山寺	明 39. 4. 14	寛正6年(1465)
多賀谷朝経が願主。総高21.5m。関東以北では最古に属する和様建築。とち葺。防災(昭57)・解(平2)				
6	楞嚴寺山門 1棟	笠間市片庭 761-4 楞嚴寺	大 6. 4. 5	室町中期[建築手法]
四脚門。切妻造、茅葺。禅宗様式。解(大9)・屋根修理(平15)				
7	西蓮寺仁王門 1棟	行方市西蓮寺 504 西蓮寺	大 6. 4. 5	天文12年(1543)[柱盤墨書]
安政9年移築。三間一戸楼門(二階は寛政頃撤去)。寄棟造。解(昭34)				
8	西蓮寺相輪櫓 1棟(附棟札1枚)	行方市西蓮寺 504 西蓮寺	大 6. 8. 13	弘安10年(1287)
元寇の弘安の役を記念して建立。錫杖のような形に特色。解(明36、昭51、平17)				
9	八幡宮本殿 1棟	水戸市八幡町 8-54 八幡宮	昭 29. 9. 17	慶長3年(1598)
和様に禅宗様を混用し地方色濃厚。入母屋造、とち葺(平7～11解体時に柿葺から変更)。解(平7～11)				

No.	名 称 ・ 数 量	所在地・所有者	指定年月日	建築年代
10	旧弘道館（正庁・至善堂・正門附塀） 3棟	水戸市三の丸1-6 (管) 茨城県	昭39.5.26	天保12年(1841)
正庁・至善堂とも書院造建築の正統をひく、大規模な藩校遺構。正庁自・半解(昭37)				
11	薬王院本堂 1棟(附厨子1基、附棟札2枚)	水戸市元吉田町682 薬王院	昭41.6.11	享禄2年(1529) [囊股墨書]
大型の密教系七間堂。入母屋造、茅葺形銅板葺。解(昭43~45)				
12	鹿島神宮楼門 1棟(附旧厩十字柄2組)	鹿嶋市宮中2306-1 鹿島神宮	昭41.6.11	寛永11年(1634)
三間一戸(二階建)。入母屋造、銅板葺。解(昭16)・塗(昭49・昭62~平元・平4)・部(平6)				
13	坂野家住宅 4棟 (主屋、書院、文庫蔵、表門)	常総市大生郷町2037 常総市	昭43.4.25	江戸中~後期
主屋:豪農住宅。茅葺。解(平14~17)・防災設備工事(平17)表門及び塀:江戸後期の薬医門。切妻造、茅葺。追(令5.9.25)				
14	旧飛田家住宅 1棟	古河市長谷町38-18 古河市	昭43.4.25	江戸中期
旧金砂郷町の飛田家住宅主屋を古河総合公園内に移築復原(昭50)古い曲屋形式。寄棟造、北面土庇附属、茅葺。				
15	中崎家住宅 1棟	水戸市鯉淵町2897 個人	昭43.4.25	元禄元(1688) [土台墨書]
地侍の系譜をひく農家の直屋。寄棟造、茅葺。解(昭49)				
16	椎名家住宅 1棟	かすみがうら市加茂4148 個人	昭43.4.25	延宝2年(1674)
現存する東日本最古級の民家、直屋形式。寄棟造、茅葺。解(昭46)・屋根修理(平24)				
17	塙家住宅(主屋・土間) 2棟	笠間市安居2009 個人	昭51.2.3	江戸後期
現状は曲屋と同じ外観だが当初は主屋と釜屋が別棟。主屋:寄棟造、茅葺。半解(昭56)				
18	山本家住宅 1棟	神栖市奥野谷4281 個人	昭51.2.3	江戸中期
<small>あみもと</small> 網元名主の家。曲屋形式。寄棟造、茅葺。解(平5)・部(平24)				
19	平井家住宅 1棟	稲敷市柴崎155 個人	昭51.2.3	元禄頃 [伝承]
17世紀末の民家建築。せがい造りの軒や二重梁の小屋組に特色。茅葺。解(平11~14)				
20	大塚家住宅 1棟	つくば市栗原835 個人	昭51.2.3	江戸中期
平面構成が整形四間取りなど、新しい民家形式への移行段階。寄棟造、茅葺。屋根葺替(平2)				
21	旧茨城県立太田中学校講堂 1棟	常陸太田市栄町58 茨城県	昭51.2.3	明治37年 [学校沿革誌]
旧制中学校の講堂、駒杵勤治の設計。木造。建築面積296.7㎡。一階建、棧瓦葺。南面玄関ポーチ、東・西面出入口庇付。各鉄板葺。				
22	旧茨城県立土浦中学校本館(附棟札1枚) 1棟	土浦市真鍋4-4-2 茨城県	昭51.2.3	明治37年(1904) [棟札]
本格的洋風学校建築の一部。木造。建築面積987.9㎡。一階建、天然スレート葺。駒杵勤治の設計。屋根葺替(昭42カラーアスベストコロニアル葺・平29天然スレート葺)・現状変更(平29フィニアル復原等)				
23	鹿島神宮仮殿 1棟	鹿嶋市宮中2306-1 鹿島神宮	昭51.5.20	元和5年(1619) [方立墨書]
元和造営時の社殿の一つ。本殿の造営に際して神霊を仮安置するための建物。入母屋造、檜皮葺。解(平9)				
24	竜禅寺三仏堂 1棟	取手市米ノ井467 竜禅寺	昭51.5.20	永禄12年(1569)以前 [納札]
和様に禅宗様が混じる。向拝部分後補。寄棟造、茅葺。半解(昭61)・茅屋根修理(平18)				



No.	名 称 ・ 数 量	所在地 ・ 所有者	指定年月日	建築年代
25	善光寺楼門 1 棟	石岡市太田 940-1 善光寺	昭 58. 12. 26	室町後期
小田氏の創建。三間一戸。寄棟造、茅葺。解・防災設備工事（平7）。環境整備（止水壁工事、平14）。葺替（令2）				
26	笠間稲荷神社本殿 1 棟（附 棟札 1 枚）	笠間市笠間 39 笠間稲荷神社	昭 63. 1. 13	万延元年(1860) [棟札]
本殿及び旧拝殿よりなる。社殿全体を覆う豊かな彫り物（江戸末期流行の立川流大工の技）				
27	佛性寺本堂 1 棟（附 旧露盤 1 個）	水戸市栗崎町 1984 佛性寺	昭 63. 1. 13	天正 13 年(1585) [隅木墨書]
側柱・入側柱とも円柱 8 本を立てた八角円堂。一重、茅葺。現状変更（平 26 瓦葺から茅葺に戻す）				
28	横利根閘門 1 構	稲敷市西代地先 国土交通省	平 12. 5. 25	大正 10 年(1921)
横利根川と利根川の合流点近くにある煉瓦造複閘式閘門。土木技術史上、煉瓦造閘門の一つの到達点を示す。利根川改修工事における代表的土木構造物				
29	来迎院多宝塔 1 基	龍ヶ崎市馴馬町 来迎院	平 18. 12. 19	弘治 2 年(1556) [宝珠銘]
三間多宝塔。柿葺。細部に禅宗様。室町期の北関東における寺院建築の特徴を示す。解（平 10～12）				
30	シャトーカミヤ旧醸造場施設 3 棟	牛久市中央 3-20-4 オエノンホールディングス株式会社	平 20. 6. 9	明治 36 年(1903)
事務室、醗酵室、貯蔵庫 明治中期の本格的な煉瓦造ワイン醸造所の主要部がほぼ完存しており、高い歴史的価値がある。災害復旧（平 23～27）				
31	石岡第一発電所施設 3 所、3 基、3 棟	高萩市大字横川 東京発電株式会社	平 20. 12. 2 (平23. 10. 25水 槽解除)	明治 44 年 (1911) 本館変電室 大正 5 年 (1916) 取水堰堤、沈砂池 大正 12 年(1923)
取水堰堤、沈砂池、第一号水路橋、第二号水路橋、水槽余水路、調圧水槽、本館発電機室、本館旧変圧器室、本館変電室 施設を構成する本館。橋梁等の類型を異にする構造物全般にわたり鉄筋コンクリート技術を用いたわが国で最初の発電所施設であり、中でも本館はわが国に現存する最古級の鉄筋コンクリート造建築物として貴重である。				
32	内外大神宮内宮・外宮・御遷殿 3 棟	筑西市小栗 内外大神宮	平 21. 12. 8	内宮・外宮：延宝 7 年 (1679) 御遷殿：天正 2 年 (1574)
(附 内宮御門 1 棟、 外宮御門 1 棟) 両本殿は、本格的な神明造三間社本殿で、内宮、外宮の本殿二棟を並立させる社殿形式の古例として重要である。解（平 7～8）・上屋設置（平 12）				
33	旧矢中家住宅 本館、別館 2 棟	つくば市北条 個人	令 5. 9. 25	昭和 13～24 年(1938～49)
近代的建築材料を併用した木造建築で、陸屋根など和洋折衷の意匠や技術が多用される優れた近代和風住宅。日本の気候風土を考慮した実験的な住宅として、学術的な意義も認められる。				

## 【絵画】

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	制作時代
1	紙本著色 拾遺古徳伝 9 卷	那珂市瓜連 1221 常福寺	明 36. 4. 15	正安 3 年 (1301)
(東京国立博物館寄託) 親鸞の遺弟覚如が常陸門徒のために起稿した宗祖親鸞の拾遺。				

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	制作時代
2	紙本著色 聖徳太子絵伝 1巻	那珂市本米崎 2270 上宮寺	大4.3.26	鎌倉末期(推定)
		頭如から賜ったと伝える。詞書1段・絵14段。大和絵の伝統。		
3	絹本著色 法然上人像 1幅 (東京国立博物館寄託)	那珂市瓜連 1221 常福寺	大5.3.24	鎌倉後半
		法然が曲るく(僧が用いる椅子)上に座す形式は珍しい。		
4	絹本著色 十六羅漢像 16幅 (茨城県立歴史館寄託)	龍ヶ崎市若柴町 866 金竜寺	大6.4.5	鎌倉末期
		道元持ち帰りと言われるが、宋代李竜眠様を学んだわが国の作か。		
5	紙本著色 拾遺古徳伝(残闕) 1巻	銚田市鳥栖 1013 無量寿寺	大6.4.5	正安3年(1301)
		覚如によって撰述された拾遺古徳伝の一つ。慶長13年(1608)火災に遭遇。		
6	絹本著色 高峰和尚像 1幅 庚寅絶岸可湘の讚及甲午王剛中の賛がある	土浦市高岡 1890 法雲寺	昭24.2.18	室町時代
	絹本著色 復庵和尚像自賛 1幅 附絹本著色 中峰和尚像 1幅 (土浦市立博物館寄託)	頂相(肖像画)。法雲寺の開基は中峯。弟子の復庵が道場を建立。高峰は13世紀中国の人。小田治久が後光厳天皇の命により七堂伽藍を創建する。		
7	絹本著色 聖徳太子絵伝 4幅 (東京国立博物館寄託)	坂東市みむら 1793 妙安寺	昭43.4.25	鎌倉末期
		太子の事跡場面を自由に配置した掛幅形式の大和絵系譜の絵伝。		

## 【彫刻】

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代
1	木造 薬師如来及両脇侍像 3軀 (附 銅造胎内仏 1軀)	城里町石塚 1423 薬師寺	明44.8.9	鎌倉初期
		寄木造、漆箔。中尊坐像高137.8cm、日光170.8cm、月光171.2cm。		
2	木造 浮彫如意輪観音像 1面	城里町上入野 3912 小松寺	明44.8.9	平安時代か唐代
		木造・一部彩色。共木で浮き彫り精巧。縦8.5cm、横7.3cm。		
3	木造 薬師如来坐像 1軀	常陸太田市下利員 957 西光寺(管理団体 常陸太田市)	明44.8.9	平安末期 (平17~18修理)
		寄木造、漆箔。当初の光背、九重蓮華座あり。定朝様。像高143.7cm。		
4	木造 観世音菩薩立像(寺伝延命観音像) 1軀(附 前立尊 1軀)	桜川市本木 1 楽法寺	明44.8.9	平安前期
		一木造、彩色剥落、翻波式衣文。前立像は同形八臂像で鎌倉時代。		
5	木造 薬師如来坐像 1軀	笠間市来栖 2696 岩谷寺	大3.4.17	鎌倉初期
		寄木造、漆箔、等身坐像。光背当初。台座鎌倉中期。定朝様。像高84.8cm。		
6	木造 薬師如来立像 1軀 建長五年七月藤原時朝ノ銘アリ	笠間市来栖 2696 岩谷寺	大3.4.17	鎌倉中期
		寄木造、漆箔、玉眼、像高185cm。像は大ぶり螺髪を旋毛形に彫出。		
7	木造 聖徳太子立像 1軀 (太子堂安置)	水戸市酒門町 2056 善重寺	大4.8.10	鎌倉末期
		上質顔料による盛り上げ彩色。十六歳孝養太子像。像高132.5cm。		
8	木造 阿弥陀如来坐像 1軀 胎内ニ応長二年四月十五日修理ノ銘アリ	茨城町鳥羽田 656 円福寺	大4.8.10	鎌倉初期
		寄木造、漆箔、定朝様。胎内に応長2年(1312)の修理銘、像高84.3cm。		
9	木造 不動明王及二童子立像 3軀	つくばみらい市板橋 2370 不動院	大4.8.10	平安末期
		寄木造、古色。3尊とも衣文浅く面相も誇張なく温雅。像高100cm。		

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代
10	木造 釈迦如来立像 1 軀	銚田市大蔵 113 福泉寺	大 5. 8. 17	鎌倉末期
		寄木造、素地。螺髪を縄状に巻く。平行線状の衣文。像高 165. 5cm。		
11	木造 薬師如来坐像 1 軀	土浦市下高津 2-10-22 常福寺	大 9. 8. 16	平安末期
		寄木造、漆箔。量感のある体部などに特色。像高 121cm。		
12	木造 千手観音立像 1 軀	笠間市片庭 775 楞嚴寺	大 9. 8. 16	鎌倉中期
	背面ニ建長四年七月藤原時朝ノ銘アリ	寄木造、漆箔、玉眼。鎌倉地方様式の好例。像高 193. 9cm。		
13	木造 弥勒仏立像 1 軀	笠間市石寺 429 弥勒教会	大 9. 8. 16	鎌倉中期
	像内に宝治元年四月、藤原時朝等の銘がある	寄木造、漆箔、玉眼。運慶開始の様式に宋風を加味、像高 175. 2cm。		
14	木造 観音菩薩立像 1 軀	筑西市中館 522 観音寺	大 11. 4. 13	鎌倉末期
	(寺伝延命観音像) (観音堂安置) 像内に貞治二年の修理銘がある	寄木造古色彫眼。延命観音として知られる宋風の六臂像。 像高 102. 2cm。名称変更 (昭 39. 5. 26)		
15	鉄造 阿弥陀如来立像 西念、良覚作 1 軀	常陸太田市中染町 23 中染町 (管理団体 常陸太田市)	平 26. 8. 21	鎌倉時代
	背面に弘長四年四月、大大工権守入道西念、大仏師日向房良覚等の陽鑄銘あり	像高 164cm。大きさや鑄上がりの良好さから鉄仏の代表作。原型の像が残り、当時の鑄造技術を知る上でも貴重。		

## 【工芸品】

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代
1	太刀 (銘則包作・附 糸巻太刀拵) 1 口	水戸市宮町 2-5-13 東照宮	明 44. 4. 17	鎌倉中期
	(茨城県立歴史館寄託)	長さ 76. 6cm、反り 3. 0cm 強。福岡一文字派名工の作。		
2	銅鐘 1 口	潮来市潮来 428 長勝寺	明 44. 8. 9	元徳 2 年 (1330)
	元徳庚午十月ノ銘アリ (附 鐘銘拓本 1 巻)	銘文刻字の勝れた名鐘。大檀那北条高時。大施主は千葉氏と記載。		
3	太刀 銘吉宗 (附 糸巻太刀拵) 1 口	つくば市筑波 1 筑波山神社	大 7. 4. 8	鎌倉中期
	(東京国立博物館寄託)	長さ 71. 2cm、反り 2. 3 cm。作者は福岡一文字派の名工。		
4	太刀 銘備州長船家助応永廿一年二月日 1 口	つくばみらい市南太田 個人	大 9. 4. 15	室町時代
		長さ 73. 6cm、反り 3. 2cm。応永 21 年 (1414) の作。		
5	銅鐘 1 口	土浦市大手町 4-16 等覚寺	大 9. 8. 16	鎌倉初期
	建永年中筑後入道尊念ノ銘アリ	八田知家が建永年間につくらせた梵鐘。鐘の銘文では本県最古。		
6	銅鐘 1 口	土浦市穴塚 1461 般若寺	大 9. 8. 16	建治元年 (1275)
	建治元年八月大工丹治久友等ノ銘アリ	有名な鑄物師丹治久友作。鎌倉時代の典型的な鐘の形をもつ。		
7	金銅板両界曼荼羅 2 面	利根町布川 3004 徳満寺	昭 11. 5. 6	建久 5 年 (1194)
	建久五季六月十三日筑後国清楽寺ノ銘アリ (東京国立博物館寄託)	押し出し、毛彫りが施された金銅薄板の両界曼荼羅。修理 (平 15)		
8	太刀 銘「備州長船住景光」 1 口	つくば市小野川 個人	昭 13. 7. 4	鎌倉時代
		長さ 2 尺 4 寸 (約 72 cm)、反り 8 分 (約 2. 4 cm)。		

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代
9	太刀 銘「 <sup>もりいえ</sup> 守家造」 (土浦市立博物館保管)	1口 土浦市大和町9-1 土浦市	昭25.8.29	鎌倉中期
華やかな乱れ刃を焼く畠田一派の名匠。土浦藩土屋家旧蔵品。				
10	太刀 銘「 <sup>のぶふさ</sup> 信房作」 (土浦市立博物館保管)	1口 土浦市大和町9-1 土浦市	昭25.8.29	鎌倉初期
古備前と古一文字にみられる信房の作品。土浦藩土屋家旧蔵品。				
11	太刀 銘「 <sup>つねつぐ</sup> 恒次」 (土浦市立博物館保管)	1口 土浦市大和町9-1 土浦市	昭25.8.29	鎌倉初期
古青江派の代表鍛冶で同派中屈指の優品。土浦藩土屋家旧蔵品。				
12	短刀 銘「 <sup>くにみつ</sup> 国光」 (土浦市立博物館保管)	1口 土浦市大和町9-1 土浦市	昭28.3.31	鎌倉後期
短刀の名手、新藤五国光の作品。土浦藩土屋家旧蔵品。				
13	<sup>あじろおい</sup> 網代笈	1背 桜川市西小埜1677 月山寺	昭32.2.19	室町時代
箱形の笈で銅製鍍金の観音開き扉あり。背・側面に竹製網代。				
14	<sup>まさきやくら</sup> 梅竹蒔絵鞍 (附 四手蒔絵居木 1双)	1背 鹿嶋市宮中2306-1 鹿島神宮	昭34.6.27	鎌倉末頃か
現在知られる蒔絵の和鞍の中では最も古い。(追加 昭51.6.5)				
15	<sup>しゅうるしあし</sup> 朱漆足付盥 六蔵寺二対内、細工根来寺重宗、本願法 印惠範の朱漆銘がある	4口 水戸市六反田町767-2 六地藏寺	平3.6.21	室町時代
三足付盥で衆僧が罪を懺悔するために行う布薩盥に浄める盥。				

### 【考古資料】

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代
1	銅印 印文「静神宮印」 (附 印笥1合 寛文丁未、源光圀在銘) (茨城県那珂郡静村出土)	1顆 那珂市静9 静神社	昭29.3.20	平安時代
印面は方形で「静神宮印」の文字を刻む。印笥は印を納めるもの。				
2	埴輪男子立像 (群馬県藤岡市本郷出土) (茨城県立歴史館寄託)	1軀 石岡市高浜880 個人	昭34.12.18	古墳後期
全高139.9cm。つばの広い帽子をかぶった男子像。				
3	茨城県武者塚古墳出土品 (上高津貝塚ふるさと歴史の広場保管)	一括 土浦市大和町9-1 土浦市	平26.8.21	7世紀
太刀や銀の带状金具など特異な武器及び装身具96点で構成。みずら状の頭髪や経錦を含む(附指定)。古墳時代終末の葬送儀礼や服飾を復元する上で学術的価値が高い。				
4	茨城県泉坂下遺跡出土品 (常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館保管)	一括 常陸大宮市中富町1087-14 常陸大宮市	平29.9.15	弥生時代
再葬墓群からの出土遺物が主体。人面付壺形土器1点、壺形土器53点、甕形土器残欠2点、滑石玉5点、総数61点からなる。東日本における弥生時代特有の再葬墓の在り方を理解する上で良好な資料群。				
5	茨城県三味塚古墳出土品 (茨城県立歴史館保管) (明治大学に一部寄託)	一括 水戸市笠原町978-6 茨城県	平30.10.31	古墳時代
霞ヶ浦に面した沖積低地に築かれた前方後円墳からの出土品一括。金銅製の装飾品や、銅鏡、鉄製の武器・武具、金銅製の馬具など。中でも馬形の立飾りが付く金銅馬形飾付透彫冠は、他に類例がない。東国における首長層の葬送や社会実態を考える上で、学術的価値が高い。				

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代
6	茨城県風返稲荷山古墳出土品 (かすみがうら市歴史博物館保管)	一括 かすみがうら市坂 1029-1 かすみがうら市	令 5. 6. 27	古墳時代後期末
<p>霞ヶ浦沿岸に築かれた前方後円墳からの出土品一括。銅鍔や金・銀で装飾された武器や馬具など。最末期の前方後円墳における副葬品の組み合わせを示す好例で、この時代における金工品の種類や製作技術、変遷をみるうえでも重要。</p>				

## 【歴史資料】

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日	時 代	
1	鷹見泉石関係資料 文書・記録類 絵図・地図類 書籍類 書状類 絵画・器物類 (古河歴史博物館保管)	3, 153 点 686 点 768 点 466 点 912 点 321 点	古河市長谷町 38-18 古河市	平 16. 6. 8 (平 24. 9. 6 員数変更)	江戸時代
<p>下総国古河藩家老鷹見泉石（1785～1858）の洋学、地理学をはじめとする科学技術などに関する幅広い学問の事跡と譜代大名の家老としての情報収集のあり方を示す資料群。保存修理（平 17～）</p>					
2	一橋徳川家関係資料 文書・記録類 書画・典籍類 器物類 写真 (茨城県立歴史館保管)	4, 715 点 4, 017 点 224 点 460 点 14 点	水戸市笠原町 978-6 茨城県	令 2. 9. 30	江戸時代
<p>各分野の資料が質量ともにまとまって伝存。一橋徳川家の家格、家政、所領経営、または幕政への関与、将軍家や大名家との交際、家の内外における儀礼の実際を窺うことができ、江戸時代の政治史、文化史、古文書学を研究する上で貴重。</p>					
3	長久保赤水関係資料 地図・絵図類 文書・記録類 典籍類 書画・器物類 (高萩市歴史民俗資料館保管)	693 点 84 点 279 点 274 点 56 点	高萩市本町 1-100-1 高萩市	令 2. 9. 30	江戸時代
<p>長久保赤水の子孫にあたる複数の家に伝来した赤水手沢の一括資料。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の事績を考える上で最もまとまった資料群で、江戸時代中後期の文化史、地図史等の研究において学術価値が高い。</p>					
4	五馬力誘導電動機（明治四十三年、久原鋳業所） 附 設計図面 (日立オリジンパーク保管)	1 台 5 枚	東京都千代田区丸の内 1-6-6 株式会社日立製作所	令 5. 6. 27	明治時代
<p>明治 43 年（1910）に久原工場所日立鋳山工作課長小平浪平の指導のもと製造された、日本人により設計製造された現存最古の誘導電動機。本機の構造などを明らかにする設計図面類とともに保存されており、電動機械国産化の礎を築いた機械として、産業技術史上に学術的価値が高い。</p>					

## ウ 国指定重要無形文化財

No.	名 称	所在地	保持団体・保持者	指定年月日
1	結城紬（平織）	結城市結城 13-2	本場結城紬技術保持会	昭 31. 4. 24
		真綿から指で紬ぎ出した撚りのない糸をそのまま使用した織物		
2	髷 漆 (各個認定)	筑西市玉戸 1596-8	大西 勲（いわゆる人間国宝）	平 14. 7. 8
		装飾を施さず漆を塗ることだけで仕上げる技法。		

## エ 国指定重要有形民俗文化財

No.	名 称 ・ 数 量	所 有 者	指定年月日
1	日立風流物（山車） ふりゆうもの 1基	日立市宮田町 神峰神社（管理団体 日立市）	昭 34. 5. 6
		高さ 15m、幅 3 m、長さ 8 m、重さ 5 t。全国的にも著名な山車。 修理（平 9～12、平 17）	

## オ 国指定重要無形民俗文化財

No.	名 称	所 在 地 ・ 保 護 団 体	指定年月日
1	綱 火	つくばみらい市 綱火保存連合会	昭 51. 5. 4
		空中に縦横十文字に張りめぐらした麻綱の上を花火を仕掛けた人形を自在に操りながら演技する。小張松下流と高岡流がある。	
2	日立風流物	日立市宮田町 日立郷土芸能保存会	昭 52. 5. 17
		神峰神社の大祭のとき、4つの町内から1台ずつ出す山車において、操り人形芝居を繰り広げる。	
3	常陸大津の御船祭	北茨城市大津町 常陸大津の御船祭保存会	平 29. 3. 3
		豊漁や海上安全を祈願して、巨大な木造船に神輿を載せて陸上を曳行する。	

## カ 国指定特別史跡及び史跡

No.	種類	名 称 ・ 数 量	所 在 地	所 有 者	指定年月日
1	特別 史跡	旧弘道館	水戸市三の丸 1-6	鹿島神社ほか	大 11. 3. 8（史）
			管理団体（大 11. 11. 7）茨城県		昭 27. 3. 29（特史）
		9代藩主斉昭が天保 12 年（1841）に創立した水戸藩の藩校。			
2	特別 史跡	常陸国分寺跡	石岡市府中 5-1	国分寺	大 11. 10. 12（史）
			管理団体（大 12. 12. 13）石岡市		昭 27. 3. 29（特史）
		奈良時代の常陸国の国分寺（僧寺）跡。金堂・講堂の基壇や礎石など残る。			
3	特別 史跡	常陸国分尼寺跡	石岡市若松 3-1	石岡市	大 11. 10. 12（史）
			管理団体（大 12. 12. 13）石岡市		昭 27. 3. 29（特史）
		国分寺の北西 500mにある尼寺（法華滅罪之寺）跡。			
4	史跡	舟塚山古墳 1基	石岡市北根本 597 ほか	文部科学省ほか	大 10. 3. 3
			管理団体（大 11. 5. 23）石岡市		
		県下第一の大型前方後円墳（全長 186m）。5世紀後半（推定）。			

No.	種類	名称・数量	所在地	所有者	指定年月日
5	史跡	常磐公園	水戸市常磐町及び見川町	茨城県ほか	大 11. 3. 8
			管理団体（大 11. 11. 7）茨城県		
天保 13 年（1842）斉昭が開設した借樂園を中心に桜山、丸山を含む庭園。					
6	史跡	吉田古墳 1 基	水戸市元吉田町 345、347	明利酒類株式会社	大 11. 3. 8
			管理団体（大 11. 11. 7）水戸市		平 22. 8. 5（追）
横穴式石室の奥壁に線刻によって武器・武具などが描かれている。					
7	史跡	愛宕山古墳 1 基	水戸市愛宕町 2132～2134	愛宕神社ほか	昭 9. 5. 1
			管理団体（昭 9. 7. 25）水戸市		
那珂川流域中最大の前方後円墳（全長 136.5m）。					
8	史跡	だいほうじょう 大宝城跡	下妻市大宝、筑西市関館・中村新田	八幡神社ほか	昭 9. 5. 1
			管理団体（昭 9. 7. 25）下妻市、筑西市		
南北朝時代の城。南朝方の拠点（下妻氏の居城）。					
9	史跡	関城跡	筑西市関館 1-99	文部科学省ほか	昭 9. 5. 1
			管理団体（昭 9. 7. 25）筑西市		
南北朝時代の城。南朝方の拠点（関氏の居城）。					
10	史跡	小田城跡	つくば市小田 2377 ほか	つくば市ほか	昭 10. 6. 7
			管理団体（昭 10. 7. 26）つくば市		
小田氏の居城。北畠親房が「神皇正統記」を著した地。					
11	史跡	新治廃寺跡附上野原瓦窯跡	筑西市及び桜川市	筑西市ほか	昭 17. 7. 21
			管理団体 筑西市、桜川市		昭 52. 2. 3（追）
新治郡衙の北の寺院跡、及び寺院の瓦を供給した窯跡。					
12	史跡	さくらあずまお 佐久良東雄旧宅	石岡市浦須 314-1	個人	昭 19. 3. 7
国学普及に努めた幕末の志士佐久良東雄が 9 歳まで生活した居宅。					
13	史跡	新治郡衙跡	筑西市古郡 180 ほか	筑西市ほか	昭 43. 5. 20
			管理団体（昭 43. 5. 20）筑西市		
古代の郡役所跡。多数の建物群が検出された。					
14	史跡	まわたりはにわ 馬渡埴輪製作遺跡	ひたちなか市馬渡 2881-3 ほか	ひたちなか市	昭 44. 8. 5
			管理団体（昭 60. 8. 12）ひたちなか市		昭 60. 8. 12（追）
古墳時代後期の埴輪製作遺跡。					
15	史跡	大串貝塚	水戸市塩崎町 1015-2	水戸市	昭 45. 5. 11
			管理団体（昭 45. 5. 11）水戸市		
縄文時代前期。シジミを主体の貝塚が 3 カ所に点在。					
16	史跡	虎塚古墳	ひたちなか市中根 3494-1	ひたちなか市	昭 49. 1. 23
			管理団体（昭 49. 1. 23）ひたちなか市		
7 世紀前半の前方後円墳。横穴式石室に本県随一の彩色壁画。					
17	史跡	上高津貝塚	土浦市上高津・中高津・宍塚	土浦市	昭 52. 10. 4
			管理団体（昭 53. 5. 6）土浦市		
縄文時代中期～晩期。5 カ所の貝層が環状に並ぶシジミ主体の貝塚。					
18	史跡	平沢官衙遺跡	つくば市平沢 353 ほか	つくば市	昭 55. 12. 4
			管理団体（昭 55. 12. 4）つくば市		
官衙（役所）跡。規格性をもって多くの掘立柱建物が並ぶ。					
19	史跡	広畑貝塚	稲敷市飯出広畑 635-1 ほか	稲敷市	昭 57. 2. 27
			管理団体（昭 57. 2. 27）稲敷市		
縄文時代後期～晩期。貝層はハマグリなどの貝塚で製塩土器を出土。					

No.	種類	名称・数量	所在地	所有者	指定年月日
20	史跡	鹿島神宮境内附郡家跡	鹿嶋市宮中 2306-1 ほか (追 平元. 9. 22、平 11. 1. 14、平 13. 1. 15、平 17. 3. 2、平 20. 7. 20)	鹿嶋市、鹿島神宮	昭 61. 8. 4
21	史跡	小幡北山埴輪製作遺跡	茨城町小幡 2735-45 ほか 古墳時代後期の埴輪製作遺跡。	茨城町	平 4. 1. 21
22	史跡	真壁城跡	桜川市真壁町古城・山尾 中世から戦国末期までの真壁氏の居城。	桜川市	平 6. 10. 28
23	史跡	おかだいら 陸 平貝塚	美浦村馬見山字貝売 391-2 ほか 縄文中～後期。明治 12 年に初めて日本人による本格的な発掘調査。	美浦村	平 10. 9. 11
24	史跡	結城廃寺跡附結城八幡瓦 がまあと 窯跡	結城市大字上山川字古屋敷 31 ほか 奈良～室町中期の大寺院跡、及びこの寺院の創建時の瓦を供給した窯跡。	結城市	平 14. 9. 20 平 29. 10. 13 (追)
25	史跡	こんだかんが 金田官衙遺跡	つくば市金田字吹上 1473-1 ほか 奈良～平安時代（8 世紀前葉～9 世紀中葉）に営まれた古代官衙関連遺跡。	つくば市	平 16. 2. 27 令 2. 10. 6 (追)
26	史跡	台渡里官衙遺跡群（台渡里官衙遺跡・台渡里廃寺跡）	水戸市渡里町字前原ほか 奈良・平安時代に営まれた那賀郡衙に関連する正倉院跡及び寺院跡。	水戸市ほか	平 17. 7. 14 平 23. 9. 21 (追)
27	史跡	水戸徳川家墓所	常陸太田市瑞龍町字瑞龍山 2845 ほか 管理団体（平 23. 12. 6）公財徳川ミュージアム 2 代藩主徳川光圀が定めた儒教葬の形式で営まれた大規模な大名家墓所。	公益財団法人徳川ミュージアムほか	平 19. 7. 26
28	史跡	常陸国府跡	石岡市総社 1-278 ほか 古代常陸国の役所跡。7 世紀末から 11 世紀にかけての高い計画性をもつ建物群の変遷が判明。	石岡市	平 22. 8. 5
29	史跡	にしやまご てんあと せいざんそう 西山御殿跡（西山荘）	常陸太田市新宿町字西山 590 ほか 徳川光圀が元禄 4 年（1691）に隠居した邸宅跡。光圀が理想郷とした景観が残されている。	公益財団法人徳川ミュージアム	平 28. 3. 1
30	史跡	泉坂下遺跡	常陸大宮市泉字坂下 894 ほか 弥生時代中期前葉の再葬墓遺跡。墓域の全貌が判明した貴重な事例。人面付壺形土器をはじめとする出土品 61 点が国指定文化財に指定されている。	常陸大宮市ほか	平 29. 10. 13
31	史跡	瓦塚窯跡	石岡市部原字高芝 604-1 の一部ほか 古代常陸国の窯跡（35 基）。操業は 7 世紀前葉から 10 世紀前葉。常陸国における瓦生産の導入過程から常陸国府・国分寺の造瓦体制を知ることができる。	管理団体 石岡市	平 29. 10. 13
32	史跡	ちようじやまかんが ひたちのくに 長者山官衙遺跡及び常陸国 かいどうあと 海道跡	日立市十王町伊師字愛宕脇 3586 ほか 奈良・平安時代の官衙遺跡。古代官道と思われる道路跡に東接する 8 世紀中葉から 10 世紀代の掘立柱建物群と礎石建物群。	管理団体 日立市	平 30. 10. 15
33	史跡	磯浜古墳群	東茨城郡大洗町磯浜町字日下ヶ塚 2865-8 ほか 古墳時代前期から中期初頭の古墳群。前方後円墳 2 基、前方後方墳 1 基、円墳 1 基ほか 6 基から構成され、関東における古墳の展開を考える上で重要。	管理団体 大洗町	令 2. 3. 10



No.	種類	名称・数量	所在地	所有者	指定年月日
34	史跡	十五郎穴横穴群	ひたちなか市中根字館出 3490 番 1 ほか 27 筆	管理団体 ひたち なか市	令 6. 2. 21
<p>関東平野の北縁、那珂川の支流に挟まれた舌状台地南端部に位置する東日本最大級の横穴墓群。7世紀前葉に造営が始まり、9世紀前葉まで追葬で使用されており、古墳時代終末期から平安時代初頭の東日本社会を考える上で重要。</p>					

## キ 国指定名勝

No.	種類	名称	所在地	所有者	指定年月日
1	名勝	常磐公園	水戸市常磐町・見川町	茨城県	大 11. 3. 8
<p>岡山市の後楽園、金沢市の兼六園と並ぶ日本三名園の一つ</p>					
2	名勝	桜川（サクラ）	桜川市磯部 135 ほか	管理団体（大 14. 8. 13） 桜川市	大 13. 12. 9 昭 49. 6. 25（追）
<p>磯部稲村神社の参道をはさんで、約 1 km に及ぶ桜並木。古くは磯部の百色桜。</p>					
3	名勝	袋田の滝及び生瀬滝	大子町袋田	管理団体 大子町	平 27. 3. 10
<p>約 1,500 万年前の火山角礫岩層の断崖を流れ落ちる風致の優れた 2 つの滝。袋田の滝は「四度の滝」の異称をもつ。空海の命名伝説に始まり、近世の水戸藩主、近代の文人墨客等が訪れた風致の優秀な滝。</p>					
4	名勝	西山御殿跡（西山荘）	常陸太田市新宿町字西山 590 ほか	公益財団法人 徳川ミュージアム	平 28. 3. 1
<p>徳川光圀が元禄 4 年（1691）に隠居した邸宅跡。光圀が理想郷とした景観。</p>					

## ク 国指定天然記念物

No.	名称・数量	所在地	管理者	指定年月日	樹勢回復事業等
1	ハマナス自生南限地帯	鹿嶋市大小志崎 527 ほか	鹿嶋市	大 11. 3. 8	
2	いぶき山イブキ樹叢	日立市十王町伊師 2204	日立市	大 11. 10. 12	平 13
3	安良川の爺スギ 1 株	高萩市安良川 1173	八幡宮	大 13. 12. 9	平 14・15
4	白旗山八幡宮のオハツキイチョウ	水戸市八幡町 8-54	白旗山八幡宮	昭 4. 4. 2	
5	大戸のサクラ 1 株	茨城町大戸 1539	茨城町	昭 7. 7. 23	平 9
6	片庭ヒメハルゼミ発生地	笠間市片庭 773、2078	楞嚴寺ほか	昭 9. 12. 28	
7	軍鶏（シヤモ）	東京都、茨城県、秋田県、高知県、千葉県、青森県		昭 16. 8. 1	
8	桜川のサクラ	桜川市磯部 135 ほか	桜川市	昭 49. 7. 16	

## ケ 国選定重要伝統的建造物群保存地区

No.	名称	所在地	区域	面積	選定年月日
1	桜川市真壁伝統的建造物群保存地区	桜川市	桜川市真壁町真壁字下宿町、字高上町及び字大和町の全域並びに字上宿町及び字仲町の各一部	約 17.6ha	平 22. 6. 29

## コ 記録作成等の措置を講ずべき無形文化財（国選択）

### 工芸技術

No.	名 称	所在地・保持者	概 要	選択年月日
1	あわのしゅんけい 栗野春慶	東茨城郡城里町栗 稲川 義良（昭 58. 11. 5 死亡） 稲川 昌三（平 10. 1. 8 死亡）	城里町栗に伝わる、透明な漆を塗って器物の木地の木目を透かしてみせる春慶塗の技法を保持。	昭 51. 4. 20
2	にしのうちがみ 西の内紙	常陸大宮市諸沢 菊池 五介（平 3. 2. 14 死亡） 菊池 一男（平 16. 3. 31 死亡） 小野瀬角次（平 27. 10. 15 死亡）	地元で生産される那須楮を原料とした手漉き和紙の技術を保持。	昭 52. 6. 1
3	ししゅう 刺繍	龍ヶ崎市 相沢吉太郎（昭 58. 12. 6 死亡）	高度な刺繍の技術で、旧武家華族や神官の装束などを手がけた。	昭 53. 3. 25

## サ 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（国選択）

### （ア）風俗慣習

No.	名 称	所在地	概 要	選択年月日
1	田植に関する風俗	茨城県内	田植え唄・田植え踊り・田の神祭をはじめ、田植に係る風俗。（昭和 42 年記録保存）	昭 30. 3. 2
2	狩猟風俗	茨城県内	野生の鳥獣を捕らえる狩猟に際し受け継がれてきた風俗。（昭和 48 年記録保存）	昭 30. 3. 2
3	ふりゅうもの 日立風流物	日立市宮田町	日立郷土芸能保存会（昭和 51 年記録保存）	昭 49. 12. 4
4	盆行事	茨城県内	旧暦 7 月 13 日に祖霊を迎え、16 日に祖霊を送るまでの盆中に行われる行事。（平成 12 年記録保存）	昭 52. 5. 19
5	常陸大津の御船祭	北茨城市大津町	常陸大津の御船祭保存会（昭和 59 年・平成 27 年記録保存） 5 年毎の佐波波地祇神社の祭礼。	昭 54. 12. 7
6	おおばたけ 大畑のからかさ万灯	土浦市大字大畑	からかさ万灯保存会（平成 29 年記録保存）	昭 57. 12. 21
7	ごしよまがたき 五所駒滝神社の祭事	桜川市	五所駒滝神社祭事保存会（平成 28 年記録保存） 世話人制度で運営される夏祭りを中心とした年間の祭礼習俗。	昭 61. 12. 17
8	北関東のササガミ習俗	茨城県、栃木県	2 月 8 日と 12 月 8 日のコトヨウカ、あるいは片方に、庭にササガミサマを祭る習俗。（平成 16 年調査）	平 12. 12. 25
9	お耕廻しの習俗	福島県、茨城県	耕そのものや粃を入れた枡を神体にして複数の集落が祭祀を引き継いでいく特色ある習俗。 (平成 27 年記録保存)	平 21. 3. 11
10	東関東の盆綱	茨城県、千葉県	盆行事の一つで、墓地と家々の間を子どもたちが藁で作った綱を曳いて歩き、先祖の霊を送迎する行事。	平 27. 3. 2

## (イ) 民俗芸能

No.	名 称	所在地	保護団体	選択年月日
1	<small>かなきでんがく</small> 金砂田楽	常陸太田市	金砂田楽保存会（昭和 51 年記録保存）	昭 46. 4. 12
2	綱火	つくばみらい市	綱火保存連合会（昭和 51 年、同 61 年記録保存）	昭 46. 11. 11
3	真家のみたま踊	石岡市真家	真家みたま踊保存会（昭和 52 年記録保存）	昭 47. 8. 5
4	大串のささらと大野の みろく	水戸市	大串のささらと大野のみろく保存団体連合会	昭 48. 11. 5
5	<small>さいとうさい</small> 鹿島の祭頭祭	鹿嶋市、神栖市	祭頭囃保存会（昭和 55 年記録保存） ----- 鹿嶋神宮で毎年 3 月 9 日に行われる春を告げる勇壮な祭り。	昭 51. 12. 25
6	あんば囃子	稲敷市	あんば囃子保存会 ----- 航海・漁撈の神として信仰を集めた大杉神社に伝わる囃子。	昭 53. 1. 31
7	那珂湊の獅子とみろく	ひたちなか市	六町目の獅子保存会、元町のみろく保存会 ----- (昭和 57 年、昭和 58 年記録保存) 毎年 8 月末に行われる天満宮祭礼の御神幸行列に供奉する。	昭 55. 12. 12
8	<small>つくまい</small> 龍ヶ崎の撞舞	龍ヶ崎市	撞舞保存会（平成 24 年記録保存） ----- 八坂神社祇園祭最終日、高い柱に登り様々な曲芸を演じる。	平 11. 12. 3
9	鹿島みろく	鹿嶋市	保護団体なし（平成 25 年記録保存） ----- 太鼓を伴奏に鹿島信仰にかかわる歌を歌ったり、歌に合わせて踊ったりする民俗芸能。	平 21. 3. 11

## (ウ) 民俗技術

No.	名 称	所在地	保護団体	選択年月日
1	霞ヶ浦の帆引網漁の技 術	土浦市、かすみが うら市、行方市	土浦帆曳船保存会、霞ヶ浦帆引き船・帆引き網漁法保存 会、行方市帆引き船保存会 ----- 折本良平が明治初期に考案。複数の布を繋いだ大きな一枚帆で風を受け、 風力を利用して船体を横滑りさせながら、袋状の網を曳いて漁獲する <small>ぎょうろ</small> 漁撈 技術。	平 30. 3. 8

## シ 選定保存技術の選定・保存団体の認定

No.	選定保存技術	保 存 団 体			選定・認定 年月日
	名 称	団体名	代表者	所在地	
1	茅採取	一般社団法人日本茅葺き文化協会	代表理事 安藤 邦廣	つくば市北条	平 30. 9. 25
		茅採取は、茅葺きに用いるためのススキやヨシなどを育成し、採取する技 術。茅刈り、茅立て、茅選りという一連の作業を手際よく行う。同協会は、 「ふるさと文化財の森」に設定されている高エネルギー加速器研究機構茅 場において、同技術の保存・伝承に尽力している。			

### (3) ユネスコ無形文化遺産一覧

No.	名 称 等	概 要	登録年月日
1	結城紬（茨城・栃木）	結城紬は、結城市及び栃木県小山市を中心に製織されている。糸はすべて真綿から手つむぎしたもののみを使用し、 <sup>かすり</sup> 縞模様は手くびりにより、織りには <sup>たていと</sup> 経糸を腰で吊る織機を用いるなど、伝統的な技法を継承している。古代より受け継がれてきた技術と文化が世界に認められた。	平 22. 11. 16
2	山・鉾・屋台行事 〔日立風流物〕	地域社会の安泰や災厄防除を願い、地域の人々が一体となって執り行う「山・鉾・屋台」の巡行を中心とする祭礼行事。平成 21 年に無形文化遺産に登録された日立風流物（茨城）、京都祇園祭の山鉾行事（京都）に、国指定重要無形民俗文化財 31 件を追加し、計 33 件の行事として平成 28 年に拡張登録された。	平 21. 9. 30 平 28. 11. 30
3	伝統建築工匠の技—木造建造物を受け継ぐための伝統技術— 〔茅採取〕	古代以来途絶えることなく伝統を受け継ぎながら、工夫を重ねて発展してきた 17 件の国選定保存技術。自然素材を建築空間に生かす知恵、周期的な保存修理を見据えた材料の採取や再利用、建築当初部材と取り替える新材との調和や一体化を実現する高度な技術が含まれている。	令 2. 12. 17

## (4) 県指定文化財一覧

### ア 有形文化財

#### 【建造物】

(表中の凡例) 解：解体修理工事、半解：半解体修理工事、部：部分修理、自：県補助事業以外の自費修理工事

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	建立年代・現状屋根・修理実績
1	三重塔 1棟	桜川市真壁町椎尾 3178 薬王院	昭 30. 6. 25	宝永元年（1704）再建。棟梁桜井瀬左衛門。
2	逢善寺仁王門 1棟	稲敷市小野 318 逢善寺	昭 32. 6. 26	万治年間。東京日枝神社より移築（明2）。 解（昭50）
3	大生神社本殿 1棟	潮来市大生 814 大生神社	昭 32. 6. 26	江戸中期。銅板葺。解（昭48～49）
4	厨子 1基	稲敷市神宮寺 146 神宮寺	昭 33. 3. 12	室町末期。本瓦型板葺。解（平2）
5	長勝寺本堂 1棟	潮来市潮来 428 長勝寺	昭 33. 3. 12	元禄年間。禅宗建築。入母屋造、茅葺。 内部土間。解（昭56～60）
6	長勝寺楼門 1棟	潮来市潮来 428 長勝寺	昭 33. 3. 12	桃山期に建立し、移築か。二重二階門。 解（昭56～60、銅板葺に変更）
7	旧水海道小学校玄関 1棟	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 33. 3. 12	明治14年（1881）建築。移築復原（昭48）
8	八坂神社本殿 1棟	つくば市玉取 2617 八坂神社	昭 34. 5. 22	宝永年間。流造。
9	鹿島神社本殿 1棟	桜川市真壁町上谷貝 1390 鹿島神社	昭 34. 5. 22	江戸中期。茅葺。屋根（平19）
10	薬王院仁王門 1棟	水戸市元吉田町 682 薬王院	昭 34. 5. 22	貞享期の八脚門。解（平元～3） 自屋根（平25）
11	石造祥光寺多宝塔 1棟	桜川市本木 78 祥光寺	昭 35. 3. 28	建仁2年（1202）。石造。
12	不動院三重塔 1棟	つくばみらい市板橋 不動院	昭 35. 12. 21	安永5年（1776）。瓦棒銅板葺。解（平7）
13	石造五輪塔 1棟	つくば市小田 小田中部区	昭 37. 10. 24	天文7年（1538）[刻銘]。
14	石造五輪塔 1棟	かすみがうら市山本 かすみがうら市	昭 39. 7. 31	天文14年（1545）[銘]。
15	不動院本堂 1棟	つくばみらい市板橋 不動院	昭 40. 2. 24	安永年間。重層の密教本堂。
16	国王神社本殿 1棟	坂東市岩井 951 国王神社	昭 41. 3. 7	天和3年（1683）の流造。茅葺。
17	巖島神社本殿 1棟	鉾田市子生 877 巖島神社	昭 43. 3. 28	元禄年間の禅宗様系。
18	石岡の陣屋門 1棟	石岡市総社 1 石岡市	昭 43. 9. 26	文政11年（1828）。府中藩陣屋門。 解（平15）
19	観音寺本堂 1棟	潮来市上戸 624 観音寺	昭 44. 3. 20	室町中～末期。寄棟造、茅葺。解（平10）
20	阿弥陀堂本堂 1棟	常陸太田市大里町 3708 来迎院（管理責任者 大里町）	昭 44. 3. 20	享保3年（1718）。方形造、茅葺。 屋根（平29）
21	阿弥陀堂楼門 1棟	常陸太田市大里町 3708 来迎院（管理責任者 大里町）	昭 44. 3. 20	宝暦10年（1760）。入母屋造、茅葺。 屋根部（平25）

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	建立年代・現状屋根・修理実績
22	笠間城櫓 1棟	笠間市笠間 323 真浄寺	昭 44. 12. 1	江戸末期。笠間藩物見櫓。廃城の際移築(明 10)。
23	旧茂木家住宅 1棟	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 45. 5. 28	江戸中期。旧牛堀町から移築復原(昭 48)。 茅葺。屋根(平 11)
24	旧所家住宅 1棟	潮来市日の出 4-7 潮来市	昭 45. 5. 28	18世紀後半。桂村から移築復原(昭 47)。 茅葺。銅板葺覆屋。
25	阿弥陀堂 1棟	行方市羽生 745 万福寺	昭 45. 9. 28	貞享 4 年(1687)。茅葺。屋根(平 25)
26	仁王門 1棟	行方市羽生 745 万福寺	昭 45. 9. 28	天正年間。八脚門。茅葺。逢善寺から享保 9 年(1724)に移築[伝承]。屋根(平 25)
27	西光院本堂 1棟	石岡市吉生 個人	昭 45. 9. 28	寛政 3 年(1791)。懸造、銅板葺。半解(昭 47)
28	大洗磯前神社本殿・拝殿 2棟	大洗町磯浜町 6890 大洗磯前神社	昭 45. 9. 28	本殿：元禄期、拝殿：江戸中期。 塗装(平 18~19)
29	長勝寺(方丈・書院・玄関 ・庫裡・隠寮) 1棟	潮来市潮来 428 長勝寺	昭 46. 3. 29	元禄年間。瓦葺。
30	小山寺本堂・仁王門・鐘楼 3棟	桜川市富谷 2190 小山寺	昭 46. 10. 28	本堂：元禄 10 年(1697)。大修理(平 4~5) 仁王門：享保 16 年(1731)。解(平 23~24) 鐘楼：享保 16 年。
31	四脚門 1棟	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 46. 12. 2	室町末期。茅葺。 屋根(平 18)・解(平 29~30)
32	前野家住宅 1棟	土浦市永井 個人	昭 47. 12. 18	直屋。文化 3 年(1806) [棟札]。
33	八柱神社本殿 1棟	桜川市真壁町塙世 968 八柱神社	昭 47. 12. 18	天明期建立。大聖天(歓喜天)を祀る。
34	鈴木家住宅 1棟	那珂市額田南郷 個人	昭 47. 12. 18	貞享 4 年(1687)改築。御殿と呼称。茅葺。
35	旧中山家住宅 1棟	古河市鴻巣 1045 古河市	昭 48. 8. 27	17世紀末。坂東市から移築復元(昭 49)。
36	富岡家住宅 1棟	土浦市白鳥町 個人	昭 49. 3. 31	江戸前期。茅葺。屋根修理(平 22)
37	二十三夜尊堂(旧延方学校 聖堂) 1棟	潮来市辻 197-7 月読神社	昭 49. 3. 31	文化 4 年(1807)。唐様、銅板葺。内田山 から移築(明 11)。塗装(平 18)
38	無量寿寺鐘楼 1棟	銚田市鳥栖 1013 無量寿寺	昭 49. 3. 31	享保 12 年(1727)。茅葺。避雷(昭 57) ・屋根自(平 15)・部自(平 15)
39	無量寿寺山門 1棟	銚田市鳥栖 1013 無量寿寺	昭 49. 3. 31	元禄頃。銅板葺(当初は茅葺)。
40	小野家住宅 1棟	日立市諏訪町 個人	昭 49. 11. 25	18世紀前半。曲屋形式。山横目住宅。茅葺。
41	木村家住宅(旧水戸街道旅 籠皆川屋) 1棟	かすみがうら市下稻吉 個人	昭 49. 11. 25	安政 4 年(1857)。水戸街道稻吉宿。 解体(昭 51)
42	不動院楼門 1棟	つくばみらい市板橋 不動院	昭 49. 11. 25	元禄年間。瓦棒銅板葺。解(平 20~23)
43	雨引観音本堂 1棟	桜川市本木 1 楽法寺	昭 50. 3. 25	宝永 7 年(1710)。棟梁桜井瀬左衛門。密教 本堂。
44	雨引観音仁王門 1棟	桜川市本木 1 楽法寺	昭 50. 3. 25	宝永年間。本瓦葺(明 23 変更。当初茅葺)。
45	旧宍戸城表門 (附宍戸氏家紋) 1棟	笠間市土師 個人	昭 51. 7. 5	天保 15 年(1845)。長屋門形式。棧瓦葺。 明治初移築。大規模修理(昭 60~61)

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	建立年代・現状屋根・修理実績
46	雨引観音楽法寺東照山王社 殿（附棟札2枚） 1棟	桜川市本木1 楽法寺	昭51.7.5	享保12年（1727）。解（平元）。現状変更（平元：鉄板葺から柿葺へ）
47	雨引観音楽法寺多宝塔 （附棟札1枚） 1棟	桜川市本木1 楽法寺	昭51.7.5	嘉永6年（1853）〔棟札〕。大規模多宝塔。部（昭56～58）・解（昭63）
48	香取神社本殿 1棟	坂東市沓掛4124 香取神社	昭52.5.2	18世紀前期。木羽葺。塗（平3）・部（平4）
49	鹿島神社本殿 （附棟札1枚） 1棟	つくば市大形 鹿島神社	昭52.5.2	延享2年（1745）。柿葺。覆屋は瓦棒トタン葺。部自（平15・浜床）
50	国王神社拝殿 1棟	坂東市岩井951 国王神社	昭52.7.18	文化14年（社伝延宝3年）。茅葺。現状変更（昭63、銅製グシ）。屋根（平15・平19）。
51	筑波山神社神橋 1棟	つくば市筑波1 筑波山神社	昭54.11.1	寛永10年（1633）。柿葺。元禄15年（1702）改修。塗（昭63）・部（令元）
52	筑波山神社境内社春日神社 本殿・日枝神社本殿及両社拝 殿 3棟	つくば市筑波1 筑波山神社	昭54.11.1	寛永10年（1633）〔小屋裏墨書銘〕。もとは柿葺。現状は3棟とも瓦棒銅板葺。
53	筑波山神社境内社巖島神 社本殿 1棟	つくば市筑波1 筑波山神社	昭54.11.1	寛永10年（1633）。春日造、柿葺。塗装自（平8）
54	逢善寺本堂 1棟	稲敷市小野318 逢善寺	昭55.2.28	天保年間。密教本堂様式。銅板葺。解（昭56～61）
55	逢善寺書院・庫裡 1棟	稲敷市小野318 逢善寺	昭55.2.28	文久2年（1862）。豪壮。茅葺。屋根（平17）・庫裏屋根（平19～20）
56	矢口家住宅 3棟 （附家相図7枚）	土浦市中央 個人	昭55.12.25	天保末年。土蔵造、棧瓦葺。部（昭55、台所・食堂など）・屋根部（平3）・解（平27）
57	旧水戸城薬医門 1棟	水戸市三の丸3-10-1 茨城県教育委員会	昭58.3.18	桃山末期。茅葺風銅板葺。移築復原（昭56）
58	穂積家住宅（主屋1棟・長屋 門1棟・前蔵1棟・衣裳蔵1棟、 敷地4,172.71㎡、附屋敷図屏風 1雙） 4棟	高萩市上手綱2337 高萩市	平元.1.25	主屋：寛政元年（1789）。茅葺。自解（平12～15）・自屋根（平22）
59	大場家住宅 （主屋1棟・表門1棟・通用 門1棟、敷地2,485.29㎡、 附家相図等2枚） 3棟	行方市玉造甲4533 公益財団法人 大山守大場家保存協会	平元.4.6	江戸中～後期。大山守住宅。茅葺。解（平16～20）。主屋：部（平2）・屋根（平4）。長屋門：屋根（平5・平30）。通用門：屋根（平5・平30）。現状変更（平8、主屋役宅部脇・厩解体保存）
60	鷲子山上神社本殿（附棟札 2枚）・随神門（附棟札 1枚） 2棟	常陸大宮市鷲子3627 鷲子山上神社	平2.1.25	本殿：天明8年（1788） 随神門：文化12年（1815） ともに大修理（明治24）

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	建立年代・現状屋根・修理実績
61	吉沼八幡神社本殿・本殿 覆屋 2棟	つくば市吉沼 1456 吉沼八幡神社	平2.1.25	本殿：貞享2年(1685)〔墨書〕。茅葺 覆屋：慶応3年(1867)。棧瓦葺
62	観音寺本堂・仁王門 2棟 (附宮殿1基・須弥壇1 基・棟札14枚・銘板1枚)	牛久市久野町 2976 観音寺	平3.1.25	本堂：宝永4年(1707)大修理。茅葺形銅 板葺(本堂)。鉄板葺(仁王門)。半解(平 元)
63	<small>かなむら</small> 金村別雷神社本殿・本殿 覆屋(附棟札1枚) 2棟	つくば市上郷 8319-1 金村別雷神社	平3.1.25	正徳元年(1711)
64	綿引家住宅主屋・倉 2棟	水戸市元吉田町 個人	平3.1.25	江戸後期。ともに茅葺
65	<small>かもとり</small> 鴨鳥五所神社本殿 1棟 (附棟札2枚・銘札1枚)	桜川市大泉 1480 鴨鳥五所神社	平5.1.25	室町中期。銅板葺(昭32、茅葺から変更)
66	熊野神社本殿 1棟 (附棟札8枚)	行方市島並 1298 熊野神社	平7.1.23	万治年間。銅板葺
67	旧取手宿本陣染野家住宅 主屋・土蔵 2棟 (附表門1棟)	取手市取手 2-16-41 取手市教育委員会	平8.1.25	寛政7年(1795)。茅葺。 土蔵(昭62・63)、主屋(平4～6)解。 附追加指定表門(平26.1.27)
68	<small>がっさんじ</small> 月山寺書院 1棟	桜川市西小埜 1677 月山寺	平10.1.21	江戸初期。茅葺。自差茅(平10・平13)。 解(平27)
69	羽黒神社本殿 1棟 (附棟札1枚)	筑西市甲 37 宗教法人羽黒神社	平14.1.25	寛永年間。享保年間に大修理。 自屋根修理(平11)
70	上羽黒神社本殿及び拝殿 2棟	筑西市岡芹 968-1 宗教法人上羽黒神社	平14.1.25	本殿・拝殿とも寛永期。 本殿屋根トタン塗装(平18)
71	長禅寺三世堂 1棟	取手市取手 2-9-1 宗教法人長禅寺	平16.1.8	宝暦13年(1763)再建。享和元年(1801)再営〔とも に棟札〕。寛政12年(1800)修理〔擬宝珠刻銘〕。
72	旧畑家住宅(麻生藩家老 屋敷記念館) 1棟 (附表門1棟)	行方市麻生 1153-1 行方市	平20.11.17	安政4年(1857)再建〔棟札〕。 屋根葺替、部分修理(平3～5)・自屋根葺 替(平22～23)
73	木村家住宅 1棟	茨城町長岡 個人	平26.1.27	江戸末期(安政5、6年頃(1858-1859頃))。 自・半解(平17～19)
74	東漸寺観音堂・山門 2棟 (附宮殿1基、棟札1枚)	取手市本郷 3-9-19 宗教法人東漸寺	平27.1.22	観音堂：寛文7年(1667)。茅葺型銅板葺。 自・解(平18～20) 山門：元禄3年(1690)。茅葺。
75	佛性寺観音堂・仁王門 2棟 (附観音堂宮殿1基・棟 札1枚)	八千代町大字栗山 476 佛性寺	平29.12.25	観音堂：延宝8年(1680)。鉄板葺(昭38)。 仁王門：安永3年(1774)。棧瓦葺(昭38)。 いずれももと茅葺



No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	建立年代・現状屋根・修理実績
76	旧土肥家住宅 2棟	ひたちなか市阿字ヶ浦町字千駄切 552-13 国営ひたち海浜公園「みはらしの里」 国土交通省関東地方整備局 国営常陸海浜公園事務所	平 30. 12. 27	主屋：17世紀中期頃。 隠居屋：宝永3年（1706）。 旧新利根村太田から移築復原（平22）。 茅葺。
77	旧小松家住宅 1棟	小美玉市下玉里 1831 小美玉市	令元. 12. 26	18世紀後期。上玉里から移築復原（平9）。 茅葺。曲屋「二つ曲がり」。

## 【絵画】

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	時代・備考
1	梵字曼陀羅 1幅	桜川市西小塙 1677 月山寺	昭 28. 7. 9	室町初期。刺繍曼茶羅。
2	ごだいそんえぞう 五大尊絵像 2幅	常陸太田市玉造町 495 愛宕神社	昭 30. 1. 25	鎌倉末期。表装（昭55）
3	絹本曼茶羅 1幅	坂東市 <sup>おいご</sup> 生子1617 萬蔵院	昭 30. 6. 25	鎌倉時代。金剛界曼茶羅。
4	絹本 <sup>ふげんぼさつ</sup> 普賢菩薩像 1幅	土浦市文京町 1-27 神龍寺	昭 30. 6. 25	室町時代。修理（平9）
5	絹本 当麻曼茶羅 1幅	結城市結城 1591 弘経寺	昭 32. 1. 25	鎌倉末期。
6	襖絵（紙本） 10幅	結城市結城 1591 弘経寺	昭 32. 1. 25	江戸時代宝暦頃。与謝蕪村筆。
7	武者肖像画 1幅	結城市結城 461 孝顕寺	昭 32. 1. 25	桃山時代。結城 <sup>まさとも</sup> 政朝像。
8	両部曼茶羅 2幅	桜川市西小塙 1677 月山寺	昭 32. 6. 26	文亀2年（1502）〔箱書〕。
9	結城 <sup>はるとも</sup> 晴朝肖像画 1幅	結城市結城 461 孝顕寺	昭 32. 6. 26	慶長年間。
10	結城 <sup>まさとも</sup> 政朝夫人肖像画 1幅	結城市結城 461 孝顕寺	昭 32. 6. 26	天文年間。比丘尼姿。
11	むそうこくしちんぞう 夢窓国師頂相 1幅	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 32. 6. 26	室町時代。修理（昭59）
12	がつさん ちんぞう 月山和尚頂相 1幅	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 32. 6. 26	応永12年（1405）。
13	十六羅漢像 16幅	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 32. 6. 26	りりゅうみん 李竜珉様。修理（昭61～62）
14	と きよりふさ 土岐頼英夫人肖像画 1幅	稲敷市下太田 79 智心院	昭 33. 3. 12	万治3年（1660）。
15	だいがく 太嶽大和尚頂相 1幅	潮来市潮来 428 長勝寺	昭 33. 3. 12	元禄年間。
16	絹本着色 愛染明王画像 1幅	桜川市本木 1 楽法寺	昭 34. 5. 22	鎌倉時代。
17	絹本着色 弁財天画像 1幅	桜川市本木 1 楽法寺	昭 34. 5. 22	鎌倉末期。 <sup>はっぴ</sup> 八臂像。
18	絹本着色 十一面観音画像 1幅	桜川市本木 1 楽法寺	昭 34. 5. 22	鎌倉末期。
19	絹本着色 釈迦十六善神画像 1幅	つくば市栗原 1129 北斗寺	昭 35. 12. 13	南北朝時代。
20	絹本着色 興教大師画像 1幅	つくば市栗原 1129 北斗寺	昭 35. 12. 13	鎌倉末期～南北朝初期。
21	絹本着色 黄不動明王画像 1幅	つくば市栗原 1129 北斗寺	昭 35. 12. 13	鎌倉時代。
22	絹本着色 <sup>ごひょう</sup> 御廟天神画 1幅	常総市 <sup>おおのごう</sup> 大生郷町 1234 大生郷天満宮	昭 35. 12. 13	室町時代。
23	絹本着色 <sup>おみきてんじん</sup> 神酒天神画 1幅	常総市大生郷町 1234 大生郷天満宮	昭 35. 12. 13	室町時代。

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	時代・備考
24	紙本着色 北野天神縁起絵巻 2巻	常総市大生郷町1234 大生郷天満宮	昭35.12.13	応永22年(1415) [銘]。
25	紙本着色 三十六歌仙絵 6幅	常総市大生郷町1234 大生郷天満宮	昭35.12.13	室町時代。
26	紙本著色 三十六歌仙(紙本歌 帳を含む) 35枚	那珂市静9 静神社	昭37.10.24	しょうげつけんとうぜん 松月軒等善筆。 天保年間に1枚焼失。
27	絹本著色 八景の図 3幅	筑西市中舘522 観音寺	昭37.10.24	延宝元年(1673)。狩野探幽筆。
28	絹本著色 十三仏 1幅	境町西泉田1326-1 境町教育委員会	昭37.10.24	室町時代か。
29	絹本著色 阿弥陀如来像 1幅	茨城町鳥羽田656 円福寺	昭37.10.24	鎌倉末期。
30	絹本著色 両界曼荼羅 2幅	古河市小堤1405 円満寺	昭38.8.23	鎌倉時代。
31	絹本著色 来迎弥陀三尊像 1幅	坂東市岩井1111 延命寺	昭38.8.23	鎌倉末期。
32	絵馬 1枚	筑西市甲37 羽黒神社	昭38.8.23	寛永15年(1638)。軍馬絵。
33	絹本著色 土井利勝肖像画 1幅	古河市大手町7-1 正定寺	昭39.7.31	江戸時代。
34	絵馬 1枚	筑西市岡芹968-1 上羽黒神社	昭39.7.31	羽黒神社の絵馬と一対。
35	絹本著色 弁財天画像 1幅	水戸市緑町2-1-15 茨城県立歴史館	昭39.7.31	室町時代。修理(平16)
36	絹本著色 涅槃像 1幅	かすみがうら市中志筑1353 長興寺 (茨城県立歴史館寄託)	昭41.3.7	室町初期。
37	絹本着色 釈迦涅槃像 1幅	土浦市高岡1890 法雲寺	昭43.3.28	宋画の影響。修理(平3)
38	紙本着色 小田政治肖像画 1幅	土浦市高岡1890 法雲寺	昭43.3.28	大永2年(1522) [賛]。
39	紙本着色 小田氏治肖像画 1幅	土浦市高岡1890 法雲寺	昭43.3.28	天正16年(1588) [賛]。
40	絹本色糸 蓮糸織出六字名号 1幅	つくば市若栗498 念向寺	昭44.3.20	室町時代。刺繍。
41	絹本着色 愛染明王像 1幅	つくば市中根530 慈恩寺	昭44.3.20	室町時代。
42	絹本着色 阿弥陀如来画像 1幅	小美玉市与沢 個人	昭44.3.20	鎌倉時代か。修理(平8)
43	絹本着色 善導大師画像 1幅	小美玉市与沢 個人	昭44.3.20	鎌倉時代か。
44	絹本着色 聖徳太子勝鬘経 御講讀図 1幅	小美玉市与沢 個人	昭44.3.20	鎌倉時代か。
45	絹本着色 金剛界大日如来画像 1幅	大洗町大貫町802 西光院	昭44.3.20	室町時代。
46	絹本着色 両界曼荼羅 2幅	常陸太田市玉造町495 愛宕神社	昭44.3.20	鎌倉時代。廃寺明王山弥勒寺 伝来のもの。

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	時代・備考
47	絹本着色 阿弥陀三尊来迎仏 3幅	かすみがうら市宍倉 787 最勝寺	昭 44. 12. 1	鎌倉末期。修理（平 16）
48	来迎の弥陀 1軸	筑西市大字森添島 1107-1 観音院	昭 45. 9. 28	鎌倉中期。
49	<sup>かざん</sup> 華山潮来明 <sup>めいげつ</sup> 月舟遊の図 1枚	潮来市辻 個人	昭 46. 10. 28	渡辺崋山が榊原家滞在中に描く。
50	涅槃図 1幅	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	鎌倉末期。釈迦八相を描く。
51	<sup>ちこう</sup> 智光曼荼羅 1幅	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	著色金泥画。
52	<sup>せいけい</sup> 清海曼荼羅 1幅	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	紺地金泥画。
53	親鸞聖人画像 1幅	大洗町磯浜町 7920 願入寺	昭 47. 12. 18	<sup>まむきのみえい</sup> 真向御影。修理（平 16）
54	絹本著色 阿弥陀如来来迎図 1幅	日立市宮田町 5-2-22 日立市郷土博物館	昭 49. 3. 31	鎌倉末期か。
55	絹本着色 両界曼荼羅 2幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町時代。修理（昭 62-63）
56	絹本着色 弘法大師像 1幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	修理（昭 63）
57	絹本着色 <sup>しんごんはつそ</sup> 真言八祖像 8幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	修理（昭 56、57、59）
58	絹本着色 十二天立像 12幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	修理（昭 60、61）
59	絹本着色 六字経曼荼羅 1幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町後期。
60	絹本着色 十三仏図 1幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町末期。
61	絹本着色 釈迦十六善神図 1幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	南北朝～室町初期。
62	紙本着色 <sup>せいたかどうじ</sup> 制吒迦童子像 1幅	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町末期。
63	紙本着色 両界曼荼羅 2幅	鹿嶋市浜津賀 378 <sup>じがんじ</sup> 慈眼寺	昭 52. 5. 2	室町時代。
64	絹本著色 両界曼荼羅図 2幅	筑西市桑山 1696-1 神宮寺	昭 57. 3. 4	室町前半。
65	扁額三十六歌仙絵 14面	石岡市総社 2-8-1 常陸国総社宮	昭 58. 3. 18	文亀 2（1502）～3年。
66	紙本著色 滝見観音図 雪村筆 1幅	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 62. 1. 26	天文 11年（1542）前後か。
67	絹本著色 如意輪観音像 1幅	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 62. 1. 26	14世紀前半頃。
68	絹本著色 滝見観音図 1幅	那珂市下大賀 1145 弘願寺 (茨城県立歴史館寄託)	昭 63. 1. 25	雪村が正宗寺蔵「滝見観音図」を描いた際に参考にした作品。
69	紙本著色 <sup>どうま</sup> 伝真壁道無 1幅	桜川市真壁町真壁 57-1 桜川市	平 11. 11. 25	16世紀後半。真壁久幹を描く。
70	絹本墨画 <sup>ろがんず</sup> 芦雁図 <sup>たちほらきょうしよ</sup> 立原杏所筆 1幅	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	平 14. 1. 25	江戸後期。関東文人画の一人。
71	絹本著色 <sup>かんぎょう</sup> 観経十六観変相図 1幅	高萩市本町 1-128 大高寺	平 14. 1. 25	高麗 14世紀初頭。
72	絹本著色 <sup>りゅうとう</sup> 流燈 横山大観筆 1幅	水戸市千波町 666-1 茨城県近代美術館	平 16. 1. 8	明治 42年（1909）。五浦海岸で制作。
73	絹本著色 源頼朝像 狩野洞雲筆 1幅	潮来市潮来 428 宗教法人長勝寺	平 16. 11. 25	元禄年間。太嶽の自賛あり。

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	時代・備考
74	紙本著色 釈迦羅漢像 <sup>せつそん</sup> 雪村 <sup>せつそん</sup> 周継筆 <sup>しゅうけい</sup> 3幅	石岡市柿岡 2136 宗教法人善慶寺	平 17. 11. 25	中幅に釈迦と阿難・迦葉、左右幅に五人ずつ羅漢。晩年の作。
75	紙本墨画 維摩居士像(附徳川 光圀書状4通 松平頼救跋 1枚) 1幅	銚田市大蔵 113 宗教法人福泉寺	平 17. 11. 25	維摩は在家の釈迦の弟子。中世の本格的な水墨画。
76	絹本著色 聖徳太子絵 1幅 伝	東海村石神外宿 宗教法人願船寺	平 18. 11. 16	室町初期。略絵伝様式初期の作。
77	カルピスの包み紙のある静物 中 村彝筆 <sup>つね</sup> 油絵 麻布 1923年 1面	水戸市千波町 666-1 茨城県近代美術館	平 18. 11. 16	本県出身の洋画家中村彝晩年の代表作。
78	紙本淡彩 海島秋来 <sup>かいとうしゅうらい</sup> 小川 芋銭筆 <sup>うせん</sup> 1幅	水戸市千波町 666-1 茨城県近代美術館	平 22. 11. 18	本県出身の画家小川芋銭晩年の代表作。
79	絹本彩色 阿房劫火 <sup>あぼうごうか</sup> 木村武山 筆 1幅	水戸市千波町 666-1 茨城県近代美術館	平 22. 11. 18	本県出身の画家木村武山の代表作。
80	絹本著色 毘沙門天像 1幅	筑西市黒子 214-1 宗教法人東睿山千妙寺	平 28. 1. 21	鎌倉後期。東国における有力な天台宗寺院の千妙寺の寺宝。
81	絹本著色 日吉山王本地仏曼 荼羅図 1幅	筑西市黒子 214-1 宗教法人東睿山千妙寺 (茨城県立歴史館寄託)	平 29. 1. 26	鎌倉後期。東国における有力な天台宗寺院の千妙寺の寺宝。
82	紙本著色 金山寺図屏風 雪 村周継筆 6曲1隻 <sup>せき</sup>	笠間市笠間 39 笠間稲荷神社	平 29. 12. 25	室町末期。雄大な景観と繊細な建物等を幻想的に描く。
83	絹本著色阿弥陀如来来迎図 1幅	笠間市笠間 350 宗教法人月崇寺	令 5. 12. 28	鎌倉時代。修行者の前に阿弥陀仏が現前するさまを表す。

## 【彫刻】

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	制作年代・備考
1	薬師如来木造 1軀	桜川市西小墾 1677 月山寺 <sup>がつさんじ</sup>	昭 28. 7. 9	鎌倉後期。
2	鍍金仏 <sup>とくきんぶつ</sup> 1軀	水戸市緑町 1-2-1 信願寺	昭 29. 8. 18	鎌倉時代。善光寺式像。
3	薬師瑠璃光如来像 <sup>るりこう</sup> 1軀	桜川市椎尾 3178 薬王院	昭 30. 1. 25	鎌倉後期。
4	聖徳太子木像 1軀	坂東市みむら 1793 妙安寺	昭 30. 1. 25	14世紀後半。
5	阿弥陀如来像 1軀	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 30. 1. 25	鎌倉末期。安阿弥様。
6	金剛力士像 2体	坂東市生子 1617 萬蔵院	昭 30. 6. 25	鎌倉時代か。
7	御神像 1軀	つくば市上境 328 体見神社	昭 30. 11. 25	天文年間の修理銘文。
8	木造佐白観音坐像 1体	笠間市笠間 1056-1 正福寺	昭 32. 1. 25	鎌倉半ば。千手観音。
9	菩薩像 2体	桜川市西小墾 1677 月山寺	昭 32. 1. 25	平安後期。
10	薬師如来像 1体	桜川市西小墾 1677 月山寺	昭 32. 1. 25	鎌倉時代。定朝様踏襲。

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	制作年代・備考
11	十一面観世音菩薩像 1 軀	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 32. 6. 26	鎌倉末期頃。
12	阿弥陀如来坐像及両脇侍像 3 軀	潮来市潮来 428 長勝寺	昭 33. 3. 12	鎌倉前期。
13	阿弥陀如来立像及両脇侍像 3 軀	行方市羽生 745 万福寺	昭 33. 3. 12	14 世紀前半。
14	地藏菩薩立像 1 軀	かすみがうら市戸崎 1300 松学寺	昭 33. 3. 12	平安風の鎌倉時代作か。
15	阿弥陀如来坐像 1 軀	牛久市奥原町 2412 <sup>がみみょうじ</sup> 願名寺	昭 33. 3. 12	13 世紀前半～半ば。
16	毘沙門天立像 1 軀	美浦村布佐 1080 美浦村	昭 33. 3. 12	鎌倉時代。修理（昭 62）
17	薬師如来立像 1 軀	美浦村土浦 2060 妙香寺	昭 33. 3. 12	鎌倉時代。480cm。
18	釈迦如来立像 1 軀	稲敷市阿波崎 177 満願寺	昭 33. 3. 12	7 世紀後半。金銅仏。
19	寝釈迦像 1 軀	稲敷市上根本 3063 阿弥陀寺	昭 33. 3. 12	江戸時代。
20	不動明王坐像 1 軀	結城市山川新宿 311-1 <sup>だいえい</sup> 大栄寺	昭 33. 3. 12	室町時代。修理（平 18）
21	薬師如来坐像 1 軀	行方市西蓮寺 504 西蓮寺	昭 33. 3. 12	平安後期（11 世紀末）。
22	観音菩薩立像 1 軀	潮来市大生 750 延命院	昭 33. 3. 12	平安中期。
23	増長天立像 1 軀	北茨城市磯原町大塚 135 長福寺	昭 33. 7. 23	平安末期。
24	聖徳太子立像 1 軀	常陸大宮市鷲子 2236-1 照願寺	昭 33. 7. 23	十六歳孝養太子像。
25	十一面観音菩薩坐像 1 軀	桜川市富谷 2190 小山寺	昭 33. 7. 23	11 世紀。鉦彫像。
26	<sup>こまいぬ</sup> 木造狛犬 2 軀	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	江戸初期。
27	<sup>かけぼとけ</sup> 懸仏 1 軀	稲敷市高田 個人	昭 33. 7. 23	銅板製鍍金。
28	木造薬師如来坐像 1 軀	水戸市元吉田町 682 薬王院	昭 34. 5. 22	13 世紀後半。
29	木造神像 1 軀	常陸太田市西河内中町 239 天満神社	昭 34. 5. 22	鎌倉後期。男神坐像。
30	金銅造阿弥陀如来立像 1 軀	土浦市立田町 3-28 浄真寺	昭 34. 5. 22	弘長元年（1261）〔銘〕。 善光寺式像。
31	木造阿弥陀如来座像 1 軀	桜川市本木 78 <sup>しょうこうじ</sup> 祥光寺	昭 35. 3. 28	平安末期。
32	銅板十一面観音御正体 <sup>みしょうたい</sup> 1 面	土浦市真鍋 個人	昭 35. 3. 28	線刻。
33	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	坂東市辺田 355 西念寺	昭 35. 12. 21	鎌倉初期。定朝様。修理（平 18）
34	木造釈迦如来座像 1 軀	水戸市飯島町 512 福性院	昭 35. 12. 21	13 世紀後半。在地仏師の作。
35	<sup>たちきかんのんぼさつぞう</sup> 木造立木観音菩薩像 1 軀	石岡市吉生 個人	昭 36. 7. 21	12 世紀〔1574 年修理銘〕。
36	木造弘法大師像 1 軀	城里町徳蔵 874 徳蔵寺	昭 37. 2. 26	室町時代。
37	両界曼荼羅版木 1 面	城里町徳蔵 874 徳蔵寺	昭 37. 2. 26	室町時代。
38	金銅阿弥陀三尊像 3 軀	下妻市高道祖 4429 常願寺	昭 37. 2. 26	14 世紀。善光寺式三尊。
39	浅川獅子頭 3 頭	大子町浅川 3903 浅川ささら保存会	昭 37. 2. 26	寛永 7 年（1630）。
40	<sup>じこくてん</sup> 木造持国天立像 1 軀	北茨城市磯原町大塚 135 長福寺	昭 37. 10. 24	平安末期。
41	木造阿弥陀如来三尊像 3 軀	茨城町鳥羽田 656 円福寺	昭 37. 10. 24	徳治 2 年（1307）〔銘札〕。
42	石造地藏菩薩立像（石造籠 <sup>がん</sup> を含む） 1 軀	つくば市小田 4003 小田中部区	昭 37. 10. 24	正応 2 年（1289）〔刻銘〕。
43	木造釈迦如来三尊像 3 軀	日立市宮田町 5-6-15 大雄院	昭 37. 10. 24	文明 6 年（1474）〔銘〕。
44	木造大黒天像 1 軀	水戸市河和田町 887 報仏寺	昭 37. 10. 24	室町末期か。

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	制作年代・備考
45	木造 <sup>あたごみょうじんりゅうぞう</sup> 愛宕明神立像 1 軀	筑西市甲 37 羽黒神社	昭 38. 8. 23	鎌倉末期。修理（昭 37）
46	木造十一面千手観音像 1 軀	かすみがうら市中志筑 須賀神社氏子	昭 38. 8. 23	13 世紀後半。
47	石造阿弥陀如来立像 1 軀	かすみがうら市高倉 1387 高倉区	昭 38. 8. 23	元享 4 年（1324）造立。
48	ひやくたいまがいぶつ 百体磨崖仏	かすみがうら市上志筑 634 願成寺	昭 38. 8. 23	室町～江戸時代。
49	木造大日如来坐像 1 軀	坂東市岩井 1111 延命寺	昭 38. 8. 23	室町時代。
50	木造親鸞上人像 1 軀	古河市中央町 2-8-30 宗願寺	昭 39. 7. 31	室町時代。
51	木造阿弥陀如来立像 1 軀	つくばみらい市小張 2623 善空寺	昭 40. 2. 24	貞和 2 年（1346）[銘]。
52	木造狛犬 2 軀	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 40. 2. 24	鎌倉時代。
53	木造不動明王立像 1 軀	桜川市本木 1 楽法寺	昭 40. 2. 24	永享 12 年（1440）[銘]。
54	木造十一面観音立像 1 軀	石岡市若松 1-8-23 東耀寺	昭 40. 2. 24	鎌倉末期。修理（平 14）
55	銅造阿弥陀如来三尊像 3 軀	石岡市茨城 1-12-21 万福寺	昭 40. 2. 24	永仁 3 年（1295）[銘]。善光寺式像。
56	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	常陸太田市大里町 3708 来迎院	昭 40. 2. 24	修理（昭 40）
57	木造毘沙門天立像 1 軀	常陸太田市上宮河内町 3600 菊蓮寺	昭 40. 2. 24	平安末期。
58	木造女神像 1 軀	常陸太田市上宮河内町 3600 菊蓮寺	昭 40. 2. 24	平安末期。
59	木造地藏菩薩坐像 1 軀	古河市鴻巣 個人	昭 41. 3. 7	室町時代。左目半眼。
60	木造不動明王坐像 1 軀	行方市芹沢 505 法眼寺	昭 41. 3. 7	永禄 13 年（1570）[銘]。
61	金銅 <sup>たもんでん</sup> 仏多聞天 1 軀	かすみがうら市東野寺 763-11 地福院	昭 42. 3. 30	鎌倉中期。像高 15.5cm。
62	木造阿弥陀如来立像 1 軀	かすみがうら市新治 981-3 中郷谷区	昭 42. 3. 30	鎌倉時代。在地仏師の作。
63	寄木造平将門の木像 1 軀	坂東市岩井 951 国王神社	昭 42. 3. 30	室町時代か。男神坐像。
64	寄木造十一面観音立像 1 軀	笠間市手越 195 東性寺	昭 42. 3. 30	室町時代。
65	木造阿弥陀如来立像（像内寛文十三年修理奥書阿弥陀経一卷等アリ） 1 軀	茨城町下座 628 下座区	昭 42. 11. 24	修理（昭 57）
66	铸造十一面千手観音菩薩像 1 軀	城里町塩子 1736 岩谷山仏国寺	昭 42. 11. 24	室町末期。焼損修理（平 7）
67	銅造阿弥陀如来立像 1 体	土浦市高岡 1890 法雲寺 （土浦市立博物館寄託）	昭 43. 3. 28	鎌倉末期。善光寺式像。
68	木造 <sup>ちゅうほうぜんじざぞう</sup> 中峯禅師坐像 1 体	土浦市高岡 1890 法雲寺	昭 43. 3. 28	室町時代。中国元代（寺伝）。
69	金銅 <sup>けぶつ</sup> 化仏 1 軀	水戸市泉町 個人	昭 44. 3. 20	懸仏の文殊菩薩。
70	木造阿弥陀如来立像 1 軀	大洗町大貫町 802 西光院	昭 44. 3. 20	鎌倉末期。
71	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	大洗町磯浜町 5298 西福寺	昭 44. 3. 20	室町末期。
72	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	大洗町磯浜町 5298 西福寺	昭 44. 3. 20	鎌倉時代。胎内仏。
73	木造観世音菩薩立像 1 軀	大洗町磯浜町 5298 西福寺	昭 44. 3. 20	鎌倉時代。前掲胎内仏の脇侍。
74	木造 <sup>せいし</sup> 勢至菩薩立像 1 軀	大洗町磯浜町 5298 西福寺	昭 44. 3. 20	鎌倉時代。前掲胎内仏の脇侍。
75	木造十一面観世音菩薩像 1 体	笠間市大田町 324 養福寺	昭 44. 12. 1	鎌倉末期。修理（平 19～20）
76	木造阿弥陀如来坐像 1 体	かすみがうら市宍倉 787 最勝寺	昭 44. 12. 1	元禄 11 年（1698）[光圀寄進銘]。

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	制作年代・備考
77	木造弘法大師像 1体	かすみがうら市牛渡 1953 八田集落	昭44.12.1	延徳元年(1489) [銘]
78	木造十一面観音菩薩像 1体	かすみがうら市深谷 1399 法蔵寺	昭44.12.1	鎌倉末期。四臂像 <sup>よんび</sup>
79	木造不動明王・毘沙門天立像2軀	桜川市富谷 2190 小山寺	昭44.12.1	不動明王追加(平10.1.21)
80	木造大日如来坐像 1軀	日立市入四間町 752 御岩神社 <sup>おいわ</sup>	昭44.12.1	室町時代
81	木造観音菩薩坐像 1軀	日立市東河内町 899 玉簾寺 <sup>ぎよくれん</sup>	昭44.12.1	南北朝。宝冠阿弥陀
82	木造阿弥陀如来坐像 1軀	笠間市上加賀田 916 阿弥陀講世話人会	昭44.12.1	室町末期頃
83	直牒洞 <sup>じきてつどう</sup> の石仏 3体	常陸太田市松栄町 615 香仙寺	昭45.9.28	阿弥陀三尊(平安か)
84	木造不動明王像及び両童子 3軀	笠間市箱田 861 (管)下箱田総代会	昭46.1.28	室町末期
85	木造如意輪観世音菩薩像(附胎内仏) 2軀	潮来市水原 1121 愛染院	昭46.1.28	室町時代
86	木造仁王像 2体	常陸太田市下利員町 西光寺	昭46.1.28	(管責)下利員区(平17~18修理)
87	木造如意輪観世音菩薩坐像 1軀	鉾田市汲上 1731 華徳院	昭46.3.29	平安後期。修理(平10)
88	木造阿弥陀如来立像 1体	那珂市額田南郷 375 阿弥陀寺	昭46.10.28	鎌倉末期。修理(昭63)
89	木造阿弥陀如来及両脇侍立像 3軀	那珂市額田南郷 429 引接寺	昭46.10.28 (追平6.1.26)	元禄9年(1696) [光圀寄進銘]。鎌倉末期
90	木造如意輪観世音菩薩坐像 1体	桜川市坂本 452 坂本区	昭46.10.28	鎌倉時代
91	木造狛犬 1対	桜川市磯部 779 磯部稲村神社 (茨城県立歴史館寄託)	昭46.10.28	室町末期
92	木造薬師如来坐像 1体	桜川市磯部 779 磯部稲村神社 (茨城県立歴史館寄託)	昭46.10.28	貞和2年(1346) [銘]
93	木造阿弥陀如来立像 1体	常陸太田市東連地町 200 宗教法人青蓮寺	昭46.10.28	鎌倉時代
94	木造大日如来坐像 1体	神栖市波崎 3355 神善寺	昭46.12.2	元和8年(1622) [銘]
95	木造釈迦涅槃像 1体	神栖市波崎 3355 神善寺	昭46.12.2	室町時代。修理(平19~21)
96	木造狛犬 1対	桜川市西小墾 462 二所神社	昭46.12.2	室町時代
97	木造薬師如来坐像 1体	那珂市飯田 1085 一乗院	昭47.12.18	室町中期
98	木造毘沙門天像 1体	那珂市飯田 1085 一乗院	昭47.12.18	鎌倉中期。修理(平5)
99	木造吉祥天像 1体	那珂市飯田 1085 一乗院	昭47.12.18	毘沙門天の脇侍
100	木造善尼童子像 1体	那珂市飯田 1085 一乗院	昭47.12.18	毘沙門天の脇侍
101	木造阿弥陀如来脇侍三尊像 3体	常陸大宮市国長 853 阿弥陀院	昭47.12.18	鎌倉中~末期
102	銅造阿弥陀如来立像 1体	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭47.12.18	法量43.2cm
103	木造阿弥陀如来立像 1体	大洗町磯浜町 7920 願入寺	昭47.12.18	鎌倉中期
104	木造阿弥陀如来立像 1体	常陸大宮市石沢 1467 常弘寺 <sup>じょうこうじ</sup>	昭47.12.18	室町時代か
105	木造聖徳太子立像 1体	常陸大宮市石沢 1467 常弘寺	昭47.12.18	永禄6年(1563) [銘]
106	木造阿弥陀如来脇侍三尊像 3体	水戸市大塚町 満福寺代表 (茨城県立歴史館寄託)	昭47.12.18	3体とも鎌倉中期
107	金銅如意輪観音坐像 1体	行方市小幡 1038 観音寺	昭49.3.31	鎌倉後半。忍性関連か

No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	制作年代・備考
108	木造薬師如来脇侍三尊像 3体	土浦市大岩田町 1616 法泉寺	昭 49. 3. 31	鎌倉末期
109	木造薬師如来立像 1体	土浦市神立町 1215 観音寺	昭 49. 3. 31	鎌倉末期
110	木造万年 <sup>だんめう</sup> 大夫夫婦坐像（胎内像含） 4体	日立市諏訪町 3-11-13 諏訪神社	昭 49. 3. 31	元禄 3 年（1690） [光圀造立刻銘]
111	十二神将像 12体	水戸市元吉田町 682 薬王院	昭 49. 11. 25	鎌倉末期。修理（昭 49）
112	木造釈迦如来立像 1体	土浦市穴塚町 1461 般若寺	昭 50. 3. 25	鎌倉末期。修理（平 13）
113	木造金剛力士立像 2体 （附命禄三年修理銘木札 1 枚、元禄十年修理銘木札 4 枚、般若理趣経折本 1 冊）	稲敷市小野 318 逢善寺	昭 51. 7. 5	応永 9 年（1402）銘が造立年か。命禄は私年号で天文 11 年（1542）に相当。
114	木造十一面観音坐像 1体	鹿嶋市棚木 371 大福寺	昭 52. 5. 2	延元 5 年（1340）[銘]
115	木造阿弥陀如来坐像 1体	小美玉市上玉里 1700 円妙寺	昭 52. 5. 2	平安末期～鎌倉初期。 修理（平 2）
116	木造千手観音立像 1体 （附伝千手観音焼損像 1 体、伝胎内納入供養札 1 枚）	常陸太田市上宮河内町 3600 菊蓮寺	昭 54. 3. 8	寛元 2 年（1244）[銘札]。 修理（昭 62）
117	木造不動明王立像 1体	常陸太田市上宮河内町 3600 菊蓮寺	昭 54. 3. 8	平安後期
118	木造天部形立像（寺伝毘沙門天像） 1 軀	かすみがうら市東野寺 763-11 地福院	昭 54. 11. 1	12 世紀後半
119	木造薬師如来坐像 1 軀	日立市久慈町 3-18-5 久慈町薬師堂保存会	昭 54. 11. 1	11 世紀後半～12 世紀初
120	木造聖徳太子坐像 1 軀	日立市金沢町 毘沙門組太子像保存会	昭 57. 3. 4	室町末期。講讃太子像
121	木心乾漆如来形坐像 1 軀 （附乾漆断片 64 片）	八千代町栗山 476-1 佛性寺	昭 57. 3. 4	9 世紀前半。修理（平 12）
122	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	筑西市下星谷 個人	昭 57. 3. 4	鎌倉中期（13 世紀半ば）。 修理（昭 59）
123	木造観世音菩薩立像 1 軀	下妻市肘谷 203 肘谷 <sup>ひじや</sup> 自治区	昭 59. 3. 8	12 世紀。修理（昭 62）
124	木造聖徳太子立像（摂政太子像） 1 軀	下妻市下妻乙 350 光明寺	昭 59. 3. 8	南北朝時代
125	木造阿弥陀如来立像 1 軀	笠間市笠間 2591 光照寺	昭 60. 3. 25	鎌倉時代半ば
126	木造大日如来坐像 1 軀	笠間市加賀田 1773-ロ 大日如来奉賛会	昭 60. 3. 25	文永 12 年(1275)[銘]。修理 (昭 62)
127	木造十一面観音坐像 1 軀	牛久市久野町 2976 観音寺	昭 60. 12. 16	15 世紀。宋風。修理(平元)
128	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	土浦市沖宿町 1483 海蔵寺	昭 63. 1. 25	13 世紀後半。修理（昭 63）
129	木造十一面観音坐像 1 軀	古河市横山町 1-1-11 神宮寺	昭 63. 1. 25	室町時代。院派
130	木造聖徳太子立像（松葉太子像） 1 軀	古河市中田町 1334-2 光了寺	昭 63. 1. 25	南北朝時代。院派



No.	名称・数	所在地及び所有者	指定年月日	制作年代・備考
131	木造虚空蔵菩薩坐像 1 軀	桜川市真壁町田 913 山口地区	平元. 1. 25	11 世紀
132	木造菩薩立像 (伝准 胝観音) 1 軀	桜川市真壁町羽鳥 1038 羽鳥地区	平元. 1. 25	鎌倉時代
133	木造 <sup>こうち</sup> 広智上人坐像 1 軀	土浦市東城寺 650 東城寺地区	平 2. 1. 25	嘉禎 3 年 (1237) [墨書銘]
134	木造不動明王立像・毘沙門天立像 2 軀	桜川市本木 78 祥光寺	平 3. 1. 25	祥光寺阿弥陀如来脇侍像
135	木造天部立像 2 軀	桜川市真壁町白井 582 清浄院	平 4. 1. 24	平安時代 (12 世紀)
136	木造天部立像 1 軀	桜川市真壁町白井 582 清浄院	平 4. 1. 24	平安時代 (12 世紀)
137	木造薬師如来坐像 1 軀	阿見町吉原 2289 西光寺	平 5. 1. 25	平安後期。修理 (平 15)
138	木造阿弥陀如来立像 1 軀 (附木造両脇侍像 2 軀)	阿見町追原 633 蔵福寺	平 6. 1. 26	中尊: 14~15 世紀初め 修理 (平 17~18)
139	銅造薬師如来立像 1 軀	下妻市皆葉 891 薬樹山無量院	平 7. 1. 23	鎌倉時代 (13 世紀)
140	木造観音菩薩立像 1 軀	結城市結城 1139 大輪寺	平 7. 1. 23	延文元年 (1356)
141	木造如意輪観音坐像 1 軀 (附紙本墨書書状 2 通)	常総市豊岡町乙 2002 法性寺	平 7. 1. 23	応安 5 年 (1372)
142	木造阿弥陀如来坐像 1 軀	河内町生板 4947 妙行寺	平 8. 1. 25	鎌倉時代 (13 世紀)
143	木造薬師如来坐像 1 軀 (附木造両脇侍像 2 軀)	潮来市堀之内 1230 二本松寺	平 9. 1. 27	鎌倉後期 (14 世紀)
144	銅造薬師如来立像 1 軀	鉾田市梶山 846 光福寺	平 9. 1. 27	平安後期 (12 世紀)
145	木造千手観音坐像 1 軀	下妻市下妻乙 498 小野子自治区	平 11. 1. 25	鎌倉後期 (13 世紀)
146	木造 <sup>だいかいしょうりゅうぞう</sup> 大迦葉立像 1 軀	潮来市潮来 428 長勝寺	平 11. 11. 25	南北朝時代
147	銅造大日如来及三十日仏坐像 21 軀	水戸市栗崎町 1985 宗教法人仏性寺	平 12. 11. 27	室町時代
148	木造阿弥陀如来及脇侍像 2 軀	つくばみらい市福岡台入会地 大楽寺	平 12. 11. 27	13 世紀初め
149	銅造如来坐像及び菩薩立像 2 軀	鹿嶋市神向寺 125 神向寺 (茨城県立歴史館寄託)	平 14. 12. 25	9 世紀前半
150	木造狛犬 1 対	筑西市甲 37 宗教法人羽黒神社	平 16. 11. 25	鎌倉後期
151	木造聖観音菩薩立像 1 軀	稲敷市神宮寺 146 宗教法人神宮寺	平 17. 11. 25	平安末期 (12 世紀後半)
152	木造如意輪観音立像 1 軀	那珂市福田 279- 2 仲福田区	平 18. 11. 16	平安後期 (12 世紀)
153	木造十一面観音坐像 1 軀	石岡市田島 1- 2- 30 田島区	平 18. 11. 16	鎌倉中期 (13 世紀)
154	木造聖徳太子立像 1 軀 (附修理銘札 3 枚、彩色奉加帳 2 冊)	常総市菅生町 5028 宗教法人無量寺	平 19. 11. 16	鎌倉後期 (14 世紀初め)
155	木造金剛力士立像 2 軀	笠間市大田町 324 宗教法人養福寺	平 19. 11. 16	室町中期 (15 世紀中頃)
156	銅造誕生釈迦仏立像 1 軀	筑西市小栗 2762 宗教法人西光寺 (茨城県立歴史館寄託)	平 19. 11. 16	奈良後半 (8 世紀末頃)

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
157	木造十一面観音立像 1 軀	八千代町八町 149 太光山結城院新長谷寺	平 20. 11. 17	貞和 6 年 (1350)。大仏 師院祥 <sup>いんしょう</sup> 制作
158	木造阿弥陀如来坐像及立像 (伝観 音菩薩) ・ 天部立像 (伝虚空蔵菩 薩) 、木造四天王立像 7 軀	桜川市本郷 13 宗教法人妙法寺	平 21. 11. 19	平安前期 (9 世紀末)。 四天王像は 10 世紀初め頃
159	木造千手観音立像及二天立 像 (附板光背残欠 1 枚) 3 軀	北茨城市華川町下小津田 197 宗教法人長照寺	平 22. 11. 18	平安末期 (12 世紀)
160	木造 <sup>ごだいりき</sup> 五大 <sup>ごだいりき</sup> 力菩薩像 5 軀	桜川市池亀 394 吉祥院	平 25. 1. 24	平安末期 (12 世紀)
161	木造釈迦如来坐像 1 軀	守谷市大木 676 宗教法人大円寺	平 26. 1. 27	平安時代 (12 世紀)。元禄 2 年 (1689) の修理銘あり
162	銅造阿弥陀如来立像 (附旧支柱 1 本) 1 軀	笠間市平町 291 浄乗寺	平 30. 12. 27	13 世紀後半。旧支柱に元 禄 11 年 (1698) の修理銘あ り
163	木造大日如来坐像・如来坐像 3 軀	笠間市片庭 775 仏頂山楞嚴寺	令 4. 12. 26	鎌倉時代 (13 世紀)
164	木造金剛力士立像 (附 像内納入品一括) 2 軀	桜川市本木 1 雨引山樂法寺	令 4. 12. 26	鎌倉時代 (13 世紀)

## 【工芸品】

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
1	青銅鈴 1 口	桜川市西小塙 1677 月山寺	昭 28. 7. 9	平安時代。五鈷鈴。総高 28. 5cm
2	木製つものたらい 1 口	桜川市西小塙 1677 月山寺	昭 28. 7. 9	江戸時代。桐唐草菊花文蒔 絵角盥
3	<sup>ごすざら</sup> 呉須皿 1 枚	桜川市西小塙 1677 月山寺	昭 28. 7. 9	中国明末期。呉須は黒褐色土
4	<sup>らでんまきえこうぼん</sup> 螺鈿蒔絵香盆 1 面	常陸太田市金井町 3690 常陸太田市	昭 28. 8. 20	江戸時代
5	護摩壇 1 基	坂東市生子 1617 萬蔵院	昭 30. 6. 25	徳川家光寄進銘
6	<sup>らいばん</sup> 礼盤 2 基	坂東市生子 1617 萬蔵院	昭 30. 6. 25	寛永 10 年 (1633) [銘]
7	<sup>わきづくえ</sup> 脇机 5 机	坂東市生子 1617 萬蔵院	昭 30. 6. 25	寛永 10 年 (1633)
8	<sup>ほっす</sup> 払子 1 振	結城市結城 1725 安穩寺	昭 32. 1. 25	煩惱を払う荘厳具
9	<sup>じゅず</sup> 珠数 1 連	結城市結城 1725 安穩寺	昭 32. 1. 25	伝源翁心昭所持
10	<sup>こきょう</sup> 古鏡 1 面	日立市弁天町 個人	昭 32. 1. 25	鎌倉末期。愛染明王蓬萊鏡
11	厨子 1 基	桜川市西小塙 1677 月山寺	昭 32. 1. 25	康正 2 年 (1456) [銘]。春日厨子
12	古鏡 1 面	結城市結城 個人	昭 32. 6. 26	瑞花双鳳鏡
13	<sup>ごこれい</sup> 五鈷鈴 1 箇	稲敷市小野 318 逢善寺	昭 32. 6. 26	平安後期。密教法具
14	<sup>ごこしよ</sup> 五鈷杵 1 箇	稲敷市小野 318 逢善寺	昭 32. 6. 26	鎌倉初期。密教法具
15	<sup>くろかわかたあさぎすじかぶと</sup> 黒韋肩浅葱筋兜 1 具	水戸市八幡町 8-54 水戸八幡宮	昭 32. 6. 26	室町時代。佐竹義宣奉納

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
16	わにくち 鰐口 1 個	龍ヶ崎市川原代町 1050 安楽寺	昭 33. 3. 12	文和 2 年 (1353) [銘]
17	鰐口 1 個	潮来市上戸 624 観音寺	昭 33. 3. 12	観応 3 年 (1352) [銘]
18	虎の刺繍 1 枚	美浦村木原 1941 永厳寺	昭 33. 3. 12	天文 23 年 (1554)
19	弥陀名号 1 枚	石岡市大增 3220 大覚寺	昭 33. 3. 12	室町時代。刺繍
20	まきまがひつ 蒔絵櫃 1 合	水戸市西原 個人	昭 33. 3. 12	桃山時代。小型唐櫃
21	百万塔 1 基	結城市結城 個人	昭 33. 3. 12	木製彩色。奈良十大寺寄進
22	つのたらい 1 口	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 33. 7. 23	江戸時代。橘竹鶴蒔絵角盥
23	黒漆螺鈿蒔絵台 1 基	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	鎌倉末期。牡丹竹鳥蝶蒔絵
24	銅印 1 顆	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	平安時代。朱文方印。鶏頭紐
25	陶造狛犬 3 軀	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	室町時代後期、瀬戸鉄釉
26	石灯籠 1 基	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	元和 5 年 (1619) [銘]
27	によう 鏡 1 口	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	平安時代。三鈷鏡
28	軍配 1 口	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 33. 7. 23	室町時代
29	ぐんじんくら 軍陣鞍 1 背	水戸市新荘 個人	昭 35. 3. 28	鎌倉時代。黒漆鞍
30	銅板懸仏 1 口	常総市諏訪町 個人	昭 35. 12. 21	室町初期
31	銅鐘 1 口	行方市乙 69 宝幢院	昭 35. 12. 21	永享 3 年 (1431) [銘] 防修理 (昭 63)
32	太刀 (銘国貞) 1 口	土浦市桜町 1 丁目 個人 (東京国立博物館寄託)	昭 36. 3. 24	鎌倉中期。備前の刀工
33	太刀 (銘来橘光定) 1 口	土浦市桜町 1 丁目 個人	昭 36. 3. 24	嘉慶 2 年 (1388) [銘]
34	かげやす 太刀 (銘景安) 1 口	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	昭 36. 3. 24	平安末期。備前刀工景安
35	太刀 (備前国長船住長光作永仁 二年月日銘) 1 口	牛久市牛久町 個人	昭 36. 3. 24	永仁 2 年 (1294) 年紀
36	たいまとも きれ 太刀 (銘大和国当麻友 以下切) 1 口	牛久市牛久町 個人	昭 36. 3. 24	南北朝時代。 ともきよ 友清作と伝える
37	らいばん 礼盤 1 基	城里町徳蔵 874 徳蔵寺	昭 37. 2. 26	天正 6 年 (1578) [寄進銘]
38	おおむらかぼく しらかや 太刀 (無銘 伝大村加卜) 白鞘 1 口	ひたちなか市市毛 個人	昭 37. 8. 27	貞享 2 年 (1685) [銘]
39	螺鈿硯箱 1 合	筑西市中館 522 観音寺	昭 37. 10. 24	楼閣人物螺鈿硯箱
40	せきどう 六地藏石幢 1 基	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 37. 10. 24	もとはつくば市個人蔵
41	石造燈籠 1 基	つくば市小田 2716 長久寺	昭 37. 10. 24	高さ 211cm
42	鎧 (兜、大袖付) 1 具	水戸市東台 695 個人	昭 37. 10. 24	紺糸威の胴丸具足
43	鎧 (兜、大袖付) 1 具	水戸市泉町 2-1-21 個人	昭 37. 10. 24	安土桃山。胴丸具足
44	あぶみ 鏡 1 具	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 37. 10. 24	鉄製。加賀銀象眼
45	鞍 1 背	水戸市五軒町 1-4-28 個人 (水戸市立博物館寄託)	昭 37. 10. 24	水干鞍。黒漆地金蒔絵
46	おこなぎなた 大薙刀 1 口	水戸市宮町 東照宮 (茨城県立歴史館寄託)	昭 37. 10. 24	南北朝時代。備前長船元重

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
47	銅製経筒 1口	水戸市天王町8-17 神崎寺	昭37.10.24	長承2年(1133) [銘]
48	礼盤 1基	境町974 吉祥院	昭37.10.24	寛永10年(1633) [銘]
49	銅鐘 1口	筑西市岡芹957 定林寺	昭38.8.23	永禄10年(1567) [銘]
50	五鈷鈴 1口	古河市小堤 円満寺 (茨城県立歴史館寄託)	昭38.8.23	平安時代か中国唐代
51	三鈷杵 1口	古河市小堤 円満寺 (茨城県立歴史館寄託)	昭38.8.23	中国唐代説あり
52	石造五輪塔 2基	かすみがうら市上佐谷 個人	昭38.8.23	2基とも慶長16年(1611) [銘]
53	鐙 1具	水戸市五軒町1-4-28 個人 (水戸市立博物館寄託)	昭38.8.23	昭37指定の鞍と1具
54	太刀(葵くずし紋) 1口	結城市結城800-2 個人	昭38.8.23	斉昭の作。将軍家慶が佩用。 名称変更(平30)
55	太刀(銘吉房) 1口	水戸市宮町 東照宮 (茨城県立歴史館寄託)	昭38.8.23	備前国福岡一文字派
56	板碑 1基	筑西市岡芹957 定林寺	昭39.7.31	高さ155cm
57	角赤文庫 1合	かすみがうら市下志筑 個人 (茨城県立歴史館寄託)	昭39.7.31	蒔絵手箱
58	大袖鎧 1具	筑西市下中山732-1 八幡神社 (管)筑西市教育委員会	昭39.7.31	二枚胴具足
59	大袖鎧 1具	水戸市泉町2-1-21 個人	昭39.7.31	五枚胴具足
60	鐙 1具	水戸市泉町2-1-21 個人	昭39.7.31	鉄製、加賀銀象嵌
61	瑞花雙鳥八稜鏡 1面	下妻市大宝667 大宝八幡宮	昭40.2.24	平安時代か
62	宝塔鈴 1基	石岡市若宮2-4-24 不動院	昭40.2.24	銅鑄製。柄の上に塔形
63	草花双鳥円鏡 1面	鹿嶋市宮中2306-1 鹿島神宮	昭40.2.24	白銅製。盗難(昭45)
64	十一面観音御正体 1面	鹿嶋市宮中2306-1 鹿島神宮	昭40.2.24	銅板製、線刻。盗難(昭45)
65	宝珠杵 1口	かすみがうら市深谷1399 法蔵寺	昭40.2.24	鎌倉末期。銅鑄製
66	瑞花雙鳥八稜鏡 1面	つくば市玉取2617 八坂神社	昭40.2.24	南北朝時代。白銅製
67	金梨地蒔絵鞍 1背	水戸市緑町2-1-15 茨城県立歴史館	昭41.3.7	安土桃山時代
68	六地藏石幢 1基	土浦市東城寺650 東城寺地区	昭41.3.7	室町末期か
69	石造五輪塔 1基	土浦市小高212 小高地区	昭41.3.7	永正12年(1515)。頭白上人逆修塔
70	石造五輪塔 1基	筑西市村田1736 村田仲町集落	昭41.3.7	倒壊防止(平7)
71	石造五輪塔 1基	つくば市玉取1959 個人	昭41.3.7	高さ136cm
72	石造五輪塔 1基	かすみがうら市上佐谷719 個人	昭41.3.7	文禄2年(1593) [刻]
73	六地藏石幢 1基	土浦市永井694 個人	昭42.3.30	室町末期～桃山時代
74	銅鐘 1口	城里町塩子1736 岩谷山仏国寺	昭42.3.30	貞享元年(1684) 寄進
75	石造九重層塔 1基	つくば市神郡970 個人	昭42.11.24	慶長年間。総高253cm
76	棕毛払子 1振	土浦市高岡1890 法雲寺	昭43.3.28	中国元代の作

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
77	梵鐘 1基	五霞町山王山 827-1 東昌寺	昭 43. 3. 28	文明 8 年 (1476) [銘]
78	石造 五輪塔 1基	土浦市穴塚町 1461 般若寺	昭 43. 3. 28	建治元年 (1275) [刻銘]
79	熏韋威胴丸鎧 1領	ひたちなか市南神敷台 個人	昭 43. 3. 28	室町末期。銅丸式の鎧
80	よろいびつ 鎧櫃 1領	ひたちなか市南神敷台 個人	昭 43. 3. 28	ケヤキ材。笈形鎧櫃
81	こめん 古面 5面	潮来市島須 530 御札神社	昭 44. 3. 20	ばとう 抜頭など 5 舞楽面
82	せいじきんかいとう 青磁三階塔 1基	土浦市高岡 1890 法雲寺	昭 44. 3. 20	青磁の三重塔形
83	まきえさげたんす 蒔絵提単笥 1箱	石岡市国府 6-4-2 個人	昭 44. 12. 1	江戸時代か桃山期
84	石造九重層塔 1基	かすみがうら市牛渡 3902 個人	昭 44. 12. 1	伝小田孝朝供養塔
85	鱧口 1個	かすみがうら市安食 1754 大宮神社	昭 44. 12. 1	応永 10 年 (1403) [銘]
86	石造五輪塔 1基	土浦市本郷 1093 個人	昭 45. 5. 28	室町時代。高さ 170cm
87	二枚胴具足 1具	石岡市山崎 635 個人	昭 45. 9. 28	江戸時代
88	五鈷杵 1口	桜川市本木 1 楽法寺	昭 45. 9. 28	平安末期頃。出土品
89	六地藏石幢 1基	つくば市平沢 582 平沢区	昭 46. 1. 28	
90	石造宝篋印塔 1基	つくば市小田 つくば市	昭 46. 1. 28	鎌倉時代。解体組合せ(平 17)
91	石造五輪塔 1基	つくば市北条 102-1 八坂神社氏子総代	昭 46. 1. 28	天文年間 [銘(経筒)]
92	と きんはつかくつりとうろう 鍍金八角釣燈籠 1基	潮来市水原 1121 愛染院	昭 46. 1. 28	元禄 14 年 (1701) [銘]
93	高麗焼茶碗 1個	潮来市潮来 428 長勝寺	昭 46. 10. 28	元禄 8 年 (1695) [光圀寄進銘]
94	おうぎぢらしまきえ、しよだな 扇 散蒔絵書棚 1架	大洗町磯浜町 8231 大洗町	昭 46. 12. 2	明治時代
95	短刀 1振	大洗町磯浜町 8231 大洗町	昭 47. 12. 18	しんとうごくにみつ 初代新藤五国光の作
96	説相箱 1個	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	江戸初期
97	しちかんせいじこうろだい 七官青磁香炉台 1個	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	中国明代。円筒形
98	はちりょうきょう 八稜鏡 1個	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	鎌倉時代
99	こうごう 香合 2個	大洗町磯浜町 7920 願入寺	昭 47. 12. 18	くり、ついこくこうごう、ししぼたん 屈輪堆黒香合、獅子牡丹 ついでしゅうこうごう 堆朱香合
100	しゅうろしぬりつたかざら 朱漆塗葛模様椀 5個	大洗町磯浜町 7920 願入寺	昭 47. 12. 18	漆絵椀
101	和鏡 1面	潮来市牛堀 17 潮来市教育委員会	昭 49. 3. 31	すはましようきくかぢらしろうじゃくきょう 州浜松菊花散双雀鏡
102	蒔絵鏡箱 1合	日立市弁天町 個人	昭 49. 3. 31	室町時代。円形
103	華蔵院の梵鐘 1個	ひたちなか市栄町 1-1-33 華蔵院	昭 49. 3. 31	暦応 2 年 (1339) [銘]
104	宝篋印塔 1基	石岡市半田 個人	昭 49. 3. 31	江戸時代。高さ 150cm
105	金銅割五鈷杵 1個	土浦市大岩田町 1616 法泉寺	昭 49. 3. 31	鎌倉末期。鍍金。15. 2cm
106	五鈷鈴 1個	土浦市市立町 1215 観音寺 (土浦市立博物館寄託)	昭 49. 3. 31	平安末～鎌倉初期
107	銅製丸鏡 1面	土浦市大和町 9-1 土浦市 (土浦市立博物館保管)	昭 49. 3. 31	草花双鳥鏡。面径 11cm
108	灌頂用具 15点	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	明鏡は平安時代
109	密教法具 23点	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	鎌倉～江戸時代まで

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
110	銅装龍輪宝羯磨文戒体箱 1合	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町末期
111	銅装龍輪宝羯磨文説相箱 2合	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町末期
112	銅板貼山伏笈 1背	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	天正 18 年 (1590) [墨書銘]
113	漆塗経櫃 1合	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 50. 3. 25	室町後期
114	瀬戸緑釉狛犬 2体	ひたちなか市富士ノ上 2-1 天満宮	昭 51. 7. 5	室町後期
115	鰐口 1口	小美玉市上玉里 大宮神社 (小美玉市玉里史料館寄託)	昭 52. 5. 2	正嘉元年 (1257) [銘]
116	鰐口 1口	常陸太田市小中町 個人	昭 52. 5. 2	永和 5 年 (1379) [銘]
117	竹織払子 1振	土浦市高岡 1890 法雲寺	昭 56. 12. 24	中国元代
118	石造燈籠 1基	土浦市小野 126-7 日枝神社	昭 56. 12. 24	永正 8 年 (1511) [銘]
119	漆皮軍配(伝太田道灌奉納) 1柄 寛文八年ノ太田資宗、資次寄進ノ箱アリ	石岡市総社 2-8-1 常陸国総社宮	昭 58. 3. 18	寛文 8 年 (1668) [銘]
120	漆皮軍配(伝佐竹義宣奉納) 1柄	石岡市総社 2-8-1 常陸国総社宮	昭 58. 3. 18	天正 18 年 (1590) [銘]
121	銅鐘 (「嘉慶元年」の銘と「享徳五年」の追銘あり) 1口	下妻市大宝 667 大宝八幡宮	昭 59. 3. 8	嘉慶元年 (1387) [銘]
122	太刀 (銘常州水戸住藤原近則) 1口	大洗町磯浜町 6890 大洗磯前神社	平 2. 1. 25	嘉永 5 年 (1852) [銘]
123	能面 6面	常陸大宮市下町 221 甲神社	平 4. 1. 24	16 世紀
124	総毛引紅糸威胴丸具足 1領	水戸市宮町 東照宮 (茨城県立歴史館寄託)	平 10. 1. 21	徳川家康着用遺品
125	鰐口 如意寺、嘉暦三年在銘 1口	笠間市上市原 942 宗教法人如意輪寺	平 16. 1. 8	江戸時代
126	鰐口 如意寺、嘉暦三年在銘 1口	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	平 16. 1. 8	鎌倉時代
127	葆光彩磁葡萄紋様花瓶 1口 板谷波山作	笠間市笠間 2345 茨城県陶芸美術館	平 16. 11. 25	大正 11 年
128	氷華磁仙桃文花瓶 1口 板谷波山作	笠間市笠間 2345 茨城県陶芸美術館	平 16. 11. 25	大正 15 年頃

## 【書跡】

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
1	紺紙金字法華経 8巻	桜川市西小墾 1677 月山寺	昭 28. 7. 9	鎌倉時代
2	往生要集 1冊	結城市結城 152 称名寺	昭 33. 3. 12	往生要集延書
3	大般若波羅蜜多経 391巻	土浦市沖宿町 1483 海蔵寺	昭 33. 3. 12	承安 5 年 (1175) [奥書]
4	妙法蓮華経 10巻	稲敷市小野 318 逢善寺	昭 33. 3. 12	木版刷りの春日版
5	宋版一切経 5400巻	桜川市真壁町東山田 1644 最勝王寺	昭 33. 3. 12	中国宋代。天海版

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
6	妙法蓮華經 1巻	石岡市大増 3220 大覚寺	昭 33. 3. 12	紺紙金泥の写本
7	唐本一切経 3帖	笠間市笠間 39 笠間稲荷神社	昭 33. 7. 23	建長 7 年 (1255) [識語]
8	北斗寺仏儀次第 4巻	つくば市栗原 1129 北斗寺	昭 35. 12. 21	室町時代の写本
9	阿弥陀寺御文 1帖	坂東市長須 4359 阿弥陀寺	昭 35. 12. 21	室町時代
10	無量寿寺御文書 1帖	鉾田市鳥栖 1013 無量寿寺	昭 35. 12. 21	蓮如の書簡 19 通
11	大般若波羅蜜多經 15巻	日立市神峰町 個人	昭 37. 2. 26	承安 3 年 (1173) 校の奥書あり
12	大般若波羅蜜多經 1巻	水戸市堀町 個人	昭 38. 8. 23	鎌倉時代末の春日版か
13	一遍上人名号 1幅	石岡市国府 個人	昭 39. 7. 31	
14	大般若波羅蜜多經 336巻	桜川市加茂部 694 鴨大神御子神主玉神社	昭 41. 3. 7	正安・元応奥書 (13~14 世紀初)
15	大般若經 490巻	桜川市本木 1 楽法寺	昭 42. 3. 30	天文 10 年 (1541)・15 年 [寄進銘]
16	唐本一切経 (抜藤原時朝) 2巻	水戸市西原 個人	昭 42. 11. 24	宋版一切経の一部
17	後奈良天皇歌切 1巻	つくば市栗原 1129 北斗寺	昭 42. 11. 24	後奈良天皇宸筆、4 首の歌
18	神号天照皇太神 1巻	小美玉市羽鳥 個人	昭 42. 11. 24	後陽成天皇御宸筆
19	紺紙金泥大般若波羅蜜多經 (巻 506) 1巻	土浦市高岡 1890 法雲寺 (土浦市立博物館寄託)	昭 43. 3. 28	鎌倉末期。1巻のみ残る
20	法雲寺文書 一括	土浦市高岡 1890 法雲寺 (土浦市立博物館寄託)	昭 43. 3. 28	中世寺領寄進状、禁制書状
21	芹沢文書一括 62点	石岡市国府 個人	昭 44. 12. 1	室町～江戸初期
22	六地藏寺所蔵典籍・文書 典籍 892 部・文書 407 点	水戸市六反田町 767-2 六地藏寺	昭 46. 3. 29	戦国時代。恵範が筆写・著述
23	了誉筆別当職譲状 1幅	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	応永 22 年 (1415) [了誉の書筆]
24	日本書紀私鈔 並二人王百代具名記 3冊	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	了誉著作の写本 (応永 15 年 (1408) 写)
25	阿弥陀經 1巻	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 47. 12. 18	斉昭 25 歳の真蹟
26	唯信鈔断片 1幅	大洗町磯浜町 7920 願入寺	昭 47. 12. 18	親鸞が書写した断片の 1 枚
27	蓮如筆消息大根田御坊宛 1幅	大洗町磯浜町 7920 願入寺	昭 47. 12. 18	
28	正宗寺所蔵文書 7通	常陸太田市増井町 1514 正宗寺	昭 49. 3. 31	円覚寺及び黄梅院文書
29	後光厳天皇御消息 1軸	ひたちなか市殿山町 個人	昭 49. 3. 31	北朝 4 代天皇宸筆
30	日蓮書状 (文永 11 年 7 月 26 日 南條七次郎時光あて) 1通	常陸太田市新宿町 239 久昌寺	昭 56. 12. 24	鎌倉時代
31	日乗日記 13冊	常陸太田市新宿町 239 久昌寺	昭 56. 12. 24	修理 (平 2~4)

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
32	唐本一切経 1巻	笠間市稲田 562 西念寺	昭 63. 1. 25	平安時代末
33	金剛般若波羅蜜経 1巻	笠間市石井 1747 高乾院	平 5. 1. 25	弘安 4 年(1281)。修理(平 10)
34	紙本墨書 神皇正統記六地藏寺本 3冊	水戸市六反田町 767-2 宗教法人六地藏寺	平 16. 1. 8	神皇正統記の写本(明徳 5 年(1394))を恵潤が筆写

### 【古文書】

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	成立年代・備考
1	常陸総社文書 安政二年修理ノ奉納箱アリ 50通	石岡市総社 2-8-1 常陸国総社宮	昭 58. 3. 18	総社の神主家に伝わる 50 通の文書
2	鳥名木家文書 41点	行方市手賀 個人 (茨城県立歴史館寄託)	平 6. 1. 26	手賀氏の分流鳥名木家に伝わる。
3	健田須賀神社文書 19点 (2巻)	結城市結城 195 健田須賀神社	平 8. 1. 25	文和元(1352)~天正 8 (1580)年
4	真壁長岡古宇田文書 35点	桜川市真壁町真壁 57-1 真壁伝承館歴史資料館	平 11. 11. 25	真壁氏庶流古宇田氏
5	親鸞門侶交名 1巻	下妻市下妻乙 350 光明寺	平 19. 11. 16	三河妙源寺本と共に貴重
6	鹿島神宮文書 250点 (18巻)	鹿嶋市宮中 2306-1 鹿島神宮	平 22. 11. 18	鹿島神宮に伝わる古文書群
7	税所文書 19点 (1帖)	石岡市国府 個人 (茨城県立歴史館寄託)	平 27. 1. 22	常陸国衙の在庁官人関係文書。鎌倉期~南北朝期
8	臼田文書 1巻1帖	稲敷市羽賀 個人	平 29. 1. 26	臼田家に伝わる中世から戦国期の文書群
9	岡澤文書 8点	稲敷市福田 個人	令 3. 12. 27	地方の刀鍛冶家に伝わる文書群
10	税所文書 (山戸本) 86点 (2帖)	大洗町磯浜町 個人 (茨城県立歴史館寄託)	令 5. 12. 28	常陸国衙の在庁官人関係文書。南北朝期~江戸期

### 【考古資料】

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	成立年代・備考
1	板碑 1基	つくば市金田 1658-1 つくば市	昭 30. 11. 25	文永 9 年 (1272) [刻銘]
2	東城寺結界石 1基	土浦市東城寺 650 東城寺地区	昭 41. 3. 7	建長 5 年(1253) [年刻銘]
3	下坂田の板碑 1基	土浦市下坂田 1116-2 個人	昭 41. 3. 7	永仁 6 年(1298) [年刻銘]
4	丸山古墳出土遺物 212点	石岡市柿岡 5680 石岡市	昭 42. 11. 24	4 世紀末~5 世紀初
5	経筒・石櫃付 1組	石岡市柿岡 5680 石岡市	昭 42. 11. 24	大永 3 年(1523) [陰刻銘]
6	結界石 1基	土浦市穴塚 1461 般若寺 (土浦市立博物館寄託)	昭 43. 3. 28	建長 5 年 (1253) [刻銘]
7	鹿 (埴輪) 1対	石岡市柿岡 5680 石岡市	昭 44. 3. 20	雄・雌 1 対



No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	成立年代・備考
8	狐塚古墳出土遺物一括 24点	桜川市岩瀬 桜川市教育委員会	昭44.12.1	短甲・銅鏃など出土
9	丸木舟 1艘	龍ヶ崎市馴馬町2488 龍ヶ崎市	昭50.3.25	マツ材、残存部全長約6.3m
10	板碑 1基	筑西市辻 個人	昭50.6.25	弘安元年(1278) [銘]
11	鏡 <small>によ</small> の鑄型鋳范 <small>い</small> 1面	土浦市大和町9-1 土浦市 (土浦市立博物館保管)	昭55.2.28	鎌倉期か。密教法具
12	丸木舟 1艘	下妻市大宝667 大宝八幡宮	昭59.3.8	クロマツ、長さ6.05m
13	銅印 1顆	水戸市緑町2-1-15 茨城県立歴史館	平4.1.24	「丈永私印」
14	人物埴輪 1軀	東海村村松768-38 東海村	平6.1.26	舟塚1号墳出土。正装男子像
15	乳飲み児を抱く埴輪 1軀 おのだいら (大平古墳群黄金塚出土)	ひたちなか市中根 ひたちなか市教育委員会	平9.1.27	高さ27.5cm。腹部より下を欠失
16	巴形銅器(宮平遺跡出土) 1箇	石岡市染谷1646 石岡市教育委員会	平10.1.21	全径5.0cm
17	後野遺跡出土石器及土器 160点	ひたちなか市中根 ひたちなか市教育委員会	平12.11.27	細石刃文化、大型石刃文化の新旧関係が判明
18	十王台遺跡出土十王台式土器 3点	日立市十王町友部東 個人 (十王公民館、東京国立博物館寄託)	平14.12.25	弥生後期
19	海後遺跡出土人面付土器 1点	水戸市緑町2-1-15 茨城県立歴史館	平14.12.25	弥生中期
20	小野天神前遺跡出土土器 19点	水戸市緑町2-1-15 茨城県立歴史館	平16.11.25	弥生時代中期の再葬墓一括 <small>さいそうぼ</small>
21	富士見塚1号墳・2号墳・3号古墳出土遺物 一括	かすみがうら市柏崎358-1 かすみがうら市	平20.11.17	5世紀末～6世紀初頭。埴輪、鉄鏃など一括
22	東中根遺跡群出土遺物 18点	ひたちなか市中根3499 ひたちなか市	平21.11.19	弥生時代後期前半の土器及び紡錘車
23	一本松遺跡出土遺物 13点	大洗町磯浜町6881-88 大洗町	平23.11.17	弥生時代後期の巴形銅器を含む土器、紡錘車等
24	神岡上古墳群第3号墳出土遺物 345点	北茨城市磯原町磯原130-1 北茨城市教育委員会	平25.1.24	七鈴鏡1点、鉄鏃32点、直刀4点、土製模造品266点など
25	舟塚古墳出土遺物 39点	水戸市笠原町978-6 茨城県 (茨城県立歴史館保管)	平27.1.22	埴輪39点(円筒埴輪16点・朝顔形埴輪5点・人物埴輪17点・家形埴輪1点)小美玉市上玉里出土
26	信太入子ノ台遺跡出土蔵骨器 3点	美浦村大字土浦2359 美浦村教育委員会 (美浦村文化財センター保管)	平30.12.27	8世紀末～9世紀。2点が完形。蓋1点に「大伴」の墨書あり。
27	坪井上遺跡出土硬玉製大珠 7点	常陸大宮市中富町1087-14 常陸大宮市教育委員会 (常陸大宮市歴史民俗資料館大宮館保管)	令元.12.26	縄文時代中期 一つの遺跡からの出土数としては異例

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	成立年代・備考
28	堀米A遺跡出土硬玉製大珠 5点	東海村大字村松 768-38 東海村	令 4.12.26	縄文時代中期の5点の硬玉製(翡翠)大珠・垂飾

### 【歴史資料】

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	制作年代・備考
1	紙本墨書大般若経(附唐櫃3合) 569帖	那珂市額田北郷 542 毘盧遮那寺	昭 52. 5. 2	明応 4 (1495) ~ 8年
2	訂正常陸国風土記版木(附箱板2枚) 20枚のうち19枚	日立市諏訪町 4-28-11 個人 (茨城県立歴史館寄託)	昭 60. 3. 25	天保 10年(1839)出版の版木
	20枚のうち1枚	水戸市緑町 2-1-15 茨城県立歴史館	昭 60.12.26(追)	
3	しじんき 四神旗 4旒 附祝文(写)	笠間市稲田 763-1 稲田神社 (茨城県立歴史館寄託)	昭 63. 1. 25	
4	佐竹義昭奉加帳 1巻	常陸大宮市下町 221 <sup>かぶと</sup> 甲神社	平 8. 1. 25	弘治 3年(1557)。修理(平 17)
5	か 鹿の子遺跡出土漆紙文書 一括	石岡市柿岡 5680 石岡市教育委員会	平 14. 1. 25	国庁作成帳簿類
6	河口家医学等関係資料 896点	古河市錦町 8-15 個人	平 19.11.16	旧古河藩医の河口家に伝わる医学資料群
7	徳川光圀書翰集 7巻(54通)	水戸市三の丸 1-5-38 茨城県立図書館	平 23.11.17	光圀自筆書翰 53通及び右筆書き 1通。修理(平 24)
8	色川三中関係史料 522点	土浦市大和町 9-1 土浦市 (土浦市立博物館保管)	平 28. 1. 21 令 2.12.28(追) 同日(名称変更)	城下町土浦の庶民生活や文化の様相を知る上で貴重。「色川三中草稿」(22点)を追加指定(令 2)
9	せきすい 長久保赤水関係資料 107点	高萩市高萩 8-1 高萩市 (高萩市歴史民俗資料館保管)	平 29. 1. 26 令 2. 9. 30 (員数変更)	天文学者・農政学者長久保赤水の業績を伝える。ほかに国指定 693点(令 2)
10	紙本墨書 聖護院道興筆天神名号 1幅	桜川市真壁町東山田 1457 個人	令 3.12.27	聖護院道興が山田慶城坊に止宿した際にしたためた書

## イ 無形文化財

No.	名 称	所在地 及び 保持者・保持団体	指定年月日	備 考
1	結城紬 (縮織) <small>ちぢみおり</small>	結城市結城 13-2 (財) 重要無形文化財結城紬技術保存会	昭 28. 11. 14	強い撚りを加え、縮んで表面が ちりめん状になる織り方
2	西の内紙 (手漉和紙)	常陸大宮市舟生 本西の内紙保存会 (平 28. 1. 21 追加認定)	昭 46. 12. 2	昭 46. 12. 2 認定保持者 菊池五介 (2代 平 3. 2. 14 死亡) 菊池一男 (平 16. 3. 31 死亡) 小野瀬角次 (平 27. 10. 15 死亡) 平 3. 3. 27 追加認定保持者 菊池五介 (3代 平 19. 5. 19 死亡) 平 19. 11. 16 追加認定保持者 菊池正氣 (令 2. 2. 17 死亡)
3	粟野春慶塗 <small>あわのしゆんけいぬり</small>	城里町粟 458 稲川武男	平元. 1. 25	木地の木目を透かしてみせる
4	鹿島新當流 (附 起請文 1 卷・傳 法書 1 卷)	鹿嶋市宮中 鹿島新當流彰古会	平元. 9. 27	塚原ト伝の編み出した剣の 流派

## ウ 有形民俗文化財

No.	名 称 ・ 数	所在地 及び 所有者	指定年月日	備 考
1	日立風流物人形頭 122 頭	日立市神峰町 4-11-12 個人	昭 39. 7. 31	操り人形頭
2	浮島所在の田下駄一括 45 足	稲敷市八千石 18-1 稲敷市	昭 46. 12. 2	
3	獅子頭 1 頭	石岡市府中 2-4-5 土橋町区長	平 4. 1. 24	江戸時代。重量約 17 kg
4	潮来祇園祭礼山車 (附唐獅子 1 対) 3 台	潮来市潮来 潮来祇園祭礼山車保存会	平 5. 1. 25	素鷲熊野神社祭礼の山車
5	西塩子の回り舞台 一式	常陸大宮市西塩子 150-3 西塩子の回り舞台保存会	平 11. 11. 25	文政年間。農村歌舞伎舞台
6	ささら獅子頭 3 点	常陸大宮市中富町 1087-14 第 6 区 (常陸大宮市歴史民俗資料館寄託)	平 16. 11. 25	永正 14 年 (1517) [墨書銘]

## エ 無形民俗文化財

No.	名 称	所在地 及び 保存団体	指定年月日	公開場所・公開日等
1	浅川のささら	大子町浅川 3903 浅川ささら保存会	昭 30. 6. 25	熊野神社。3 月 27 日・28 日
2	火消行列	常陸太田市町田町 1 火消行列保存会	昭 30. 6. 25	6 年毎の 3 月下旬
3	真家みたまおどり	石岡市真家 273 真家みたまおどり保存会	昭 33. 3. 12	福寿院及び真家地内。8 月 15 日
4	西金砂神社田楽舞 <small>かなさ</small>	常陸太田市上宮河内町 1915 西金砂神社田楽舞保存会	昭 35. 3. 28	金砂大祭礼 (72 年)、小祭礼 (6 年)
5	東金砂神社田楽舞	常陸太田市天下野町 9740 東金砂神社田楽舞保存会	昭 35. 3. 28	金砂大祭礼 (72 年)、嵐除祭 (6 年)

No.	名 称	所在地 及び 保存団体	指定年月日	公開場所・公開日等
6	塚崎の獅子舞	境町塚崎 塚崎獅子舞保存会	昭 35. 3. 28	香取神社。4月・7月・11月の15日
7	猿島ばやし	坂東市生子 1465 猿島ばやし保存会	昭 36. 3. 24	おいご 生子八坂神社。7月15日～22日
8	からかさ万灯	土浦市大畑 大畑からかさ万灯保存会	昭 37. 10. 24	鷲神社。8月15日
9	はいか 排禍ばやし	石岡市片野 620 排禍ばやし保存会	昭 37. 10. 24	片野八幡神社。7月第3日曜
10	おおう みこまい 大生神社巫子舞神事	潮来市大生 814 大生神社	昭 38. 8. 23	11月14日前夜祭、11月15日本祭
11	柿岡からくり人形	石岡市柿岡 1857 からくり人形保存会	昭 38. 8. 23	柿岡八幡神社及び町内。7月24日
12	西丸山祈禱ばやし	つくばみらい市西丸山 西丸山祈禱囃子保存会	昭 38. 8. 23	鹿島神社。1月中旬・5月
13	日立のささら	日立市宮田・助川・会瀬・大久保・諏訪・ 水木・成沢 日立郷土芸能保存会	昭 38. 8. 23 追昭 45. 9. 28 追昭 46. 7. 19	泉神社ほか
14	潮来ばやし (獅子舞を含む)	潮来市潮来 潮来ばやし保存会	昭 39. 7. 31	そ がくまの 素鷲熊野神社。8月7日～9日
15	のぶかたすもう 延方相撲	潮来市延方乙 1885 鹿嶋吉田神社	昭 39. 7. 31	鹿嶋吉田神社。7月27日
16	おぐりないげ 小栗内外大神宮太々神 楽	筑西市小栗 1 太々神楽保存会	昭 41. 3. 7	4月21日、11月10日の直近の日 曜日
17	大串のささらばやし	水戸市大串町 ささらばやし保存会	昭 41. 3. 7	稲荷神社。11月23日
18	大野のみろくばやし	水戸市下大野町 みろくばやし保存会	昭 41. 3. 7	稲荷神社。11月23日
19	うわど 上戸の獅子舞	潮来市上戸 1551 獅子舞保存会	昭 43. 3. 28	国神社。11月23日
20	神田ばやし	坂東市神田山 3108 神田ばやし保存会	昭 49. 11. 25	7月16日・17日、11月第2日曜日
21	田宮ばやし	土浦市田宮 田宮ばやし保存会	昭 52. 5. 2	7月末の日曜日を中心に3日間
22	三和祇園ばやし	古河市東山田 24 三和郷土芸能保存会	昭 53. 1. 26	7月中旬各地区の夏祭り
23	ほんぶね 大津の盆 船流し	北茨城市大津町 常陸大津の御船祭保存会	昭 54. 3. 8	大津漁港。8月13日～16日
24	石岡ばやし	石岡市石岡 2812-3 石岡囃子連合保存会	昭 55. 2. 28	常陸国総社宮。9月14日～16日
25	磐戸神楽	古河市大和田 大和田磐戸神楽保存会	平元. 1. 25	鷲神社。4月4日
26	だいかぐら 水戸大神楽	水戸市元山町 1-3-43 やなぎやしょうらく 柳貴家正楽社中 水戸市常磐町 2-13-23 やなぎやかつぞう 柳貴家勝蔵社中	平 3. 1. 25 平 20. 11. 17	不定期
27	日枝神社流鏝馬祭	土浦市沢辺小野入会地 日枝神社流鏝馬祭保存会	平 6. 1. 26	日枝神社。4月第1日曜日
28	富田のささら	石岡市国府 5-9 富田町ささら保存会	平 8. 1. 25	常陸国総社宮。9月14日～16日
29	おおつかど 大塚戸の綱火	常総市大塚戸町 875 大塚戸芸能保存会	平 11. 11. 25	一言主神社。9月13日
30	利根地固め唄	利根町中谷 967 利根地固め唄保存会	平 14. 12. 25	利根川築堤補修工事に係る作業唄
31	上山川諏訪神社太々神 楽	結城市大字上山川 160 上山川諏訪神社太々神楽保存会	平 17. 11. 25	安永9年(1780) [舞台衣裳墨書] 4月
32	龍ヶ崎の撞舞	龍ヶ崎市 3428 番地地先 龍ヶ崎市撞舞保存会	平 22. 11. 18	7月下旬の八坂神社最終日に実施

No.	名 称	所在地 及び 保存団体	指定年月日	公開場所・公開日等
33	中田永代太々神楽	古河市中田 1337-6 古河神楽保存会	令 5.12.28	<small>つるがみね</small> 鶴 峯八幡神社。4月第3日曜日 雀神社。4月第2日曜日

## オ 史跡

No.	名 称	所在地 及び 所有者（管理者）	指定年月日	備 考
1	伝内大臣平重盛墳墓	城里町上入野 3912 小松寺	昭 6.12.4	伝重盛・重盛夫人・平貞能の墓
2	船玉古墳	筑西市船玉 247 (管) 筑西市	昭 8.7.4	方墳。石室内に壁画
3	古河公方足利成氏館跡 ・同足利義氏墓所	古河市鴻巣 個人	昭 8.7.18	初代古河公方館跡
4	<small>なんだいさん</small> 難 台山城址	笠間市上郷 3646 の一部ほか (管) 笠間市	昭 9.5.18	1387 年小田某五郎が挙兵した跡
5	本多作左衛門重次墳墓	取手市台宿 2-3167 本願寺	昭 9.8.3	鬼作左といわれた家康の家臣の墓所
6	<small>なかさい</small> 那珂西城址	城里町那珂西 1958 <small>ほうどういん</small> 宝幢院	昭 9.12.18	久安 5 年 (1149)。那珂通泰が築城
7	瓜連城址	那珂市瓜連 1221 常福寺	昭 9.12.18	<small>うりづらさだくに</small> 瓜連 貞国、のちが入城
8	<small>しづく</small> 志筑城址	かすみがうら市中志筑 かすみがうら市	昭 10.11.26	鎌倉期に下河辺政義が築城
9	<small>あばさき</small> 阿波崎城址	稲敷市阿波崎 2316 (所) 天満神社 (管) 阿波崎城跡保存会	昭 10.11.26	南朝勢力回復のため北畠親房が入城
10	伊佐城址	筑西市中館 522 観音寺	昭 10.11.26	結城合戦で城主伊佐政 国が討死
11	駒城址	下妻市黒駒 個人	昭 10.11.26	<small>なかみかど</small> 中御門少将藤原実 寛を擁した城
12	神宮寺城址	稲敷市神宮寺 (管) 個人	昭 10.11.26	北畠親房らが参集して拠点とした城
13	<small>やまがただい</small> 山県大士の墓	石岡市根小屋 779 (管) <small>たいねいじ</small> 泰寧寺	昭 10.11.26	明和事件で処刑された大士の墓
14	八幡塚	つくば市沼田 374-1、374-2 つくば市	昭 12.3.9 追昭 47.12.18	前方後円墳。葺石、埴輪を確認
15	笠原水道	水戸市千波町・笠原町・本町 1 丁目～本町 7 丁目・元吉田町 (管) 水戸市	昭 13.3.11	寛文 3 年 (1663) 完成。笠原不動谷から下市まで
16	大日山古墳	取手市岡 1179 (管) 取手市	昭 14.2.1	方墳 (東西 18m、南北 20m、高さ 3m)
17	<small>ふじふさ</small> 藤原藤房卿遺跡	土浦市藤沢 1797 (管) 土浦市	昭 14.3.6	藤原藤房が 2 年間ここに配流
18	<small>なれうま</small> 馴馬城址	龍ヶ崎市馴馬町 個人	昭 14.4.5	<small>かすがあきくに</small> 南北朝時代。春日顕国が旗揚げ
19	<small>くげた</small> 久下田城址	筑西市樋口字城山 221 ほか 福聚寺ほか	昭 15.9.4	<small>みずのやまさむら</small> 下館 6 代城主水谷 正村が築城
20	<small>だいわり</small> 台渡里廃寺址	水戸市渡里町字長者山 個人	昭 20.7.16	古代那賀郡衙の正倉と推測される
21	土浦市内西町 土浦城跡および櫓門	土浦市中央 1 丁目 土浦市	昭 27.11.18	<small>みずしろ</small> 水 城。室町中期から江戸時代 (指定時は「土浦市内西町亀城公園及び亀城櫓門」。昭 42.7.20 名称変更)
22	丸山古墳	石岡市柿岡 4123 (管) 石岡市	昭 27.12.18	墳丘長約 56m の前方後方墳
23	<small>ぼんてんやま</small> 梵天山古墳群	常陸太田市島町 (管) 常陸太田市	昭 28.7.9	本県第 2 位の前方向後円墳ほか、13 基の円墳と横穴群

No.	名 称	所在地 及び 所有者（管理者）	指定年月日	備 考
24	<small>ながつかたかし</small> 長塚節生家	<small>こっしょう</small> 常総市国生 個人	昭 30. 6. 25	茅葺の主屋・書院
25	<small>ほとけがはま</small> 佛ヶ浜	日立市田尻町 4-39 (管) 日立市教育委員会	昭 30. 6. 25	海岸の石壁に観世音菩薩像を刻む
26	間宮林蔵の生家	つくばみらい市上平柳 64 つくばみらい市	昭 30. 11. 25	茅葺
27	間宮林蔵の墓	つくばみらい市上平柳 個人	昭 30. 11. 25	樺太探検出発前に菩提寺に建立
28	山寺水道	常陸太田市天神林 (管) 常陸太田市	昭 32. 6. 26	光圀が久昌寺まで導水
29	石岡の一里塚	石岡市泉町 2108、12805 (管) 石岡市	昭 33. 3. 12	石岡の行里川にある一里塚
30	水野越前守忠邦の墓	結城市山川新宿 1653-1 (管) 結城市教育委員会	昭 33. 3. 12	天保の改革を実施した老中の墓
31	結城御朱印堀（附地図2 帖・証文1・由来帖1）	結城市結城 (管) 結城市・個人	昭 33. 3. 12	戦国末期から江戸時代の堀跡
32	五角堂と和時計	つくば市谷田部 1945 (管) つくば市	昭 33. 3. 12	からくり伊賀七による発明
33	堀の内古窯跡群 <small>こようあくとくん</small>	桜川市大泉 個人	昭 35. 12. 21	須恵器・瓦等の窯跡
34	熊沢蕃山の墓	古河市大堤 1030-1 <small>けいえんじ</small> 鮭延寺	昭 36. 7. 21	熊沢蕃山は古河で禁固刑。
35	板谷波山生家	筑西市甲 864-6 ほか 財団法人波山先生記念会	昭 40. 5. 21	木造。平屋、瓦葺。1760 年代の建造といわれる。部（平 20）
36	野口雨情生家	北茨城市磯原町磯原 (管) 個人	昭 42. 3. 30	明治 10 年。木造。2 階建、瓦葺
37	水戸城跡（塁及び濠）	水戸市三の丸 茨城県・水戸市	昭 42. 11. 24	佐竹・徳川による築城
38	助川海防城跡	日立市助川町 5-10-4 (管) 日立市教育委員会	昭 42. 11. 24	天保 7 年(1836)、斉昭が山野辺義観に命じて築城。天保 9 年(1838)完成
39	泉が森	日立市水木町 1525 泉神社	昭 44. 12. 1	清泉。古代の庶民遊樂の地
40	旧久原本部 <small>くはら</small>	日立市宮田町 3585 日鉱記念館	昭 45. 9. 28	日立鉱山久原房之助が明治 38 年建設
41	穴薬師古墳	五霞町川妻 (管) 個人	昭 46. 3. 29	古墳時代後期の円墳。石室が特異な構造をもつ
42	鹿見塚古墳	潮来市大生 890-2 (管) 潮来市教育委員会	昭 46. 10. 28	大生古墳群中の主要古墳
43	府中愛宕山古墳	石岡市北根本 694 ほか 石岡市	昭 46. 12. 2	墳丘長約 90m の前方後円墳
44	真壁氏累代墓地及び墓 碑群 30 基	桜川市真壁町山尾 525-1 (管) 桜川市教育委員会	昭 46. 12. 2	遍照院墓域にある五輪塔群
45	<small>おお</small> 大生古墳群	潮来市大生 890-1 ほか (管) 風土記の里保存会	昭 50. 3. 25	本県最大級の古墳群で約 100 基
46	太子古墳	かすみがうら市安食 個人 <small>あんじき</small>	昭 52. 5. 2	石室に赤い塗料による壁画が残る
47	千代田の一里塚	かすみがうら市西野寺 個人	昭 52. 5. 2	水戸街道稲吉と府中の間にある一里塚
48	熊野古墳	かすみがうら市市川 個人	昭 52. 5. 2	墳丘長約 63m の前方後円墳
49	<small>こすげごうこう</small> 小菅郷校跡	常陸太田市小菅町 個人	昭 53. 1. 26	矢場、土塁、表門石垣が残る

No.	名 称	所在地 及び 所有者 (管理者)	指定年月日	備 考
50	<small>みなみこうや</small> 南高野貝塚	日立市南高野町 1-19 (管) 日立市教育委員会	昭 54. 3. 8	縄文時代中～晩期の貝塚
51	<small>さかさい</small> 逆井城跡	坂東市逆井 1234 (管) 坂東市	昭 60. 3. 25	戦国末期の後北条氏の有力支城か
52	東城寺経塚群 12 基	土浦市東城寺 (管) 土浦市教育委員会	平 3. 1. 25	平安後期。経筒・経文など出土
53	那珂湊反射炉跡 (附那 珂湊反射炉資料 25 点)	ひたちなか市栄町 1-10 ひたちなか市	平 16. 11. 25	安政年間。鉄製大砲鑄造の施設
54	星神社古墳 1 基	常陸太田市小島町 個人	平 18. 11. 16	墳丘長 100m、県内最古級の前方後円墳
55	富士見塚 1 号墳・2 号 墳・3 号墳 3 基	かすみがうら市柏崎 1546-71、1555-3、 1555-4、1555-15、1572-1 かすみがうら市	平 20. 11. 17	1 号墳：墳丘長約 80m の前方後円墳 2 号墳：墳丘径約 25m の円墳 3 号墳：墳丘径約 17m の円墳
56	石神城跡	東海村大字石神内宿字本城 1244 他 53 筆 東海村	平 29. 12. 25	佐竹氏家臣の石神小野崎氏が在城。 惣構えの中核

## カ 名勝

No.	名 称	所在地 及び 管理者	指定年月日	備 考
1	<small>あゆみざき</small> 歩崎	かすみがうら市坂 921 かすみがうら市	昭 8. 10. 6	霞ヶ浦の土浦入りと高浜入りに挟 まれた岬一帯
2	広浦	茨城町下石崎 1651 茨城町	昭 9. 11. 30	涸沼に突き出た米洲岬 <sup>こめず</sup> 。水戸八景、 「広浦秋月」の碑あり
3	親沢	茨城町上石崎 4144-1 茨城町	昭 9. 11. 30	涸沼の親沢鼻をいう。岸より突き 出た砂州
4	袋田瀧	大子町袋田 大子町	昭 15. 3. 27	高さ 121m、幅 76m、4 段に落ちる <small>よどのたき</small> (四度瀧)
5	花園溪谷「七ツ滝」	北茨城市華川町花園 591 花園神社	昭 27. 12. 18	花園川が 7 段にわたって落瀑

## キ 天然記念物

No.	名 称 ・ 数 量	所在地 及び 所有者	指定年月日	補助事業
1	銚スギ 1 株	大子町下野宮 1626 近津神社	昭 6. 10. 13	避雷針 (昭 59) 避雷針更新 (平 12)
2	三浦杉 2 株	常陸大宮市小田野 172 吉田八幡神社	昭 6. 12. 4	
3	<small>くつかげ</small> 沓掛ノ大樫 1 株	坂東市沓掛 843-1 神明社	昭 7. 6. 24	保存修理 (昭 62) 樹勢回復 (平 14～16)
4	<small>やしろ</small> 八代の大椎 1 株	潮来市上戸 1558 神明神社	昭 8. 10. 6	保存修理 (平 11)
5	金砂山ノ大柊 5 株	ひたちなか市堀口 1 金砂神社	昭 10. 12. 27	
6	花園山石南群落	北茨城市華川町花園 587 ほか 花園神社	昭 11. 4. 17	

No.	名 称 ・ 数 量	所在地 及び 所有者		指定年月日	補助事業
7	鏡岩	常陸大宮市照山 1587	常陸大宮市	昭 11. 4. 17	
8	球状花崗岩	石岡市吉生 2716	石岡市	昭 12. 2. 5	
9	地蔵樺 1 株	取手市下高井 1306	高源寺	昭 14. 3. 6	樹勢回復 (昭 63) 保存修理 (平 8)
10	静のムクノキ 1 株	那珂市静 455	那珂市	昭 14. 3. 31	
11	佐久の大杉 1 株	石岡市佐久 622	佐久区	昭 16. 3. 31	樹勢回復 (平 10~12)
12	龍ヶ崎の垂枝桜 1 株	龍ヶ崎市 3341	般若院	昭 28. 7. 9	樹勢回復 (平元)
13	真鍋の桜 5 株	土浦市真鍋 4-3-1	土浦市	昭 31. 5. 25	樹勢回復 (平 8~9)
14	亀城の椎 1 株	土浦市中央 1 丁目	土浦市	昭 31. 5. 25	
15	海鵜渡来地	日立市川尻町 2-7	日立市	昭 31. 5. 25	
16	平磯白亜紀層	ひたちなか市平磯海岸	ひたちなか市	昭 32. 6. 26	
17	<small>おだか</small> 小高の榎 1 株	行方市小高 925	行方市	昭 33. 3. 12	樹勢回復 (平 18~20)
18	出島の椎 1 株	かすみがうら市下軽部 289	かすみがうら市	昭 33. 3. 12	樹勢回復 (平 12~14)
19	花園の大杉 1 株	北茨城市華川町花園 567	花園神社	昭 35. 12. 21	
20	花園のコウヤマキ 2 株	北茨城市華川町花園 567	花園神社	昭 35. 12. 21	
21	波崎の大タブ 1 株	神栖市波崎 3355	神善寺	昭 35. 12. 21	保存修理 (昭 61)
22	無量寿寺のボダイジュ 1 株	銚田市鳥栖 1013	無量寿寺	昭 36. 3. 24	
23	お葉付イチョウ 1 株	大洗町大貫町 802	西光院	昭 37. 2. 26	自費環境整備 (平 14)
24	大穂のウメ 1 株	つくば市吉沼	個人	昭 37. 8. 27	
25	鹿島神宮樹叢	鹿嶋市宮中 2306-1 ほか	鹿島神宮	昭 38. 8. 23	防虫 (昭 55)。保護 増殖・防災 (平 8~9)
26	下横場の大グミ 1 株	つくば市高野台 3-6-1	つくば市	昭 39. 7. 31	
27	西蓮寺の大イチョウ 2 株	行方市西蓮寺 504	西蓮寺	昭 39. 7. 31	
28	潮来の大ケヤキ 1 株	潮来市潮来 1338-2	素鷲熊野神社	昭 39. 7. 31	
29	大生神社の樹叢	潮来市大生 814	大生神社	昭 39. 7. 31	保護増殖 (平 6)
30	お葉付イチョウ 1 株	銚田市中居 685-1	照明院	昭 42. 3. 30	樹勢回復 (平 13)
31	八重の藤 1 株	笠間市笠間 39	笠間稻荷神社	昭 42. 11. 24	
32	御岩山の三本スギ 1 株	日立市入四間町 752	茨城森林管理署	昭 43. 9. 26	
33	西金砂のイチョウ 1 株	常陸太田市上宮河内町 1915	西金砂神社	昭 44. 3. 20	保存修理 (平 15)
34	西金砂のサワラ 1 株	常陸太田市上宮河内町 1915	西金砂神社	昭 44. 3. 20	保存修理 (平 15)
35	駒つなぎのイチョウ 1 株	日立市大久保町 2-2-11	鹿島神社	昭 44. 12. 1	
36	香仙寺のシイ 1 株	常陸太田市松栄町 615	香仙寺	昭 46. 1. 28	保存修理 (平 12)
37	若宮八幡宮のケヤキ 1 株	常陸太田市宮本町 2344	若宮八幡宮	昭 46. 12. 2	保存修理 (平 8)
38	真弓神社の爺杉 1 株	常陸太田市真弓町陣ヶ峰 2766	真弓神社	昭 46. 12. 2	
39	ウチワサボテン群生地	神栖市太田 2070-8	神栖市教育委員会	昭 47. 12. 18	



No.	名 称 ・ 数 量	所在地 及び 所有者	指定年月日	補助事業
40	モチノキ 1株	常陸太田市天下野町 9740 東金砂神社	昭 47. 12. 18	保護管理 (昭 57)
41	大塚神社のスギ 1株	高萩市下君田 1377 大塚神社	昭 49. 3. 31	
42	大塚神社のモミ 1株	高萩市下君田 1377 大塚神社	昭 49. 3. 31	
43	不動院のカヤ 1株	那珂市菅谷 3021 不動院	昭 49. 3. 31	
44	菅谷のカヤ 1株	那珂市菅谷 個人	昭 50. 3. 25	
45	菅谷のモチノキ 1株	那珂市菅谷 個人	昭 50. 3. 25	
46	曙のグミ 1株	阿見町曙 151-106 阿見町	昭 52. 7. 18	
47	泉福寺のシダレザクラ 1株	常陸太田市大中町 1265 泉福寺	昭 52. 7. 18	
48	ボダイジュ 1株	古河市仁連 126 東漸寺	平 4. 1. 24	
49	イチイガシ 1株	古河市恩名 個人	平 4. 1. 24	
50	椎尾山薬王院の樹叢	桜川市真壁町椎尾 3196 薬王院	平 6. 1. 26	
51	七反のシダレザクラ 1株	常陸太田市里川町 484-6 常陸太田市	平 7. 1. 23	
52	猿喰のケヤキ 1株	常陸太田市徳田町 1744-2 徳田共有地管理委員会	平 9. 1. 27	
53	鷲子山上神社のカヤ 1株	常陸大宮市鷲子 3614-2 鷲子山上神社	平 10. 1. 21	
54	松岩寺のヤマザクラ 1株	高萩市下君田 1569 松岩寺	平 11. 1. 25	支柱付替 (平 30)
55	稲田禅房のお葉付イチョウ 1株	笠間市稲田 469 宗教法人西念寺	平 12. 11. 27	
56	文武館跡のケヤキ 2株	大子町大字大子 554 大子町	平 14. 12. 25	
57	酒列磯前神社の樹叢 38,837 m <sup>2</sup>	ひたちなか市磯崎町 4607-2 宗教法人酒列磯前神社	平 17. 11. 25	参道整備 (令元)
58	外大野のシダレザクラ 1株	大子町大字外大野 個人	平 17. 11. 25	

## (5) 国登録文化財一覧

### ア 国登録有形文化財(建造物)

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿記載年月日
1	茨城県立水戸商業高等学校旧本館玄関	水戸市新荘3-7-2	茨城県	平成8年12月20日
2	水戸市水道低区配水塔	水戸市北見町126-14	水戸市	平成8年12月20日
3	祐月本店雛蔵	水戸市末広町2-2282-21	個人	平成27年11月17日
4	和田家住宅延年楼	水戸市自由が丘4610-29	個人	平成27年11月17日
5	笠間市立歴史民俗資料館(旧宍戸町役場庁舎)	笠間市平町29	笠間市	平成16年2月17日
6	富田家住宅主屋	笠間市大郷戸字内川378	笠間市	令和4年10月31日
7	間宮家住宅主屋	常陸大宮市高部3991	個人	平成15年7月1日
8	旧岡山酒造養浩園喜雨亭	常陸大宮市高部字宿3970	個人	令和4年6月29日
9	島家住宅主屋	城里町上古内480-1	城里町	平成14年8月21日
10	武石家住宅主屋	大洗町磯浜町1107-1	個人	平成17年2月9日
11	幕末と明治の博物館別館	大洗町磯浜町字見付久保8231番地4	大洗町	平成17年2月9日
12	大貫家住宅主屋	大洗町磯浜町字道祖神脇1130-3	個人	平成18年3月2日
13	旧おかめ旅館本館	大洗町磯浜町2315-4他	個人	平成19年10月2日
14	潮田家住宅見世蔵	桜川市真壁町真壁189	個人	平成11年11月18日
15	潮田家住宅袖蔵	〃	〃	〃
16	潮田家住宅脇蔵	〃	〃	〃
17	潮田家住宅別荘(離れ)	〃	〃	〃
18	谷口家住宅店舗	桜川市真壁町桜井373	個人	平成12年4月28日
19	谷口家住宅北袖蔵	〃	〃	〃
20	谷口家住宅南袖蔵	〃	〃	〃
21	谷口家住宅門	〃	〃	〃
22	川島書店見世蔵	桜川市真壁町真壁335	個人	平成12年10月18日
23	三輪家住宅見世蔵	桜川市真壁町真壁229	個人	平成12年10月18日
24	三輪家住宅主屋	〃	〃	〃
25	木村家住宅(小田部生花店)見世蔵	桜川市真壁町真壁字高上町217-1	桜川市	平成12年10月18日
26	木村家住宅(小田部生花店)主屋	〃	〃	〃
27	旧真壁郵便局	桜川市真壁町真壁297	桜川市	平成12年10月18日
28	谷田部家住宅長屋門	桜川市真壁町古城198-1	個人	平成12年10月18日
29	猪瀬家住宅薬医門	桜川市真壁町真壁1	個人	平成12年10月18日
30	村井醸造脇蔵	桜川市真壁町真壁72	個人	平成12年12月4日
31	村井醸造石蔵	桜川市真壁町真壁200-1	個人	平成12年12月4日
32	塚本茶舗脇蔵	桜川市真壁町真壁213-1	個人	平成12年12月4日
33	伊勢屋旅館主屋	桜川市真壁町真壁193	個人	平成12年12月4日
34	伊勢屋旅館土蔵	〃	〃	〃
35	鈴木醸造長屋門	桜川市真壁町古城191	個人	平成12年12月4日
36	西岡本店店舗	桜川市真壁町田6-1	個人	平成13年8月28日
37	西岡本店脇蔵	〃	〃	〃

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
38	西岡本店米蔵	桜川市真壁町田6-1	個人	平成13年8月28日
39	小田部鋳造主屋	桜川市真壁町田45	個人	平成13年8月28日
40	小田部鋳造北土蔵	〃	〃	〃
41	小田部鋳造南土蔵	〃	〃	〃
42	小田部鋳造門	〃	〃	〃
43	関根家住宅店舗	桜川市真壁町真壁390	個人	平成14年6月25日
44	関根家住宅主屋	〃	〃	〃
45	中村家住宅主屋	桜川市真壁町真壁391-1	個人	平成14年6月25日
46	中村家住宅文庫蔵	〃	〃	〃
47	中村家住宅薬医門及び塀	〃	〃	〃
48	橋本旅館主屋	桜川市真壁町真壁410	個人	平成14年6月25日
49	橋本旅館土蔵	〃	〃	〃
50	入江家住宅主屋	桜川市真壁町真壁220	個人	平成14年8月21日
51	高久家住宅店舗	桜川市真壁町真壁191	桜川市	平成14年8月21日
52	川島洋品店土蔵	桜川市真壁町真壁302	個人	平成14年8月21日
53	星野家住宅店舗及び主屋	桜川市真壁町真壁288	個人	平成14年8月21日
54	木村家住宅門	桜川市真壁町真壁字高上町217-1	桜川市	平成14年8月21日
55	市塚紀夫家住宅店舗及び主屋	桜川市真壁町真壁236-1	個人	平成15年7月1日
56	土谷家住宅土蔵	桜川市真壁町真壁272-1	個人	平成15年7月1日
57	山中家住宅長屋門	桜川市真壁町真壁308	個人	平成15年7月1日
58	山中家住宅土蔵	〃	〃	〃
59	中村家住宅見世蔵	桜川市真壁町真壁433	個人	平成15年7月1日
60	中村家住宅主屋	〃	〃	〃
61	細谷家住宅主屋	桜川市真壁町飯塚44	個人	平成15年7月1日
62	細谷家住宅長屋門	〃	〃	〃
63	市塚章一家住宅長屋門	桜川市真壁町飯塚74	個人	平成15年7月1日
64	市塚昌宏家住宅表門	桜川市真壁町飯塚85	個人	平成15年7月1日
65	小林商店店舗	桜川市真壁町飯塚171-2	個人	平成15年7月1日
66	小林商店米蔵	〃	〃	〃
67	増渕家住宅店舗	桜川市真壁町真壁396	個人	平成15年9月19日
68	増渕家住宅主屋	〃	〃	〃
69	増渕家住宅長屋門	〃	〃	〃
70	佐藤家住宅表門	桜川市真壁町真壁397	個人	平成15年9月19日
71	市塚政一家住宅長屋門	桜川市真壁町飯塚26	個人	平成15年9月19日
72	桜井家住宅店舗	桜川市真壁町真壁409	個人	平成16年2月17日
73	桜井家住宅主屋	〃	〃	〃
74	桜井家住宅西蔵	桜川市真壁町真壁409	個人	平成16年2月17日
75	桜井家住宅新蔵	〃	〃	〃
76	北岡家住宅店舗及び主屋	桜川市真壁町飯塚104	個人	平成16年2月17日

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
77	大森家住宅主屋	桜川市真壁町桜井169- 1	個 人	平成16年 3 月 2 日
78	大森家住宅長屋門	”	”	”
79	大森家住宅石蔵	”	”	”
80	密弘寺不動堂	桜川市真壁町真壁184	密弘寺	平成16年 3 月 2 日
81	西岡家住宅店舗	桜川市真壁町真壁56- 1	個 人	平成16年 6 月 9 日
82	西岡家住宅主屋	”	”	”
83	西岡家住宅土蔵	”	”	”
84	平井家住宅店舗及び主屋	桜川市真壁町真壁264	個 人	平成16年 6 月 9 日
85	平井家住宅土蔵	”	”	”
86	旧樺穂小学校校舎	桜川市真壁町真壁351	個 人	平成16年 6 月 9 日
87	塚本家住宅見世蔵	桜川市真壁町真壁60	個 人	平成16年11月 8 日
88	塚本家住宅主屋	”	”	”
89	塚本家住宅土蔵	”	”	”
90	塚本家住宅門	”	”	”
91	村井醸造店舗	桜川市真壁町真壁72	個 人	平成16年11月 8 日
92	村井醸造煙突	”	”	”
93	土生都家住宅主屋	桜川市真壁町真壁75- 2	個 人	平成16年11月 8 日
94	土生都家住宅門	”	”	”
95	根本医院門	桜川市真壁町真壁202	個 人	平成16年11月 8 日
96	鈴木家住宅表門	桜川市真壁町真壁34	個 人	平成17年 7 月12日
97	村上家住宅主屋	桜川市真壁町真壁232	個 人	平成17年 7 月12日
98	村上家住宅離れ	”	”	”
99	村上家住宅土蔵	”	”	”
100	村上家住宅表門	”	”	”
101	出川家住宅主屋	桜川市真壁町真壁347	個 人	平成17年 7 月12日
102	出川家住宅石蔵	”	”	”
103	増淵有市家住宅表門	桜川市真壁町真壁412	個 人	平成17年 7 月12日
104	増淵有市家住宅土蔵	”	”	”
105	谷口義衛家住宅長屋門及び主屋	桜川市真壁町桜井 1	個 人	平成17年 7 月12日
106	谷口義衛家住宅土蔵	”	”	”
107	谷口家住宅主屋	桜川市真壁町桜井373	個 人	平成17年 7 月12日
108	谷口家住宅離れ	”	”	”
109	谷口家住宅石蔵	”	”	”
110	谷口家住宅奥蔵	”	”	”
111	谷口家住宅穀蔵	”	”	”
112	安達家住宅見世蔵及び主屋	桜川市真壁町真壁字新宿町424-1	個 人	平成29年10月27日
113	安達家住宅座敷	”	”	”
114	安達家住宅薬医門	”	”	”
115	照沼家住宅主屋	東海村大字照沼字寺沼23	個 人	平成19年 7 月31日

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
116	旧共楽館（日立武道館）	日立市白銀町2-21-15	日立市	平成11年7月8日
117	梅津会館（旧太田町役場）	常陸太田市西二町2186	常陸太田市	平成11年8月23日
118	旧町屋変電所	常陸太田市西河内下町1382-1	〃	〃
119	央橋	常陸太田市春友町～町屋町	常陸太田市	平成15年9月19日
120	花貫川第一発電所第三号水路橋（めがね橋）	高萩市大字秋山板木2989	東京発電株式会社	平成11年11月18日
121	賀美発電所本館	常陸太田市上深萩町320	東京発電株式会社	平成16年11月8日
122	賀美発電所放水路及びび余水路	常陸太田市上深萩町	〃	〃
123	賀美発電所取水所	常陸太田市小菅町	〃	〃
124	小里川発電所本館	常陸太田市徳田町1284-2	東京発電株式会社	平成16年11月8日
125	小里川発電所放水路	常陸太田市徳田町	〃	〃
126	小里川発電所余水路	〃	〃	〃
127	小里川発電所取水所	〃	〃	〃
128	徳田発電所本館	常陸太田市徳田町	東京発電株式会社	平成16年11月8日
129	徳田発電所放水路	〃	〃	〃
130	徳田発電所余水路	〃	〃	〃
131	徳田発電所取水所	〃	〃	〃
132	駿河屋宮田書店店舗兼主屋	常陸太田市内堀町2357	個人	平成26年10月7日
133	駿河屋宮田書店土蔵	〃	〃	〃
134	旧稲田家住宅赤煉瓦蔵	常陸太田市東一町2295-2	〃	〃
135	立川醤油店店舗及び主屋	常陸太田市西二町字西二西2177他	個人	令和3年2月26日
136	茨城大学五浦美術文化研究所岡倉天心旧居（研究室）	北茨城市大津町五浦727-2	国立大学法人茨城大学	平成15年7月1日
137	茨城大学五浦美術文化研究所長屋門（管理舎・陳列館）	〃	〃	〃
138	石岡第二発電所取水堰堤	北茨城市中郷町石岡	東京発電株式会社	平成18年3月2日
139	石岡第二発電所沈砂池	〃	〃	〃
140	石岡第二発電所余水路	〃	〃	〃
141	石岡第二発電所水槽	〃	〃	〃
142	石岡第二発電所鉄管路擁壁	〃	〃	〃
143	石岡第二発電所本館	北茨城市中郷町石岡69-1	〃	平成18年3月2日
144	旧上岡小学校第一棟	大子町上岡914他	大子町	平成26年12月19日
145	旧上岡小学校第二棟	〃	〃	〃
146	旧上岡小学校第三棟	〃	〃	〃
147	旧黒沢中学校本館	大子町上郷2604他	大子町	平成26年12月19日
148	旧黒沢中学校技術教室	〃	〃	〃
149	旧黒沢中学校調理室及び図書館	〃	〃	〃
150	旧黒沢中学校屋内運動場	〃	〃	〃
151	旧黒沢中学校音楽教室	〃	〃	〃
152	旧外池呉服店店舗	大子町大字大子字金町東側624・625合併	個人	平成28年2月25日
153	旧樋口病院入院棟	大子町大字大子字泉町北側705	個人	平成28年2月25日
154	大子カフェ店舗兼主屋	大子町大字大子字本町南側689	個人	平成28年2月25日

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
155	大子カフェ土蔵	大子町大字大子字本町南側687-2	個 人	平成28年2月25日
156	旧大子銀行本店	大子町大字大子字金町西側642-2	個 人	平成29年5月2日
157	旧初原小学校一号棟	大子町初原960	大子町	平成30年5月10日
158	旧初原小学校二号棟	〃	〃	〃
159	旧初原小学校講堂	〃	〃	〃
160	旧西金小学校校舎	大子町西金250	大子町	平成30年5月10日
161	旧西金小学校理科室及び音楽室	〃	〃	〃
162	旧西金小学校調理室	〃	〃	〃
163	旧浅川小学校一号棟	大子町浅川1253	大子町	平成30年5月10日
164	旧浅川小学校二号棟	〃	〃	〃
165	旧槇野地小学校校舎	大子町槇野地2469	大子町	平成30年5月10日
166	一色家住宅主屋	土浦市西真鍋町1918-1	土浦市	平成13年8月28日
167	岩瀬家住宅主屋	土浦市小山崎字道知411-1 他	個 人	平成21年1月8日
168	岩瀬家住宅屋敷蔵	〃	個 人	平成22年4月28日
169	岩瀬家住宅米蔵	〃	〃	〃
170	岩瀬家住宅味噌倉	〃	〃	〃
171	岩瀬家住宅表門	〃	〃	〃
172	岩瀬家住宅中ノ門	〃	〃	〃
173	岩瀬家住宅東門	〃	〃	〃
174	岩瀬家住宅塀	〃	〃	〃
175	旧大徳呉服店店蔵北棟	土浦市中央1-914-4	土浦市	平成28年8月1日
176	旧大徳呉服店店蔵南棟	〃	〃	〃
177	旧大徳呉服店袖蔵	〃	〃	〃
178	旧大徳呉服店元蔵	土浦市中央1-914-5	土浦市	〃
179	旧大徳呉服店向蔵	〃	〃	〃
180	旧野村さとう店店舗兼主屋	土浦市中央1-950・952合併	土浦市	平成28年8月1日
181	旧野村さとう店袖蔵	〃	〃	〃
182	旧野村さとう店文庫蔵	〃	〃	〃
183	旧野村さとう店煉瓦蔵	〃	〃	〃
184	土浦市民会館	土浦市東真鍋町1480-2	土浦市	令和6年3月6日
185	きそば東京庵店舗兼住宅	石岡市国府3-3-16	個 人	平成15年7月1日
186	福島屋砂糖店店舗兼住宅	石岡市国府3-4-20	個 人	平成15年7月1日
187	丁子屋店舗兼住宅	石岡市国府3-5-6	個 人	平成15年7月1日
188	森戸文四郎商店店舗兼住宅	石岡市国府3-695-1	株式会社マエノ	平成15年9月19日
189	大和田家貸店舗	石岡市国府3-3-24	個 人	平成15年9月19日
190	十七屋履物店店舗兼住宅	石岡市国府3-4-22	個 人	平成15年9月19日
191	平松理容店店舗兼住宅	石岡市府中2-7-20	個 人	平成16年7月23日
192	久松商店店舗兼住宅	石岡市国府3-4-21	個 人	平成16年7月23日
193	府中誉主屋	石岡市国府5-9-32	府中誉株式会社	平成16年7月23日

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
194	府中誉長屋門	石岡市国府 5-9-32	府中誉株式会社	平成16年7月23日
195	府中誉文庫蔵	〃	〃	〃
196	府中誉穀蔵	〃	〃	〃
197	すがや化粧品店店舗兼住宅	石岡市国府 3-5-1	個 人	平成17年11月10日
198	府中誉仕込蔵	石岡市国府 5-9-32	府中誉株式会社	平成17年11月10日
199	府中誉釜場	〃	〃	〃
200	府中誉春屋	〃	〃	〃
201	大場家住宅主屋	石岡市佐久258-2	個 人	平成17年12月26日
202	栗山呉服店店舗兼住宅	石岡市国府 3-4-25	個 人	平成18年 3月 2日
203	坂入家住宅主屋	石岡市辻字山下179	個 人	平成22年 4月28日
204	旧小野瀬家住宅店舗	龍ヶ崎市4252	有限会社東洋不動産	平成16年 2月17日
205	旧小野瀬家住宅主屋	〃	〃	〃
206	旧諸岡家住宅煉瓦門及び塀	龍ヶ崎市上町4274-1	龍ヶ崎市	平成30年 5月10日
207	旧渡辺甚吉邸主屋	取手市寺田字原5270-8他	前田建設工業株式会社	令和 5年 2月27日
208	旧岡田小学校女化分校校舎	牛久市女化町391-1	牛久市	平成30年 5月10日
209	宮本家住宅店蔵	つくば市北条188	個 人	平成15年 7月 1日
210	宮本家住宅居宅	〃	〃	〃
211	宮本家住宅離れ	〃	〃	〃
212	宮本家住宅炊事場	〃	〃	〃
213	宮本家住宅門	〃	〃	〃
214	宮本家住宅炭・味噌小屋及び車庫	〃	〃	〃
215	宮本家住宅新蔵	〃	〃	〃
216	宮本家住宅大蔵	〃	〃	〃
217	沼尻家住宅主屋	つくば市金田38-1	個 人	平成17年 7月12日
218	沼尻家住宅米蔵	〃	〃	〃
219	沼尻家住宅蔵	〃	〃	〃
220	沼尻家住宅長屋	〃	〃	〃
221	旧田村呉服店ミセ蔵兼主屋	つくば市北条字日向39-1	個 人	平成27年11月17日
222	旧田村呉服店店蔵	〃	〃	〃
223	旧田村呉服店穀蔵及び浴室	〃	〃	〃
224	旧田村呉服店炊事場	〃	〃	〃
225	旧常陸北条郵便局	つくば市北条字中町裏183-3	個 人	平成27年11月17日
226	旧根本家住宅主屋	つくば市吉瀬字清水1680	個 人	平成27年11月17日
227	旧根本家住宅長屋門	〃	〃	〃
228	旧植竹庄兵衛家住宅洋館	稲敷市江戸崎字大日久保甲2354	個 人	平成19年10月 2日
229	旧植竹庄兵衛家住宅和館	〃	〃	〃
230	旧植竹庄兵衛家住宅土蔵	稲敷市江戸崎字大日久保甲2354	個 人	平成19年10月 2日
231	小澤家住宅主屋	美浦村大字大谷字向1620	個 人	平成21年 1月 8日
232	小澤家住宅米蔵	〃	〃	〃
233	小澤家住宅表門	〃	〃	〃

No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登録年月日
234	篆刻美術館表蔵棟（旧平野家表蔵棟）	古河市中央町2-4-18	古河市	平成10年10月9日
235	篆刻美術館裏蔵棟（旧平野家裏蔵棟）	〃	〃	〃
236	坂長本店店蔵	古河市中央町3-5742・5743他	古河市	平成12年9月26日
237	坂長本店袖蔵	古河市中央町3-5742・5743他	古河市	平成12年9月26日
238	坂長本店主屋	〃	〃	〃
239	坂長本店文庫蔵	〃	〃	〃
240	坂長本店中蔵	〃	〃	〃
241	坂長本店石蔵	〃	〃	〃
242	亀屋商事（旧飯島家住宅）本館	古河市雷電町1-78	亀屋商事株式会社	平成16年6月9日
243	亀屋商事（旧飯島家住宅）本館土蔵	〃	〃	〃
244	亀屋商事（旧飯島家住宅）本館旧食堂及び旧浴室	〃	〃	〃
245	亀屋商事（旧飯島家住宅）煉瓦倉庫	古河市東1-15-11	〃	〃
246	武蔵屋店舗	古河市横山町1-5535-2	株式会社武蔵屋	平成25年6月21日
247	荒川家住宅主屋	筑西市甲868	個人	平成11年8月23日
248	荒川家住宅店蔵	〃	〃	〃
249	荒川家住宅付属屋	〃	〃	〃
250	荒川家住宅内蔵	〃	〃	〃
251	荒川家住宅石蔵	〃	〃	〃
252	一木歯科医院	筑西市甲12	個人	平成11年8月23日
253	荒川家住宅主屋	筑西市字田町甲929-1他	個人	平成23年7月25日
254	荒川家住宅旧店蔵	〃	〃	〃
255	荒川家住宅旧土蔵	〃	〃	〃
256	旧尾見家住宅主屋	筑西市村田字下町1624	個人	平成28年11月29日
257	旧尾見家住宅神輿蔵	〃	〃	〃
258	旧尾見家住宅薬医門	〃	〃	〃
259	江連用水旧溝宮裏両樋	下妻市本宗道	下妻市	平成27年3月26日
260	結城酒造株式会社煉瓦煙突	結城市大字結城1589	個人	平成12年4月28日
261	奥順見世蔵	結城市大字結城字大町9-2	個人	平成17年2月9日
262	奥順店舗	結城市大字結城字大町9-2, 12-2	〃	〃
263	奥順離れ	〃	〃	〃
264	奥順土蔵	結城市大字結城字大町9-2, 字西の宮町1336-2	〃	〃
265	結真紬見世蔵	結城市大字結城字大町68-1	個人	平成17年2月9日
266	結真紬主屋	結城市大字結城字大町68-1	個人	平成17年2月9日
267	小西見世蔵	結城市大字結城字浦町114	個人	平成17年2月9日
268	赤荻本店見世蔵	結城市大字結城字浦町122	個人	平成17年2月9日
269	秋葉糝味噌醸造見世蔵	結城市大字結城字浦町174-1	個人	平成17年2月9日



No.	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
270	鈴木紡績見世蔵	結城市大字結城字西の宮町1355	個人	平成17年2月9日
271	鈴木紡績主屋	〃	〃	〃
272	中澤商店見世蔵及び主屋	結城市大字結城字穀町1538	個人	平成17年2月9日
273	旧黒川米穀店店舗	結城市大字結城字西の宮町1319-2	個人	平成18年10月18日
274	キヌヤ菓舗店舗	結城市大字結城字大町9	個人	平成18年10月18日
275	奥順壺の蔵	結城市大字結城大町82	奥順株式会社	平成18年10月18日
276	小倉商店店舗兼主屋	結城市大字結城字浦町116	個人	平成20年3月7日
277	奥庄店舗兼主屋	結城市大字結城字大町24他	個人	平成21年1月8日
278	保坂家住宅主屋	結城市大字結城字浦町135他	個人	平成23年7月25日
279	保坂家住宅土蔵	〃	〃	〃
280	武勇見世蔵	結城市大字結城字浦町144	個人	平成23年7月25日
281	武勇脇蔵	〃	〃	〃
282	武勇製品蔵	〃	〃	〃
283	武勇仕込蔵	〃	〃	〃
284	武勇旧釜蔵	〃	〃	〃
285	武勇煙突	〃	〃	〃
286	鈴木新平商店見世蔵	結城市大字結城字浦町109-1	個人	平成26年12月19日
287	鈴木新平商店文庫蔵	〃	〃	〃
288	鈴木新平商店座敷棟	〃	〃	〃
289	二水会館（旧水海道町役場）	常総市水海道天満町1606	常総市	平成9年12月12日
290	五木宗レンガ蔵	常総市水海道元町3421-1	個人	平成12年4月28日
291	武道館（旧水海道小学校雨天体操場兼講堂）	常総市水海道栄町2680-1	常総市	平成15年7月1日
292	旧大塚酒造店舗兼主屋	坂東市岩井3351-2	坂東市	平成29年5月2日
293	旧大塚酒造本蔵	〃	〃	〃
294	谷中家住宅主屋	結城郡八千代町大字坪井字内海道87-1	個人	令和4年6月29日

#### イ 国登録有形民俗文化財

	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
1	常陸大宮及び周辺地域の和紙生産用具と製品	常陸大宮市	常陸大宮市	平成25年3月12日
2	常陸大子のコンニャク栽培用具及び加工用具	大子町	大子町	平成26年2月24日

#### ウ 国登録記念物

	名 称	所在地	所有者	登録原簿登載年月日
1	岡倉天心旧宅・庭園及び大五浦・小五浦	北茨城市大津町	国立大学法人茨城大学・国土交通省	平成26年3月18日
2	岡山氏庭園（養浩園）	常陸大宮市高部字宿	個人	令和4年11月10日

## 5 市町村別指定文化財数

市町村名	指定別	建造	絵画	彫刻	工芸	書跡	典籍	古文	考資	歴資	無形	有民	無民	史跡	名勝	天然	合計
水戸市	国	5		1	2				1	1				6	1	1	18
	県	6	14	9	24	4			4	2			3	3			69*
	市	13	9	13	20		2	1	10	14	4		4	12		8	110
笠間市	国	3		4												1	8
	県	2	2	10	3	3				1				1		2	24
	市	10	11	37	9	1	1	2	5	4		1	3	17		18	119
ひたちなか市	国													3			3
	県	1			5	1			3					1		3	14
	市	4			4				10	2	2	2	8	11	3	7	53
那珂市	国		3						1								4
	県	1	5	8	3	3				1				1		4	26
	市	2	3	8	6	1		1	12	3			2	4		15	57
常陸大宮市	国								1					1			2
	県	1		4	1				1	1	1	2				3	14
	市	10	5	22	8		1	4	6	6	1	4	9	14		17	106
茨城町	国			1										1		1	3
	県	1	1	2											2		6
	町	1		12	1			1	7			1	3	10		4	40
小美玉市	国																0
	県	1	3	1	1	1											7
	市	6	3	11	4	3		2	2	3		1	6	15		9	65
城里町	国			2													2
	県			3	2						1			2			8
	町	4	3	10	4	3					1	1	2	12	1	5	46
大洗町	国													1			1
	県	1	2	6	5	2		1	1							1	19
	町	2	3	2				1							1	1	10
東海村	国																0
	県		1						2					1			4
	村			6				3	6	1		4		4		7	31
大子町	国														1		1
	県			1									1		1	3	6
	町	2	1	3					1		2	2	1	4		6	22
日立市	国									1		1	1	1		1	5
	県	1	1	6	2	1			1	1		1	1	5		3	23*
	市	4	1	4	5	1			3	4		5	2	8	2	5	44
常陸太田市	国	2		2										2	1		7
	県	2	7	10	2	3							3	4		9	40
	市	5	12	11	16	2			9	4	1	2	2	12		18	94
高萩市	国	1								1						1	3*
	県	1	1							1						3	6
	市		1	1	1			2	1	5			2	7		3	23
北茨城市	国	1											1				2*
	県			3					1				1	1	1	3	10
	市	2	2	15					2				2	5		1	29
鹿嶋市	国	4			2									1		1	8
	県		1	4	9			1			1					1	17
	市	14	7	10	2			4	9			1	3	10		3	63
潮来市	国				1												1
	県	7	3	5	5							1	4	2		3	30
	市	8	5	9	7	11		3	4	4		5	4	12		20	92
鉾田市	国		1	1													2
	県	3	1	2		1										2	9
	市	11		11	1	1			4				1	5	1	18	53
神栖市	国	1															1
	県			2												2	4
	市	1	3	9		1	2						5	1		2	24

市町村名	指定別	建造	絵画	彫刻	工芸	書跡	典籍	古文	考資	歴資	無形	有民	無民	史跡	名勝	天然	合計
行方市	国	2															2
	県	5			4	1			1							2	13
	市	11	1	23	2	1			2	2		1	5	6	0	16	70
土浦市	国	1	1	1	7				1					1			12
	県	3	4	9	14	3			4	1			3	3		2	46
	市	15	11	42	55	5		7	15	12		7	6	41	2	5	223
石岡市	国	1							1					6			8
	県	2	2	4	7	3		2	4	1		1	5	4		2	37
	市	6	5	18	7	4		3	8	1		6	6	10	2	5	81
龍ヶ崎市	国	1	1														2
	県				1				1				1	1		1	5
	市	1		3	1			1	1	6			1	3		4	21
取手市	国	1															1
	県	3												2		1	6
	市	2		1	1									2			6
牛久市	国	1															1
	県	1		2	2												5
	市	1	3	3	7				2	1				8		2	27
つくば市	国	2			2									3			7
	県	8	5	2	7	2			1					2		2	29
	市	8	16	23	8				6				8	6		9	84
守谷市	国																0
	県			1													1
	市	1	1	4	2			5	1				1	2		3	20
稲敷市	国	2												1			3
	県	4	1	5	2	1		2				1		2			18
	市	5	7	27	6	1		6	3	2			6	7		1	71
かすみがうら市	国	1							1								2
	県	2	2	10	6				1					5	1	1	28
	市	6	1	12	10				1			5	3	22		2	62
つくばみらい市	国			1	1								1				3
	県	3		2									1	2			8
	市			6					1	1				1			9
美浦村	国													1			1
	県			2	1				1								4
	村		1	10	7									4			22
阿見町	国																0
	県			2												1	3
	町	1		4					2	1			2	7		4	21
河内町	国																0
	県			1													1
	町	6	2	21	2			1				1		3		4	40
利根町	国				1												1
	県												1				1
	町	4	8	7	3			1	2					6			31
古河市	国	1								1							2
	県	1	2	4	2					1			3	2		2	17
	市	6	11	13	5	2	2	29	10	14		10	3	25		7	137
筑西市	国	1		1							1			4			7
	県	2	7	4	5				1				1	4			24
	市	21	15	21	12	3			10	2		6	4	19		7	120
結城市	国										1			1			2
	県		5	2	5	1		1			1		1	2			18
	市	13	5	17	7		1	7	7				5	27		1	90
下妻市	国	1												1			2
	県			5	2			1	1					1			10
	市	2	3	3				5	3	1			4	6		4	31
常総市	国	1															1
	県		4	2	1								1	1			9
	市	11	6	6	3	1			5		3		6	4		8	53

市町村名	指定別	建造	絵画	彫刻	工芸	書跡	典籍	古文	考資	歴資	無形	有民	無民	史跡	名勝	天然	合計
坂東市	国		1														1
	県	3	2	5	3	1							2	1		1	18
	市	6	4	25					12	4			1			10	62
桜川市	国	1		1	1									2	1	1	7
	県	11	6	20	5	4		1	1	1				2		1	52
	市	12		27	1			1	7	6		2	3	4		7	70
八千代町	国																0
	県	1		2													3
	町	5	5	10	2	1		4	7					8			42
五霞町	国																0
	県				1									1			2
	町	1			1	5											7
境町	国																0
	県		1		1								1				3
	町		445	3	4	9	1	3	2			19	1	2			489
その他	国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

市町村指定文化財数	建造	絵画	彫刻	工芸	書跡	典籍	古文	考資	歴資	無形	有民	無民	史跡	名勝	天然	合計
	243	619	523	234	56	10	97	198	103	13	86	124	386	12	266	2970

(令和6年3月1日現在)

(注) \*について

- ・国指定重要文化財(建造物)「石岡第一発電所施設」は、高萩市と北茨城市にまたがる指定であるので、それぞれの市の欄に重複して記載し、\*を付した。
- ・国指定史跡「新治廃寺跡」は、桜川市と筑西市にまたがる指定であるので、それぞれの市の欄に重複して記載し、\*を付した。
- ・国指定史跡「大宝城跡」は、下妻市と筑西市にまたがる指定であるので、それぞれの市の欄に重複して記載し、\*を付した。
- ・県指定有形文化財(歴史資料)「訂正常陸国風土記版木」は、20枚のうち19枚が日立市に、20枚のうち1枚が水戸市に所在するので、それぞれの市の欄に重複して記載し、\*を付した。
- ・国指定天然記念物「軍鶏(シャモ)」は、東京都・茨城県・秋田県・高知県・千葉県・青森県を主たる棲息地とするので、市町村名を「その他」として記載し、\*を付した。

## 令和5年度新規指定（解除）市町村指定文化財一覧

### <新規指定>

市町村名	種別	名称	数量	所在地	所有者	指定年月日
水戸市	歴史資料	林十江の墓石	1基	水戸市元吉田町3240	宗教法人清巖寺	令和6年2月9日
水戸市	歴史資料	大日本史編纂記録	31冊	水戸市緑町2-1-15	茨城県立歴史館	令和6年2月9日
笠間市	彫刻	木造大日如来坐像	1軀	笠間市箱田2210	笠間市	令和5年9月26日
常陸太田市	考古資料	大方2号墳南埴輪棺出土遺物（一括）	16点	常陸太田市西二町2186	常陸太田市	令和5年4月3日
鹿嶋市	考古資料	岩偶	1点	鹿嶋市粟生2242-1（鹿嶋市どきどきセンター）	鹿嶋市	令和5年5月1日
鹿嶋市	考古資料	土偶	1点	鹿嶋市粟生2242-1（鹿嶋市どきどきセンター）	鹿嶋市	令和5年5月1日
鹿嶋市	考古資料	石棒	1点	鹿嶋市粟生2242-1（鹿嶋市どきどきセンター）	鹿嶋市	令和5年5月1日
鹿嶋市	考古資料	子持勾玉	6点	鹿嶋市粟生2242-1（鹿嶋市どきどきセンター）※ 1点のみ茨城県水戸市緑町2-1-15（茨城県立歴史館）	鹿嶋市	令和5年5月1日
潮来市	有形民俗	山車人形「静御前」	1軀	潮来市潮来856	八丁目区	令和5年7月25日
土浦市	古文書	石田文書	7及び 附1	土浦市中央1-15-18 土浦市立博物館	土浦市	令和5年3月24日
龍ヶ崎市	歴史資料	鉄剣・短剣・ガラス小玉（長峰古墳群第39号墳）	1点	龍ヶ崎市馴馬町2488	龍ヶ崎市	令和6年1月24日
つくば市	工芸品	三村山不殺生界碑	1基	つくば市小田	個人	令和6年2月1日
稲敷市	絵画	絹本着色 両界曼荼羅図 附 桐箱	2幅 1台	稲敷市阿波崎177	満願寺	令和5年5月1日
河内町	建造物	稲荷神社本殿	1棟	河内町長竿字中郷1	氏子総代会会長（管理者）	令和5年4月20日
古河市	絵画	絹本著色 束帯天神像	1幅	古河市中央町3-10-56 古河歴史博物館	紺屋町自治会	令和5年8月10日
古河市	彫刻	木造 不動明王立像	1軀	古河市中田1334	巖松山聖徳院光了寺	令和5年8月10日
古河市	古文書	児矢野家文書 附文書箱	一括	古河市仁連2042-1 三和資料館	個人	令和5年8月10日
古河市	有形民俗	三日月神社祭礼図絵馬	1面	古河市東山田	個人	令和5年8月10日
古河市	絵画	藤懸博士寿像	1幅	古河市中央町3-10-56 古河歴史博物館	古河市	令和5年11月8日

市町村名	種別	名称	数量	所在地	所有者	指定年月日
筑西市	彫刻	木造毘沙門天立像（附胎内奉納経）	1 軀	筑西市中館522- 1	観音寺	令和5年9月22日
筑西市	彫刻	木造不動明王立像	1 軀	筑西市中館522- 1	観音寺	令和5年9月22日

### <指定解除>

	種別	名称	数量	所在地	所有者	解除年月日
笠間市	絵画	絹本著色阿弥陀如来現前図	1 幅	笠間市笠間350	月崇寺	令和5年12月28日
大洗町	古文書	税所文書	86点	水戸市緑町2-1-15 (茨城県立歴史館に寄託)	個人	令和5年12月28日
潮来市	建造物	須田家の門	1 棟	潮来市牛堀	個人	令和5年12月28日
古河市	無形民俗	中田永代太々神楽	—	古河市中田1337- 6	古河神楽保存会	令和5年12月28日
桜川市	彫刻	仁王尊像一對	2 軀	桜川市本木 1	楽法寺	令和5年1月12日

## 6 令和5年度茨城県埋蔵文化財 センター事業概要



## 1 概 要

### (1) 設置目的

茨城県埋蔵文化財センター「いせきびあ茨城」（以下「埋蔵文化財センター」という。）は、公益財団法人茨城県教育財団（以下「教育財団」という。）が発掘調査及び整理・研究を行った出土遺物等を収蔵・保管及び管理し、さらに活用して県民への埋蔵文化財の保護と普及啓発を行い、文化財保護行政を担う人材の育成を図る。

なお、埋蔵文化財センター内には、教育財団の整理センターが所在しており、国・県等の開発事業に係る発掘調査で得られた出土遺物等の整理・研究及び報告書刊行を行っている。

### (2) 所在地

〒311-4325 茨城県東茨城郡城里町北方 1481 番地（旧城里町立北方小学校敷地）

電話：029-289-3300 F A X：029-289-4545

### (3) 利用時間

開館時間 9：00～17：00（入館は 16：30 まで）

休館日 毎週土曜日、国民の祝日に関する法律に規定する休日、年末・年始（12/29～1/3）

## 2 令和 5 年度事業概要

### (1) 遺物の保存・活用事業

#### ア 収蔵・保管状況（令和 5 年 12 月末現在）

報告書番号	報告書名	所在地	刊行年月
第 405 集	清水古墳群 神屋遺跡 神屋南遺跡	稲敷市	平成 28 年 3 月
第 406 集	高須賀堂ノ前遺跡 高須賀道城入遺跡	つくば市	平成 28 年 3 月
第 407 集	東田中遺跡 中津川遺跡 2	石岡市	平成 28 年 3 月
第 408 集	並松遺跡 2	城里町	平成 28 年 3 月
第 409 集	取手宿跡 2	取手市	平成 28 年 3 月
第 411 集	仁江戸古墳群	八千代町	平成 28 年 3 月
第 412 集	宮後東原遺跡	筑西市	平成 28 年 3 月
第 413 集	明石遺跡 2	つくば市	平成 28 年 3 月
第 416 集	埃倉遺跡 鐘打東遺跡 埃倉西遺跡	坂東市	平成 29 年 3 月
第 420 集	殿島遺跡	小美玉市	平成 29 年 3 月
第 425 集	東大橋逆井遺跡	石岡市	平成 30 年 3 月
第 426 集	清水原山遺跡	潮来市	平成 30 年 3 月
第 427 集	築地遺跡 宮原前遺跡 2	常総市	平成 30 年 3 月
第 428 集	山王中坪遺跡	五霞町	平成 30 年 3 月
第 429 集	柴崎大堀遺跡 柴崎大日塚	つくば市	平成 30 年 3 月
第 430 集	見川塚畑遺跡	水戸市	平成 30 年 3 月
第 431 集	島名熊の山遺跡(14 区)	つくば市	平成 30 年 3 月
第 432 集	島名熊の山遺跡(13・14 区)	つくば市	平成 30 年 3 月
第 434 集	東田中遺跡 2	石岡市	平成 31 年 3 月
第 435 集	九重東岡廃寺 金田西遺跡	つくば市	平成 31 年 3 月
第 436 集	瑞龍遺跡	常陸太田市	平成 31 年 3 月
第 437 集	島名熊の山遺跡(12 区 A・D 区)	つくば市	平成 31 年 3 月
第 438 集	島名中代遺跡	つくば市	平成 31 年 3 月
第 439 集	島名前野東遺跡	つくば市	令和 2 年 3 月
第 440 集	須賀下東遺跡	鉾田市	令和 2 年 3 月
第 443 集	金田西坪 B 遺跡	つくば市	令和 2 年 3 月
第 445 集	中道遺跡	大子町	令和 2 年 3 月
第 446 集	下河原崎高山古墳群 2	つくば市	令和 2 年 3 月
第 447 集	与曾内遺跡	龍ヶ崎市	令和 2 年 3 月

報告書番号	報告書名	所在地	刊行年月
第 448 集	熊ノ平古墳群 一本椎遺跡	行方市 潮来市	令和 3 年 3 月
第 449 集	金田西坪 B 遺跡 2	つくば市	令和 3 年 3 月
第 450 集	上境滝の台古墳群 上境作ノ内遺跡 2 上境作ノ内古墳群	つくば市	令和 3 年 3 月
第 451 集	館野遺跡 並木新田台北遺跡	小美玉市	令和 3 年 3 月
第 452 集	下大賀遺跡 2	那珂市	令和 3 年 3 月
第 453 集	大高台遺跡 北久保 B 遺跡	高萩市	令和 3 年 3 月
第 454 集	島名本田遺跡	つくば市	令和 3 年 3 月
第 455 集	米田水塚群第 1 号塚	取手市	令和 3 年 3 月
第 456 集	牛頭座南遺跡	阿見町	令和 3 年 3 月
第 457 集	中居指遺跡	下妻市	令和 4 年 3 月
第 458 集	姥久保遺跡 2	かすみがうら市	令和 4 年 3 月
第 459 集	上境旭台貝塚 5	つくば市	令和 4 年 3 月
第 460 集	金田西遺跡	つくば市	令和 4 年 3 月
第 461 集	船玉台遺跡	小美玉市	令和 4 年 3 月
第 462 集	塔ノ内南遺跡	筑西市	令和 4 年 3 月
第 463 集	天神道 B 遺跡	鉾田市	令和 4 年 3 月
第 464 集	白楽南塚	土浦市	令和 5 年 3 月
第 465 集	中道遺跡 寺内遺跡 大城遺跡 舟塚古墳群	水戸市	令和 5 年 3 月
第 466 集	橋爪遺跡	笠間市	令和 5 年 3 月
第 467 集	下大賀遺跡 3	那珂市	令和 5 年 3 月
第 468 集	島名本田遺跡 2	つくば市	令和 5 年 3 月
第 469 集	元中北東藤四郎遺跡 上河原崎前山遺跡	つくば市	令和 5 年 3 月

※遺物は発掘調査報告書ごとに収蔵・保管している。

※報告書番号のない遺跡の遺物は、遺跡所在市町村へ譲与済

#### イ 活用状況

##### ○常設展示

茨城県内における、旧石器時代から近世までの、歴史の流れに沿った発掘調査出土資料を展示した。

##### ○遺跡調査速報展示

前年度に整理作業が終了した遺跡の最新の成果を展示し、紹介した。

##### ○いばらき教育月間特別展示「上境旭台貝塚ーよみがえる縄文の技と色ー」

つくば市の上境旭台貝塚は、平成 19～30 年度にかけて発掘調査が実施された、縄文時代後晩期を中心とした遺跡である。特に、縄文時代の漆製品が良好な状態で見つかり、木製品及び未成品の出土と合わせ、当遺跡において高度な漆工が行われた可能性を示す、貴重な資料となった。

令和 4 年度に整理作業及び保存処理が完了したことから、出土した漆工・木工の資料を中心に、縄文時代の高い技術を紹介する展示を行った。

令和 5 年 11 月 1 日～11 月 30 日の期間中に、延べ 363 人が来館した。

#### ウ 所蔵資料の利活用

茨城県内小中学校等を対象にした出前授業における展示、実物（縄文土器・弥生土器・石器・土偶）の観察や触れる体験活動のための教材として利活用した。

#### エ 所蔵資料の貸出等

下記のイベント等に、所蔵資料を貸し出した。

##### ○北茨城市歴史民俗資料館 企画展「調べてみよう！昔のこと」

会 期：令和 5 年 6 月 14 日～9 月 10 日

貸出資料：常総市築地遺跡出土遺物

○つくば市 文化財巡回企画展「発掘！！圏央道ーつくば市内遺跡出土品展ー」

会 期：令和5年10月14日～12月13日

貸出資料：つくば市高須賀堂ノ前遺跡、同市高須賀道城入遺跡出土品

○その他、県外博物館・県内市町村教育委員会及び個人研究者向けに、保管資料の閲覧について対応した。



特別展示解説の様子（全埋協）



出前授業の様子

(2) 普及事業の実績

ア わくわく体験教室

開催日	テーマ	人	開催日	テーマ	人
5月14日	貝塚のひみつを調べよう	22	9月10日	縄文土器のひみつをさぐるⅠ	24
6月4日	古墳探検をしよう	17	10月1日	縄文土器のひみつをさぐるⅡ	23
7月23日	勾玉や管玉ってなんだろう	21	12月10日	勾玉や管玉ってなんだろう	21
8月20日	埴輪（ハニワ）のなぞにせまる	24	計		152

イ 出前授業・出前講座（令和5年12月末現在）

開催日	事業所名	人	開催日	事業所名	人
5月26日	水戸市立梅が丘小（6年）	123	8月21日	笠間小児童クラブ	67
5月30日	常陸太田市立世矢小（6年）	12	8月24日	阿見町二区児童館	14
6月6日	笠間市立岩間第三小（6年）	42	8月27日	土浦市五中地区市民委員会チャレンジクラブ	18
6月12日	日立市立諏訪小（6年）	42	9月24日	城里町教育委員会	27
6月16日	日立市立大久保小（6年）	88	9月25日	北茨城市関南町公民館ゆずりは学級	22
6月20日	東海村立中丸小（6年）	107	10月23日	石岡市立児童センター	12
7月5日	水戸市立石川小（6年）	78	11月5日	守谷市中央公民館	18
7月11日	ひたちなか市立堀口小（6年）	71	11月9日	石岡市立児童館	18
7月26日	水戸市ふれあいの館	27	11月11日	国営ひたち海浜公園 海花そとあそび	196
8月6日	国営ひたち海浜公園	24	11月19日	県立図書館	35
8月8日	こどもひろばころっぽごろっぽ	20	12月12日	常陸太田市立機初小（5年）	120
計					1,181

ウ 施設見学・体験活動（令和5年12月末現在）

○ 団体

開催日	事業所名	人	開催日	事業所名	人
6月26日	城里町立七会小（6年）	11	8月10日	学童保育園子ロッコロ	17
7月7日	那珂市立額田小（6年）	23	8月18日	城里町教育研究会社会教育研究部	19
7月13日	大子町立袋田小（6年）	13	8月28日	こどもひろばころっポごろっポ	25
7月14日	城里町立沢山小（6年）	17	11月2日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会	48
8月2日	子コロッコロ本米崎クラブ	30	11月9日	城里町立常北小（3年）	16
8月3日	子コロッコロ本米崎クラブ	35	11月19日	那珂市戸田地区歴史保存会	15
8月4日	こどもひろばころっポごろっポ	19	12月5日	城里町立石塚小（4年）	62
8月9日	笠間小児童クラブ	32		計	382

○ 個人

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
人数（人）	57	73	43	50	154	27	56	284	40	784

エ 広報活動

広報資料	主な配布対象等
わくわく体験教室ポスター 施設パンフレット	茨城県内の小中学校、教育文化施設ほか
埋蔵文化財センターPRクリアファイル 「上境旭台貝塚-よみがえる縄文の技と色-」リーフレット	来館者ほか
茨城県教育委員会ホームページでの事業実績掲載	インターネットによる情報提供

オ 城里町との連携事業

- 9月24日 いきいき城里「勾玉・管玉ネックレス作り教室」講師派遣、会場提供 27人
- 11月12日 「ホロルのたまご～しろさと町民まつり～」へブース出展 利用者 339人
- 1月21日 城里町、教育財団と城里町文化財散策を共催（荒天のため中止）



しろさと町民まつりでのブース出展



施設見学の様子

## 7 令和4年度茨城県遺跡発掘調査報告



中津川遺跡 地点貝層確認状況（石岡市）〔提供（公財）茨城県教育財団〕



谷田部陣場西遺跡 遺物出土状況（つくば市）〔提供（公財）茨城県教育財団〕



中台遺跡 第5号土坑遺物出土状況（常陸大宮市）〔提供 常陸大宮市教育委員会〕



下大賀遺跡 第261号竪穴建物跡鉄剣出土状況（那珂市）〔提供（公財）茨城県教育財団〕

## 1 発掘調査の概要

本報告は、令和4年度に実施された発掘調査（保存目的調査、範囲確認調査及び学術調査）76件について、市町村文化財主管課及び（公財）茨城県教育財団等の調査担当者から提供された原稿をもとにまとめたものである。以下、注目される発掘調査について概観する。

**縄文時代：49** 中津川遺跡（石岡市）では、一般国道6号千代田石岡バイパス建設に係る発掘調査により、縄文時代中期の竪穴建物跡や大型土坑等が確認された。特に、遺構の埋没後にできた窪地には、多くの廃棄土器や地点貝層が確認されており、当時の生活の一端がうかがえる。また、**59** 谷田部陣場西遺跡では、縄文時代中期の竪穴建物跡や袋状土坑、円筒状土坑が複雑に重複して見つかっており、大規模な集落が営まれたと考えられる。他地域の影響を受けた土器も出土しており、地域間交流を物語っている。

**弥生時代：26** 中台遺跡（常陸大宮市）は、久慈川右岸の河岸段丘上に位置する。かねてより、採取された土器から、弥生時代中期の再埋葬の存在が想定されていたが、今回の発掘調査により、再埋葬8基が群在して確認された。

**古墳時代：28** 下大賀遺跡（那珂市）は、一般県道静常陸大宮線道路整備に伴って発掘調査が実施された。特に、古墳時代の竪穴建物跡より完形の鉄剣や、線刻のある紡錘車等の特殊な遺物が出土し、注目される。また、**34** 戸ノ内古墳（東海村）では保存目的調査が実施され、過去の調査で確認されていた周溝の延長が確認されたほか、墳丘等から周溝内に落ち込んだと見られる形象埴輪、円筒埴輪が多数出土した。さらに、**43** 武者塚古墳（土浦市）における市及び筑波大学による学術調査の結果、周溝の北西隅部が確認され、従来考えられてきた円墳ではなく、方墳であることが明らかとなった。

**奈良・平安時代：15** 台渡里官衙遺跡（水戸市）における第230次調査では、梁行2間以上、桁行5間以上の側柱建物跡が確認され、那賀郡衙正倉のうちの一棟であったと推測される。また、**69** 結城廃寺跡（結城市）では、史跡整備に伴う確認調査が継続的に実施されており、令和4年度には奈良・平安時代の軒廊跡及び鐘楼跡または経蔵跡と推定される掘込地業が確認された。掘込地業の周囲には整地層が広がり、出土遺物から9世紀前半以降に整地されていることが判明した。

**中・近世：10** 河和田城跡（水戸市）では、土塁の構築土中より五輪塔が多数出土し、郭内からは墓坑が確認された。土塁の構築年代は15世紀後半から16世紀前半とみられ、墓坑の年代はそれ以前に比定されることから、墓域から城郭への土地利用の変遷がとらえられた。**21** 佐白百坊寺院跡（笠間市）での確認調査では、本堂及び塔跡推定地から基壇跡、通路跡、礎石等が確認され、近世正福寺跡の存在についての考古学的知見が得られた。

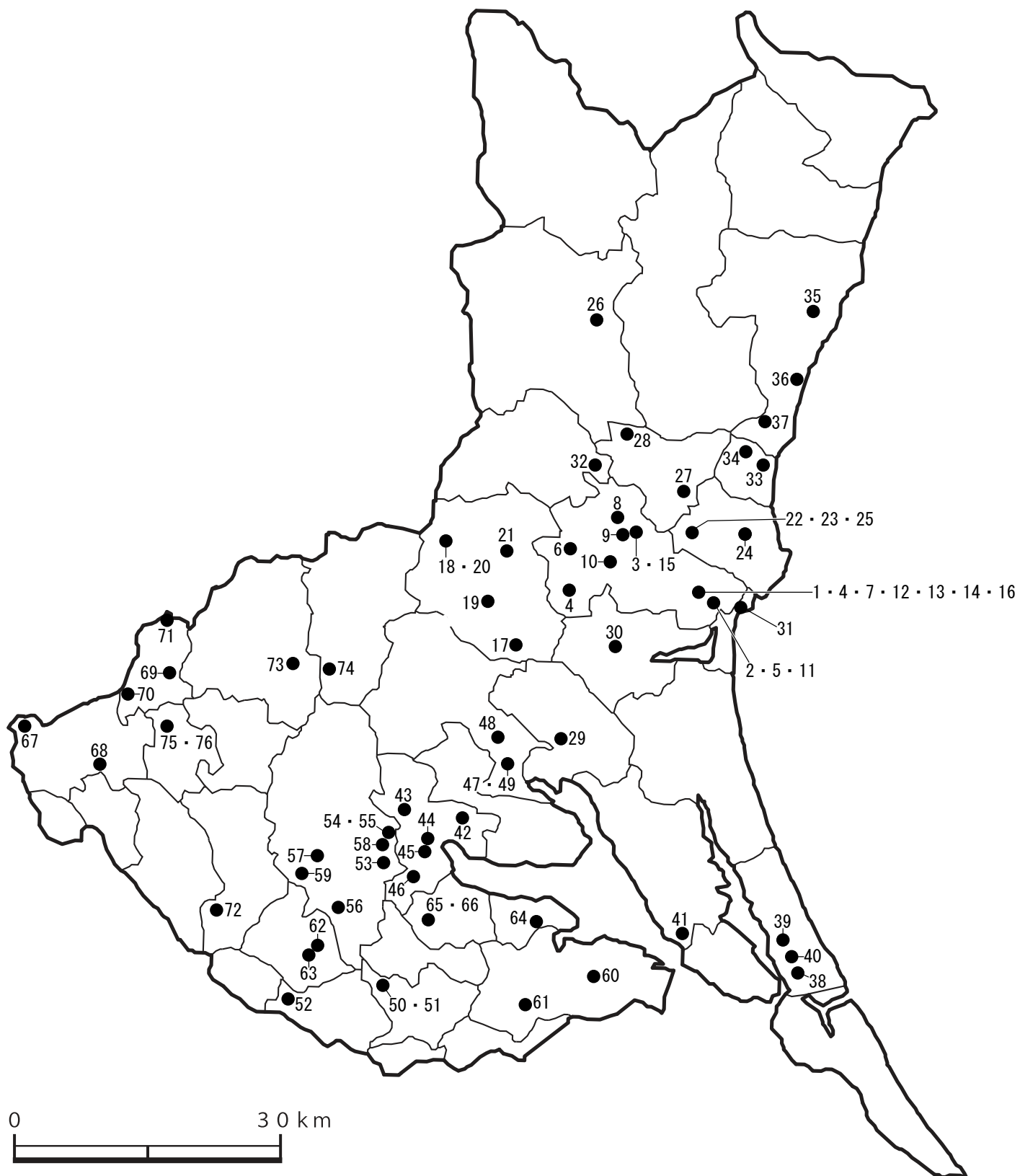
## 2 発掘調査遺跡の主な種別と時代

市町村名	番号	遺跡名	種別	主な時代							
				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	近現代
水戸市	1	小原遺跡（第51地点第2次）	集落跡					●			
	2	東前原遺跡（第8地点第11次）	集落跡					●			
	3	渡里町遺跡（第42地点第3次）	集落跡		●			●		●	
	4	倉田遺跡（第10地点第3次）	集落跡		●			●		●	
	5	大串原遺跡（第2地点第2次）	集落跡					●			
	6	大城遺跡（第15地点第2次）	集落跡			●		●	●	●	
	7	小原遺跡（第10地点第3次）	集落跡				●	●			
	8	馬場尻遺跡（第22地点第2次）	集落跡		●			●			
	9	堀遺跡（第95地点第2次）	集落跡			●	●	●	●	●	



市町村名	番号	遺 跡 名	種別	主 な 時 代							
				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	近現代
水戸市	10	河和田城跡 (第46地点第3次)	城館跡						●		
	11	北屋敷古墳群 (第2地点第2次)	古墳群				●				
	12	小原遺跡 (第10地点第5次)	集落跡					●			
	13	小原遺跡 (第10地点第6次)	集落跡				●	●		●	
	14	小原遺跡 (第10地点第8次)	集落跡					●		●	
	15	台渡里官衙遺跡 (台渡里第230次)	官衙跡					●		●	
笠間市	16	小原遺跡 (第43地点第4次)	集落跡				●	●		●	
	17	御前塚古墳群	古墳群				●				
	18	石井遺跡群 (2021-06 地点)	集落跡					●			
	19	橋爪遺跡 (2022-01 地点)	集落跡		●						
	20	石井遺跡群 (2022-01 地点)	集落跡					●			
ひたちなか市	21	佐白百坊寺院跡 (第1次)	寺院跡						●	●	
	22	市毛遺跡 (第6次)	集落跡		●		●	●			
	23	市毛遺跡 (第7次)	集落跡		●		●	●			
	24	向野A遺跡 (第10次)	集落跡		●						
常陸大宮市	25	市毛遺跡 (第8次)	集落跡		●		●	●			
	26	中台遺跡	再葬墓ほか			●		●			
那珂市	27	地天館跡 (第2次)	城館跡ほか		●	●	●	●	●	●	
	28	下大賀遺跡	集落跡ほか				●	●	●		
小美玉市	29	蔦山遺跡	包蔵地		●		●				
茨城町	30	小鶴西遺跡	集落跡ほか		●		●	●	●	●	
大洗町	31	髭釜遺跡 (第26次)	集落跡			●		●			
城里町	32	那珂西遺跡・那珂西城跡	城館跡ほか		●		●		●		
東海村	33	豊岡宮前遺跡	集落跡					●			
	34	戸ノ内古墳	古墳				●				
日立市	35	田尻上の代遺跡	集落跡		●	●					
	36	八反遺跡	集落跡					●			
	37	原の内遺跡	集落跡				●	●			
鹿嶋市	38	屋敷廻り遺跡	包蔵地				●	●			
	39	坂戸遺跡	包蔵地ほか		●		●				
	40	桜山墓地跡	墓域ほか						●	●	
行方市	41	奥村遺跡	包蔵地		●	●	●	●	●		
土浦市	42	前神田遺跡 (第2次)	集落跡					●			
	43	武者塚古墳	古墳				●				

市町村名	番号	遺 跡 名	種別	主 な 時 代							
				旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	近現代
土浦市	44	殿里遺跡	集落跡		●	●	●	●			
	45	下高津小学校遺跡（第6次）	集落跡			●	●	●	●		
	46	南達中A遺跡	集落跡ほか				●	●	●	●	
石岡市	47	税所屋敷遺跡	包蔵地		●		●	●			
	48	尼寺ヶ原遺跡	集落跡					●			
	49	中津川遺跡	集落跡		●	●				●	
龍ヶ崎市	50	馬場台第2遺跡	集落跡		●	●	●	●			
	51	八幡作遺跡	集落跡		●						
取手市	52	後原遺跡	集落跡					●			
つくば市	53	大角豆遺跡（第20次）	集落跡		●	●	●	●	●	●	
	54	大寺前遺跡	集落跡ほか				●	●	●	●	
	55	古来北ノ崎遺跡	集落跡ほか		●			●	●	●	
	56	谷田部第六天下遺跡	集落跡		●	●	●	●			
	57	島名関ノ台古墳群、島名関ノ台南A遺跡	古墳群ほか				●	●			
	58	上ノ室ハマイバ遺跡（第17次）	集落跡				●	●			
	59	谷田部陣場西遺跡	集落跡		●		●				
稲敷市	60	出戸遺跡	集落跡		●		●	●	●	●	
	61	東条城跡	城館跡						●		
つくばみらい市	62	鎌田遺跡	集落跡		●			●			
	63	三條院城跡	城館跡ほか		●				●		
美浦村	64	大谷貝塚	集落跡			●	●	●			
阿見町	65	上宿遺跡	集落跡				●	●	●	●	
	66	実穀神田遺跡	集落跡		●		●	●			
古河市	67	雀宮遺跡	集落跡		●		●				
	68	東の門西の門城跡（第5次）	城館跡ほか				●	●	●		
結城市	69	結城廃寺跡	寺院跡					●	●		
	70	香取前遺跡	集落跡		●	●	●	●	●	●	
	71	柳下B遺跡	集落跡				●	●			
常総市	72	籠沼遺跡・籠場遺跡	集落跡		●			●		●	
筑西市	73	石倉西遺跡	集落跡ほか		●		●	●	●		
桜川市	74	南椎尾八幡前遺跡	集落跡			●	●	●	●		
八千代町	75	権現山遺跡	集落跡	●	●			●	●		
	76	旧中結城小学校庭遺跡	集落跡		●		●	●	●		



令和4年度 発掘調査遺跡分布図

<b>1</b>	<small>こはらいせき</small> <b>小原遺跡 (第51地点第2次)</b>	<b>08201183</b>	<b>(奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>在 地</b>	水戸市東前町 1046 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	土地区画整理事業	那珂川水系涸沼前川右岸(南岸)の標高約18mの台地上に立地する。今般の調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡9棟、土坑2基、ピット2基が確認された。今般調査地点は小原遺跡内でも最も遺構密度が高い場所とみられ、狭小な面積ながら遺構の重複が多い。遺構を構成する年代は、9世紀前半を主体とする。9棟のうち2棟は主軸に対して横長の形態となっている。また、1棟が南東隅にカマドを持つ「壁隅カマド」の竪穴建物跡であり貴重な事例と評価される。	
<b>調査年月日</b>	令和4年1月24日～4月8日		
<b>調査面積</b>	200 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>調査支援</b>	株式会社地域文化財研究所		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和5年刊行		
<b>2</b>	<small>とうまえはらいせき</small> <b>東前原遺跡 (第8地点第11次)</b>	<b>08201239</b>	<b>(奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	水戸市東前町字原 1034 番3 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	土地区画整理事業	涸沼川右岸(南岸)の標高約18mの台地上に立地する。今般の調査では、竪穴建物跡14棟、掘立柱建物跡4棟、溝6条、土坑8基、ピット150基を検出した。集落の構成時期は9世紀前半を主体としている。竪穴建物跡の中でも、SI06は一辺が7mを超え、この時期のものとしては規模が大きい。また、出土遺物では、銅製の帯金具(巡方)が出土し、市内においても、希少な出土事例となった。	
<b>調査年月日</b>	令和4年1月24日～4月8日		
<b>調査面積</b>	700 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>調査支援</b>	株式会社地域文化財研究所		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和5年刊行		
<b>3</b>	<small>わたりちよういせき</small> <b>渡里町遺跡 (第42地点第3次)</b>	<b>08201121</b>	<b>(縄文時代、奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	水戸市渡里町字小山ノ上 2469 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	学生寮建設工事	那珂川右岸の標高約31mの台地上に立地する。今般の調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡3棟、溝状遺構3条、土坑2基、ピット15基が確認された。竪穴建物跡は9世紀代とみられ、うち1棟は東北地方に多くみられる長煙道を有するカマドが付設されたものであり、東北地方との関わりを示す調査例となった。本遺跡は、既往調査から縄文時代中期の集落跡であると周知されていたが、遺跡南側に位置する当該地点は9世紀代の集落が展開する様相が判明した。	
<b>調査年月日</b>	令和4年3月3日～4月6日		
<b>調査面積</b>	410 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>調査支援</b>	株式会社ラクロ		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和5年刊行		
<b>4</b>	<small>くらたいせき</small> <b>倉田遺跡 (第10地点第3次)</b>	<b>08305019</b>	<b>(縄文時代、奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	水戸市鯉淵町字五ノ割 4543 番	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事	那珂川水系涸沼前川右岸(南岸)の標高約30mの台地上に立地する。今般の調査では、縄文時代中期の所産として、竪穴建物跡3棟、土坑31基、ピット4基を検出し、縄文土器や石器といった大量の遺物が出土した。土坑は底径が広がるものが多く、底面にピットを伴う例もある。奈良・平安時代の遺構は断面逆台形の溝跡であり、覆土中に須恵器を含む。近世については寛永通宝が出土したのみであり、遺構の検出には至らなかった。	
<b>調査年月日</b>	令和4年1月27日～4月16日		
<b>調査面積</b>	110.25 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和6年(以降)刊行予定		

5 <small>おおくしはらいせき</small> 大串原遺跡 (第2地点第2次)		08201262	(奈良・平安時代 / 集落跡)
所在地	水戸市大串町字原 116-2	<b>調査概要</b>	
調査原因	個人住宅建築工事	東茨城台地の東端付近、標高約 19mの場所に立地する。今般の調査では、竪穴建物跡 1 棟を検出した。当該遺構はカマドを含む全体の約 20%程度が調査区外に延びるが、出土遺物から奈良・平安時代に帰属するものと考えられる。	
調査年月日	令和4年4月12日～4月14日	当該遺跡周辺をはじめとする、東茨城台地東端部における古代の集落展開は、大串遺跡や東前原遺跡などにみられる官衙的性格を含め、今後とも注視すべきものである。	
調査面積	35 m <sup>2</sup>		
調査主体	水戸市教育委員会		
資料保管	水戸市教育委員会		
報告書名	令和6年(以降)刊行予定		
6 <small>おおしろいせき</small> 大城遺跡 (第15地点第2次)		08305072	(弥生時代、奈良・平安時代～近世 / 集落跡)
所在地	水戸市大足町字西木戸 905 番 3 ほか	<b>調査概要</b>	
調査原因	個人住宅建築工事	桜川左岸の標高 39m～45mの低台地上に位置する。今般の調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡 9 棟、古墳時代と時期不明の土坑 3 基、ピット 25 基を検出した。	
調査年月日	令和4年4月19日～6月18日	竪穴建物跡は 1 棟を除き、調査区の西側に 8 棟が重複して検出されており、壁面の切り合い関係や遺物の年代から、9世紀第2・3四半期～11世紀にかけての時期と推測される。	
調査面積	約 79 m <sup>2</sup>		
調査主体	水戸市教育委員会		
資料保管	水戸市教育委員会		
報告書名	令和6年(以降)刊行予定		
7 <small>こはらいせき</small> 小原遺跡 (第10地点第3次)		08201183	(古墳時代、奈良・平安時代 / 集落跡)
所在地	水戸市東前町字原 1050 番 1 ほか	<b>調査概要</b>	
調査原因	個人住宅建築工事	那珂川右岸(南岸)、標高約 18mの台地上に立地する。今般の調査では、竪穴建物跡 8 棟、ピット 3 基を検出した。このうち、SI01 は一辺約 3.8mの竪穴建物跡で、カマドの両袖には凝灰岩製の直方体の切石を据えている。また、床面北西部には貯蔵穴を伴う。一方で、SI05 は一辺約 5.4mと今般調査では最大の竪穴建物跡で、支柱穴や出入口ピットのほか、壁際溝内にも支柱穴が並んで検出された。古墳時代の遺構は、後期の竪穴建物跡 1 棟 (SI02) のみであり、大部分が調査区外に展開する。	
調査年月日	令和4年6月21日～8月19日		
調査面積	171 m <sup>2</sup>		
調査主体	水戸市教育委員会		
資料保管	水戸市教育委員会		
報告書名	令和6年(以降)刊行予定		
8 <small>ばばじりいせき</small> 馬場尻遺跡 (第22地点第2次)		08201147	(縄文時代、奈良・平安時代 / 集落跡)
所在地	水戸市飯富町字南前 3505 番 4 ほか	<b>調査概要</b>	
調査原因	個人住宅建築工事	那珂川右岸(西岸)、標高約 36mの台地上に立地する。今般の調査では、竪穴建物跡 1 棟のみを検出した。当該の SI01 は一辺約 4 mを測る。西側半分を検出した形となり、北辺にはカマドを伴う。床面は中央部が低く、西部が明瞭な段差を伴って高くなっている。なお、遺構の帰属時期は、集落内の遺構密度が低くなるとされる 10 世紀頃と考えられ、本遺構の検出状況とも整合的である。縄文土器は早期の田戸下層式の破片であり、SI01 貼り床内から単独で出土した。	
調査年月日	令和4年8月25日～9月26日		
調査面積	86 m <sup>2</sup>		
調査主体	水戸市教育委員会		
資料保管	水戸市教育委員会		
報告書名	令和6年(以降)刊行予定		

9 <sup>ほりいせき</sup>堀遺跡 (第95地点第2次) 08201064 (弥生時代～近世 / 集落跡)

所在地 水戸市渡里町字高野台 3215 番 1 ほか  
調査原因 宅地造成工事  
調査年月日 令和4年8月29日～9月6日  
調査面積 79.786 m<sup>2</sup>  
調査主体 水戸市教育委員会  
調査支援 株式会社ラクロ  
資料保管 水戸市教育委員会  
報告書名 令和5年刊行

調査概要

那珂川南岸の標高約31mの台地上に立地する。今般の調査では、平安時代の堅穴建物跡2棟及びピット4基を検出した。

遺構の年代は9世紀代を中心に構成され、隣接する台渡里官衙遺跡の周辺集落の一端が検出された形である。堀遺跡はこれまでの調査から8世紀後半から9世紀段階に遺構数が増加の一途をたどり、改めて、官衙との関連を注視することが求められる。

10 <sup>かわわだじょうあと</sup>河和田城跡 (第46地点第3次) 08201102 (中世 / 城館跡)

所在地 水戸市河和田町中城 901 番 1  
調査原因 共同住宅建築工事  
調査年月日 令和4年8月29日～9月30日  
調査面積 350 m<sup>2</sup>  
調査主体 水戸市教育委員会  
調査支援 株式会社地域文化財研究所  
資料保管 水戸市教育委員会  
報告書名 令和5年刊行

調査概要

桜川沿いに形成された沖積地を北に臨む、標高32mの微高地上に立地する。調査では、土塁2条、堀1条、溝1条、火葬土坑4基、土坑墓14基、土坑2基、ピット10基が確認された。調査地点は、城域北東部にあたり、二重土塁と堀が残存している。土塁の断ち割り調査にて、構築土中より五輪塔が多数出土し、郭内からは墓坑が確認される等、墓域から城郭への土地利用の変遷が捉えられた。土塁の構築年代は15世紀後半から16世紀前半とみられ、墓坑の年代はそれより前に比定される。

11 <sup>きたやしきこふんぐん</sup>北屋敷古墳群 (第2地点第2次) 08201186 (古墳時代 / 古墳群)

所在地 水戸市大串町字北屋敷 744 番 1  
調査原因 造成工事  
調査年月日 令和4年9月26日～9月30日  
調査面積 455 m<sup>2</sup>  
調査主体 水戸市教育委員会  
調査支援 株式会社ラクロ  
資料保管 水戸市教育委員会  
報告書名 令和5年刊行

調査概要

那珂川右岸(南岸)、標高約19mの台地上に立地する。今般の調査では、古墳の周溝・墳丘が調査対象となった。

墳丘の半分は後世の削土により失われていたことから、墳丘盛土部分の断面調査を行った結果、一部で周溝が確認された。墳丘の中央付近では盛土部分の下層に旧表土層が確認され、下位は自然地形と考えられる。このことから、自然地形を利用した古墳の可能性が高い。

12 <sup>こはらいせき</sup>小原遺跡 (第10地点第5次) 08201183 (奈良・平安時代 / 集落跡)

所在地 水戸市東前町字野口前 1135 番 1 ほか  
調査原因 個人住宅建築工事  
調査年月日 令和4年10月19日～11月5日  
調査面積 40 m<sup>2</sup>  
調査主体 水戸市教育委員会  
資料保管 水戸市教育委員会  
報告書名 令和6年(以降)刊行予定

調査概要

那珂川右岸(南岸)、標高約18mの台地上に立地する。今般の調査では、堅穴建物跡2棟、土坑1基、ピット6基を検出した。堅穴建物跡と土坑は調査区西部、ピット群は確認面が低くなる調査区東部で集中して検出されており、原地形による土地利用の差を反映しているものと見られる。堅穴建物跡のうち、SI02は一辺約3.5mの堅穴建物跡で、貼り床が2層連続して検出されてことから、貼り直しによる床面の補修を経ているものとみられる。

<b>13</b>	<small>こはらいせき</small> <b>小原遺跡 (第10地点第6次)</b>	08201183	(古墳～平安時代、近世 / 集落跡)
<b>所在地</b>	水戸市東前町字原 1074 番 3	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事	那珂川右岸(南岸)、標高約 18mの台地上に立地する。今般の調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡 1 棟、奈良・平安時代の竪穴建物跡 4 棟のほか、近世の掘立柱建物跡 1 棟、溝跡 1 条、ピット 17 基を検出した。古墳時代の竪穴建物跡は他 2 棟の竪穴建物跡に切られて一部しか残存していないものの、土師器甕の大型破片が集中して出土した。7 世紀後半の一边約 6 mの竪穴建物跡では、貼り床が 2 層連続して検出されてことから、貼り直しによる床面の補修を経ているものとみられる。	
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 11 月 16 日～5 年 1 月 20 日		
<b>調査面積</b>	147 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 6 年 (以降) 刊行予定		
<b>14</b>	<small>こはらいせき</small> <b>小原遺跡 (第10地点第8次)</b>	08201183	(奈良・平安時代、近世 / 集落跡)
<b>所在地</b>	水戸市東前町東前第二土地区画整理事業 67 街区 23	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事	那珂川右岸(南岸)、標高約 18mの台地上に立地する。今般の調査では、竪穴建物跡 2 棟(奈良・平安時代)、ピット 3 基(奈良・平安時代、時期不明)を検出した。竪穴建物跡 2 棟は重複しており、SI02 は北・東・西側に周溝が巡り、北壁にカマドをもつ東西軸 3.7m程度、南北軸 2.5m以上の建物跡である。出土遺物から 9 世紀前半に帰属するものと考えられる。SI01 は SI02 に切られており、一边が約 4 m程度の建物と想定される。過去の調査では 8 世紀前半より古相を示すと判明している。	
<b>調査年月日</b>	令和 5 年 1 月 5 日～1 月 24 日		
<b>調査面積</b>	28.6 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 6 年 (以降) 刊行予定		
<b>15</b>	<small>だいわたりかんがいせき</small> <b>台渡里官衙遺跡 (台渡里第 230 次)</b>	08201276	(奈良・平安時代、近世 / 官衙跡)
<b>所在地</b>	水戸市渡里町 2682 番 4	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事	那珂川右岸(南岸)、標高約 32mの台地上に立地する。今般の調査では、奈良・平安時代の竪穴建物跡 1 棟、掘立柱建物跡 1 棟、近世のピット 1 基、土坑 2 基を検出した。掘立柱建物跡は、一边約 1.5mの平面隅丸正方形の柱掘方 6 基と、それらに伴う柱抜取穴により構成される、梁行 2 間以上、桁行 5 間以上の側柱建物である。確認面からの柱掘方の深さは約 1 mである。当該遺構は、那賀郡衙正倉の一棟であったと推測され、その造営・廃絶時期は 9 世紀頃と考えられる。	
<b>調査年月日</b>	令和 5 年 1 月 24 日～2 月 28 日		
<b>調査面積</b>	105 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 6 年 (以降) 刊行予定		
<b>16</b>	<small>こはらいせき</small> <b>小原遺跡 (第43地点第4次)</b>	08201183	(古墳～平安時代、近世 / 集落跡)
<b>所在地</b>	水戸市飯富町字南前 3505 番 4 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事	那珂川右岸(南岸)、標高約 18mの台地上に立地する。今般の調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡 2 棟、奈良・平安時代の竪穴建物跡 2 棟、近世の掘立柱建物跡 2 棟、溝跡 1 条を検出した。竪穴建物跡のうち、古墳時代に帰属する 2 棟では、いずれも遺構北部に存在するカマドに明瞭な燃焼部が残存する。一方、8 世紀後半の所産と考えられる 2 棟は比較的小型の遺構で、柱穴は見られず、カマドにも燃焼部は確認できない。	
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 8 月 25 日～9 月 26 日		
<b>調査面積</b>	86 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	水戸市教育委員会		
<b>資料保管</b>	水戸市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 6 年 (以降) 刊行予定		

<b>17</b>	<small>ごぜんづかこふんぐん</small> <b>御前塚古墳群</b>	<b>08322105</b>	<b>(古墳時代 / 古墳群)</b>
<b>所在地</b>	笠間市泉字北浦 1961 番 1 ほか	<b>調査概要</b>	愛宕山東麓の台地上に位置する。今回の調査では、周溝 1 条（古墳）、土坑 6 基（不明）が検出された。当該地は隣地に 1 号墳が存在し、試掘調査でも周溝の存在が確認された。表土を含め 80 cm～90 cm ほどは盛土や植栽等の攪乱を受けていた。覆土は、締まりのやや緩い黒色土を中心としており、一部鹿沼土を含んでいた。底面付近より、須恵器片や埴輪片が数点出土した。平成 19 年の市道改良工事に伴う発掘調査によって御前塚古墳の周溝が確認されており、その続きが今回検出された。
<b>調査原因</b>	個人住宅建設工事		
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 4 月 18 日～6 月 1 日		
<b>調査面積</b>	110 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	笠間市教育委員会		
<b>資料保管</b>	笠間市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 7 年度刊行予定		
<b>18</b>	<small>いしいせきぐん</small> <b>石井遺跡群 (2021-06 地点)</b>	<b>08216097</b>	<b>(奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	笠間市石井字向畑 445 番 5 ほか	<b>調査概要</b>	石井台の標高約 50m の台地上に位置する。今回の調査では、3 棟の竪穴建物跡、1 棟の掘立柱建物跡、13 基の土坑、溝跡 1 条、ピット 16 基などが確認された。土坑は柱痕が確認されたものもあるため、掘立柱建物跡を 1 棟復元した。石井遺跡群では過去に数度の発掘調査が行われており、特に 1972 年に刊行された『茨城県笠間市うら山古墳・石井台平安時代集落調査研究報告書』では、多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡のほか、墨書土器などが報告されており、今回確認された遺構との関連がうかがえる。
<b>調査原因</b>	個人住宅建設工事		
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 6 月 7 日～7 月 29 日		
<b>調査面積</b>	80 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	笠間市教育委員会		
<b>資料保管</b>	笠間市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 7 年度刊行予定		
<b>19</b>	<small>はしづめいせき</small> <b>橋爪遺跡 (2022-01 地点)</b>	<b>08216043</b>	<b>(縄文時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	笠間市橋爪字井ノ上 898 番 1	<b>調査概要</b>	潤沼川の北岸、常磐線沿いの台地に立地する。今回の調査では、竪穴建物跡 1 棟（縄文時代）、土坑 34 基（縄文時代）を検出した。既往の調査では、縄文中期の遺構群が確認されており、今回の調査で確認された遺構もその一部であると考えられる。縄文時代中期に特徴的な袋状土坑の重複を数多く確認した。出土遺物は主に縄文土器で、加曾利 E 式、阿玉台式などの型式が確認された。これらは、これまでの周辺調査の成果と符合するものである。
<b>調査原因</b>	個人住宅建設工事		
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 8 月 1 日～9 月 30 日		
<b>調査面積</b>	85.64 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	笠間市教育委員会		
<b>資料保管</b>	笠間市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 7 年度刊行予定		
<b>20</b>	<small>いしいせきぐん</small> <b>石井遺跡群 (2022-01 地点)</b>	<b>08216097</b>	<b>(奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	笠間市石井字土師内 489 番 1	<b>調査概要</b>	石井台の標高約 50m の台地上に位置する。今回の調査では、竪穴建物跡 2 棟（奈良 1・平安 1）、土坑 3 基を検出した。遺物は、土師器（奈良・平安）、須恵器（奈良・平安）、支脚（奈良）が出土した。石井遺跡群では過去に数度の発掘調査が行われており、特に 1972 年に刊行された『茨城県笠間市うら山古墳・石井台平安時代集落調査研究報告書』では、多くの竪穴建物跡や掘立柱建物跡のほか、墨書土器などが報告されており、今回確認された遺構との関連がうかがえる。
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事		
<b>調査年月日</b>	令和 5 年 2 月 1 日～2 月 17 日		
<b>調査面積</b>	162 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	笠間市教育委員会		
<b>資料保管</b>	笠間市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 7 年度刊行予定		



21	さしろひやくぼうじいんあと 佐白百坊寺院跡 (第1次)	08216020	(中世・近世 / 寺院跡)
所在地	笠間市笠間字城山 616 番 5	調査概要	
調査原因	重要遺跡の確認調査		佐白山北側の標高 153m の山地に位置する。今回の調査では、近世正福寺跡の建物跡及び平坦地等にトレンチを設定して調査を行った。本堂推定地では、建物跡の地業痕跡を確認したとともに、土地利用の変遷の一端を追うことができた。また、塔跡推定地では、地業痕跡及び原位置と考えられる礎石を検出した。平坦地では整地層の検出と、石列遺構を確認した。中世までさかのぼる遺構は検出されなかったが、近世正福寺跡の考古学的知見を得られたことは、大きな成果といえる。
調査年月日	令和4年 12 月 21 日～令和5年3月 31 日		
調査面積	202 m <sup>2</sup>		
調査主体	笠間市教育委員会		
資料保管	笠間市教育委員会		
報告書名	令和9年刊行予定		

22	いちげいせき 市毛遺跡 (第6次)	08221005	(縄文時代、古墳～平安時代 / 集落跡)
所在地	ひたちなか市大字市毛字上坪 1110 番 3 ほか	調査概要	
調査原因	個人住宅建築工事		那珂川左岸台地縁辺の標高約 26m の台地上に立地する。今回の調査では、堅穴建物跡 2 棟、土坑 5 基が確認された。第 1 号堅穴建物跡は、床面のみの確認であり時期は不明である。第 2 号堅穴建物跡は、カマド部を除く東側部のみの調査で、須恵器坏・土師器甕の破片から 8 世紀第 2 四半期頃に位置付けられる。土坑は、平安時代のもので、人為的に埋め戻されていると考えられる。特に第 2 号土坑は、土師器碗・小皿・鉄鏃・礫の出土遺物から、11 世紀第 2 四半期頃に位置付けられる。
調査年月日	令和4年 4 月 13 日～5月 11 日		
調査面積	54 m <sup>2</sup>		
調査主体	(公財) ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社		
資料保管	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター		
報告書名	『令和4年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』 令和5年3月24日		

23	いちげいせき 市毛遺跡 (第7次)	08221005	(縄文時代、古墳～平安時代 / 集落跡)
所在地	ひたちなか市大字市毛字上坪 1110 番 9	調査概要	
調査原因	個人住宅建築工事		那珂川左岸台地縁辺の標高約 26m の台地上に立地する。今回の調査では、古墳時代の堅穴建物跡 1 棟が確認された。調査区は攪乱が酷く、床面近くまで削られてしまっていた。北東隅部のみの調査で、遺存状態の悪いカマド跡と支柱穴と思われるピット 1 基、カマド脇ピット 2 基、堅穴建物跡と関係性が不明なピット 1 基が確認された。また、土師器坏破片がカマド付近の床面から出土している。
調査年月日	令和4年 4 月 13 日～5月 12 日		
調査面積	41 m <sup>2</sup>		
調査主体	(公財) ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社		
資料保管	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター		
報告書名	『令和4年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』 令和5年3月24日		

24	むかいのえーいせき 向野A遺跡 (第10次)	08221148	(縄文時代 / 集落跡)
所在地	ひたちなか市馬渡字向野 2885 番 1 ほか	調査概要	
調査原因	区画整理事業		本郷川右岸の北西側に分岐した支谷周辺の台地上に立地する。第 9 次調査で確認された、第 2～4 号溝跡の続き、合計 3 条の溝跡を確認した。溝跡の年代を特定できる遺物は出土していない。第 3 号溝跡から旧石器時代の削器が出土している。向野 A 遺跡は 2019 年から 4 回に渡る調査が実施され、溝跡 4 条、性格不明遺構 2 基が確認されている。第 1 号溝跡の北側には「鎌倉街道」と推定されている農道があり、この溝跡は、道路状遺構の側溝と考えられ、「元祐通宝」も出土している。
調査年月日	令和4年 5 月 20 日～6月 14 日		
調査面積	275 m <sup>2</sup>		
調査主体	(公財) ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社		
資料保管	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター		
報告書名	『向野A遺跡第7～10次発掘調査報告書』 令和5年3月15日		

25 <sup>いちげいせき</sup> 市毛遺跡 (第8次)		08221005	(縄文時代、古墳～平安時代 / 集落跡)
所在地	ひたちなか市大字市毛字上坪 1110 番 8	<b>調査概要</b>	
調査原因	個人住宅建築工事	那珂川左岸台地縁辺の標高約 26mの台地上に立地する。今回の調査では、近世の土坑 2 基、焼土遺構 1 基、ピット 1 基が確認された。第 2 号土坑からは、寛永通宝・かわらけが出土している。また、粘土採掘を目的とした土坑である可能性がある。焼土遺構では、25cm の間隔をあけて配置された泥岩質切石を確認した。遺構下部のピットからは、石硯・寛永通宝が出土しており、近世以後のものであると考えられる。第 1 号ピットは、確認面からの深さが 0.8mあり、床面が硬化していた。	
調査年月日	令和 4 年 7 月 7 日～8 月 3 日		
調査面積	48 m <sup>2</sup>		
調査主体	(公財) ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社		
資料保管	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター		
報告書名	『令和 4 年度ひたちなか市内遺跡発掘調査報告書』 令和 5 年 3 月 24 日		

26 <sup>なかだいいせき</sup> 中台遺跡		08647007	(弥生時代、平安時代 / 再葬墓、集落跡)
所在地	常陸大宮市山方 2463 番地ほか	<b>調査概要</b>	
調査原因	学術調査	久慈川右岸の標高 68mほどの台地上に立地する。今回の調査では、弥生時代の再葬墓 8 基、平安時代の竪穴建物跡 2 棟などを検出し、縄文土器 (早・中期)、弥生土器 (前・中期)、土師器、石器・石製品が出土した。	
調査年月日	令和 4 年 5 月 12 日～6 月 20 日	当遺跡では、耕作に伴い出土したという土器から弥生時代の再葬墓の存在が想定されてきたが、今回の調査によって再葬墓の位置と群在が確認された。	
調査面積	99.98 m <sup>2</sup>		
調査主体	常陸大宮市教育委員会		
資料保管	常陸大宮市教育委員会		
報告書名	令和 6 年度刊行予定		

27 <sup>じてんやかたあと</sup> 地天館跡 (第2次)		082226133	(縄文時代～近世 / 城館跡、包蔵地)
所在地	那珂市菅谷字地天 2102 ほか	<b>調査概要</b>	
調査原因	宅地造成工事	東と南に細長い谷状の水田地帯で、二本の谷の合流地点に突き出す台地の先端部に立地する。今回の調査で確認された遺構については、古墳時代中期の竪穴建物跡が 1 棟、溝及び中世の堀が 4 条、土坑が 4 基検出された。出土遺物は縄文土器をはじめとした土器類、陶器、土製品、石製品、銭貨が確認された。なお、中世の城館に関わる遺物は検出されなかった。	
調査年月日	令和 4 年 7 月 4 日～9 月 28 日		
調査面積	1,966.82 m <sup>2</sup>		
調査主体	那珂市教育委員会		
調査支援	有限会社日考研茨城		
資料保管	有限会社日考研茨城		
報告書名	刊行予定未定		

28 <sup>しもおおがいせき</sup> 下大賀遺跡		08343007	(古墳時代、平安時代、室町時代 / 集落跡、包蔵地)
所在地	那珂市下大賀字静賀 1945 ほか	<b>調査概要</b>	
調査原因	道路整備事業	那珂市北西部、久慈川支流の玉川右岸の標高約 43～44mの台地上に立地している。古墳時代と平安時代の集落跡等を確認した。古墳時代の竪穴建物跡からは完形の鉄剣や、線刻のある紡錘車等の特殊な遺物が出土した。遺構の分布状況から、今回の調査範囲は国道 118 号改築事業に伴う調査で確認した集落の外縁部と考えられる。	
調査年月日	令和 4 年 4 月 1 日～10 月 30 日		
調査面積	7,044 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和 6 年度以降刊行予定		

29	つたやまいせき 鳶山遺跡	08303238	(縄文時代、古墳時代 / 包蔵地)
所在地	小美玉市宮田 1508-3	調査概要	
調査原因	道路整備事業	小美玉市中央部、園部川下流域の左岸、標高 10～22mの台地上に立地している。斜面部で時期不明の通路状遺構と、縄文時代・古墳時代の遺物包含層を確認した。縄文時代の遺物包含層からは前期の土器片が、古墳時代の遺物包含層からは石製模造品が、それぞれまとまって出土した。	
調査年月日	令和4年12月1日～12月28日		
調査面積	728 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

30	こづるにしいせき 小鶴西遺跡	08302233	(縄文時代、古墳時代、平安時代～近世 / 集落跡、城館跡)
所在地	茨城町大字小鶴字西 1436-2 ほか	調査概要	
調査原因	道路整備事業	茨城町北西部、涸沼川左岸の標高約 5～6 mの微高地に立地している。古墳時代及び平安時代の集落跡と、室町時代の城館跡を確認した。埋没谷を臨む微高地からは、古墳時代と平安時代の竪穴建物跡等を確認した。室町時代の城館跡は、調査区のほぼ全域で確認できた。特に東部では、薬研堀跡や掘立柱建物跡群がまとまっている状況を確認した。	
調査年月日	令和4年4月1日～5年3月31日		
調査面積	16,262 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

31	ひいがまいせき 髭釜遺跡 (第26次)	08309022	(弥生時代、平安時代 / 集落跡)
所在地	大洗町桜道 268 番	調査概要	
調査原因	個人住宅建設工事	涸沼川右岸の標高約 10mの平坦な低台地上に立地しており、弥生時代後期を中心にした集落が展開する。竪穴建物跡は総数2棟が検出されており、内訳は弥生時代後期後半十王台式2期頃1棟、平安時代1棟である。それぞれの遺構は良好な状態で埋没しており、弥生時代の壺形土器・石器、平安時代の土師器・須恵器・鉄製品・貝類遺体などが出土した。その他に、平安時代の土坑1基、平安時代のピット2基も含まれる。	
調査年月日	令和4年4月5日～5月12日		
調査面積	76.2 m <sup>2</sup>		
調査主体	大洗町教育委員会		
資料保管	大洗町教育委員会		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

32	な か さい せき 那珂西遺跡	08306001	(縄文時代、古墳時代、中世 / 城館跡、集落跡)
	な か さい じょう あと 那珂西城跡	08306007	(中世 / 城館跡)
所在地	城里町那珂西 2043-7 ほか	調査概要	
調査原因	道路整備事業	城里町南東部、那珂川と西田川に挟まれた標高約 40mの台地上に立地している。那珂西城跡では、15～16世紀にかけて3度の改変が認められた。この時期は水戸の所領が江戸氏から佐竹氏へと移行する時期であり、当時の情勢を色濃く反映している可能性が高い。また、南北に延びる台地中腹に沿った堀は、台地の南端部まで延びていくと考えられる。	
調査年月日	令和4年4月1日～6月30日		
調査面積	499 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

<b>33</b>	<small>とよおかみやまえいせき</small> <b>豊岡宮前遺跡</b>	<b>08341162</b>	<b>(平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	東海村大字白方字馬場崎 1988	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建設工事	久慈川右岸の標高約 20mの台地上に立地する。今回の調査では、平安時代の竪穴建物跡 1 棟、掘立柱建物跡 1 棟、時期不明のピット 4 基を検出した。	
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 5 月 18 日～6 月 16 日	9 世紀前半と考えられる竪穴建物跡は、人為的に埋め戻されており、覆土中から土器片と共に、土製玉類がまとまって出土した。また玉類は、カマドを中心に建物を囲うように出土しており、廃絶時に何らかの祭祀行為が行われたことを示すものと考えられる。	
<b>調査面積</b>	27.5 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	東海村教育委員会		
<b>資料保管</b>	東海村教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 5 年度刊行予定		

<b>34</b>	<small>とのうちこふん</small> <b>戸ノ内古墳</b>	<b>08341177</b>	<b>(古墳時代 / 古墳)</b>
<b>所在地</b>	東海村大字石神外宿 1037 番 1 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	保存目的の範囲内容確認調査	久慈川右岸の標高約 18～19mの台地上に立地する。今回の調査では、墳丘の形状や規模を明らかにするため、トレンチを 1 本設定し確認を行った。	
<b>調査年月日</b>	令和 5 年 2 月 20 日～3 月 17 日	調査の結果、令和 3 年度に検出した周溝が北西方向に延びることを確認した。周溝内からは、人物や家形などの形象埴輪、円筒埴輪が多数出土した。埴輪は全て原位置を保っておらず、墳丘及び周溝外側から周溝内に落ち込んだものと考えられる。なお、墳丘の形状等については、確定することができなかった。	
<b>調査面積</b>	12 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	東海村教育委員会		
<b>資料保管</b>	東海村教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 7 年度刊行予定		

<b>35</b>	<small>たじりうわ だいいせき</small> <b>田尻上の代遺跡</b>	<b>08202049</b>	<b>(縄文～弥生時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	日立市田尻町二丁目 263 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	病院及び老人保健施設建設工事	今回の調査は昭和 46 年度の調査以来、2 度目の調査となる。調査の結果、縄文時代中期～晩期の竪穴建物跡 17 棟分、土坑 370 基に加え、弥生時代の再葬墓が約 6 基分確認された。	
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 8 月 18 日～5 年 1 月 6 日	遺物としては、縄文時代中期～晩期の土器、土製品（ミミズク形土偶の頭部、土冠）、石器（石鏃・石錐・石核・石棒等）、弥生時代前期～中期の土器等が出土した。	
<b>調査面積</b>	1,088 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	株式会社真和技研		
<b>資料保管</b>	日立市郷土博物館		
<b>報告書名</b>	令和 6 年度中に刊行予定		

<b>36</b>	<small>はったんいせき</small> <b>八反遺跡</b>	<b>08202102</b>	<b>(奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	日立市国分町 3 丁目 25 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	道路建設事業	日立市中央部、太平洋岸の標高 22m前後の海岸段丘上に立地する。調査区南側に遺構の濃密な分布を確認した。確認した竪穴建物跡の大部分が重複し合っている。いずれも 9 世紀代であることから、短期間の集落跡と考えられる。また、搬入品の須恵器の長頸瓶のほか、「大田郷カ」、「塩女カ」、「大釜」等の墨書土器が出土した。	
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 4 月 1 日～7 月 31 日		
<b>調査面積</b>	1,569 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>資料保管</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>報告書名</b>	令和 6 年度以降刊行予定		

37	はら うちいせき 原の内遺跡	08202138	(古墳～奈良時代 / 集落跡)
所在地	日立市石名坂町2丁目990-1ほか	調査概要	
調査原因	道路拡幅事業		日立市南部、茂宮川左岸の標高約57～60mの緩斜面部に立地している。段丘縁辺部の調査を行い、古墳時代後期と奈良時代初頭の竪穴建物跡を確認した。これまでの調査でも同時期の遺構が確認されており、今回の調査区は集落の西端と考えられる。
調査年月日	令和4年7月1日～7月31日		
調査面積	239㎡		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

38	やしきまわ いせき 屋敷廻り遺跡	08222033	(古墳～平安時代 / 包蔵地)
所在地	鹿嶋市佐田字与五内393番地1地先	調査概要	
調査原因	都市計画道路宮中佐田線建設事業		平成30年度～令和2年度に実施された、調査4区と5区の間にある市道部分7区の調査である。7世紀末葉の竪穴建物跡は、これまで屋敷廻り遺跡で確認された集落の一部である。北西約700mに位置する鹿島郡家跡の造営に関係すると考えられる集落であり、遺構からは土師器甕の出土が顕著である。火葬墓(SK382)の年代は不明であるが、5区に広がる墓域と考えられる段切り状遺構3との関係性が指摘できる。
調査年月日	令和4年6月2日～6月14日		
調査面積	131㎡		
調査主体	(公財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団		
資料保管	鹿嶋市どきどきセンター		
報告書名	『屋敷廻り遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 令和4年8月26日		

39	さかどいせき 坂戸遺跡	08222110	(縄文時代、古墳時代 / 包蔵地、集落跡)
所在地	鹿嶋市大字山之上223、224-1番地	調査概要	
調査原因	保存目的の範囲内容確認調査		坂戸遺跡周辺は旧郡家跡の推定地の一つである。遺跡からは、縄文土器を中心に土師器、須恵器の破片が表採できることから、古代の遺構が確認できる可能性があり、確認調査を行った。
調査年月日	令和4年6月13日～8月8日		調査では縄文時代後期の竪穴建物跡や土坑を中心に、一部古墳時代前期中葉の竪穴建物跡が1棟確認されたものの、旧郡家跡に直接関係する遺構は検出されなかった。
調査面積	120㎡		
調査主体	鹿嶋市教育委員会		
調査支援	(公財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団		
資料保管	鹿嶋市どきどきセンター		
報告書名	『鹿嶋市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書44』 令和5年3月24日		

40	さくらやま ぼちあと 桜山墓地跡	08222061	(中世、近世 / 墓域、包蔵地)
所在地	鹿嶋市大字宮中1丁目2259番地ほか	調査概要	
調査原因	地域子育て支援センター建設事業		中世から近代の遺構を調査し、中世では調査区を南北に縦断する薬研堀の溝1条を検出した。16～17世紀代の遺物が出土し、17世紀には埋め戻されている。そのほか、17世紀以降の5条の溝を確認した。近世では、17世紀代の墓坑4基と17～19世紀の土坑17基、19世紀代の地下室1棟を検出した。また、調査区南半部では中世の薬研堀を埋め戻して整地遺構が構築されていた。近代では調査区南半部を中心に、明治・大正期の陶磁器や瓦、ガラス製品が出土している。
調査年月日	令和4年6月8日～7月1日		
調査面積	273㎡		
調査主体	鹿嶋市教育委員会		
調査支援	(公財)鹿嶋市文化スポーツ振興事業団		
資料保管	鹿嶋市どきどきセンター		
報告書名	『桜山墓地跡発掘調査報告書』 令和5年3月25日		

<b>41</b>	<small>おくむらいせき</small> <b>奥村遺跡</b>	08421252	(縄文時代～中世 / 包蔵地)
<b>所在地</b>	行方市富田字後田 998 番地ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	山砂採取に伴う発掘調査		行方市の南東部、常陸利根川に注ぐ夜越川流域右岸の標高約 30mの台地上に位置する。古墳時代早期と弥生時代後期の竪穴建物跡が各 1 棟、古墳時代後期から平安時代にかけての竪穴建物跡 36 棟と掘立柱建物跡 7 棟が確認された。中世の遺構としては、たたら製鉄炉と思われる遺構 1 基と炭窯 2 基を検出した。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 8 月 1 日～12 月 1 日		
<b>調査面積</b>	8,550 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	行方市教育委員会		
<b>調査支援</b>	有限会社 原史文化研究所		
<b>資料保管</b>	行方市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 6 年刊行予定		
<b>42</b>	<small>まえしんでんいせき</small> <b>前神田遺跡 (第 2 次)</b>	08203194	(奈良・平安時代 / 集落跡)
<b>所在地</b>	土浦市神立町 2590 番 1 の一部	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	宅地造成工事		霞ヶ浦北岸、南に谷を臨む台地縁辺に立地する。今回の調査では、平安時代の竪穴建物跡 7 棟、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 6 基を検出した。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 6 月 20 日～7 月 26 日		特筆すべき点は、土坑から出土した多量の墨書土器である。そのうち、「大田」もしくは「大」、「田」、それに類似する文字が書かれたものが 8 点を占める。また、石製の巡方も出土しており注目される。
<b>調査面積</b>	642.74 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	土浦市教育委員会		
<b>調査支援</b>	株式会社地域文化財研究所		
<b>資料保管</b>	土浦市教育委員会		
<b>報告書名</b>	『前神田遺跡 (第 2 次調査)』		
<b>43</b>	<small>むしやづかこふん</small> <b>武者塚古墳</b>	08465070	(古墳時代 / 古墳)
<b>所在地</b>	土浦市上坂田 1150-1 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	学術調査		桜川北岸の標高約 30mの台地上に位置する。周溝の形を確認するため、周溝の想定範囲に 3 か所のトレンチを設定し調査を行った。その結果、直線的にのびる周溝隅部を確認し、方墳であることが明らかになった。古墳時代の遺物は出土しなかった。従来円墳と考えられてきた武者塚古墳が方墳であることを示す重要な調査であった。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 12 月 5 日～12 月 20 日		
<b>調査面積</b>	45 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	土浦市教育委員会 筑波大学考古学研究室		
<b>資料保管</b>	土浦市教育委員会		
<b>報告書名</b>	令和 6 年 3 月 31 日刊行予定		
<b>44</b>	<small>とのざといせき</small> <b>殿里遺跡</b>	08203210	(縄文～平安時代 / 集落跡)
<b>所在地</b>	土浦市真鍋五丁目 626 番 1	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅建築工事		桜川左岸、西に小さく突出した台地上に位置する。今回の調査では、古墳時代後期の竪穴建物跡 8 棟、溝跡 1 条、平安時代の竪穴建物跡 1 棟、土坑 1 基、近世の墓坑と思われる土坑 2 基を検出した。古墳時代後期の竪穴建物跡からは、土器片が多量に出土し、完形の土師器坏が合計 10 点近く出土した。また、古墳時代の溝跡からは多量の焼土が出土した。
<b>調査年月日</b>	令和 5 年 2 月 28 日～3 月 15 日		
<b>調査面積</b>	96 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	土浦市教育委員会		
<b>資料保管</b>	土浦市教育委員会		
<b>報告書名</b>	『令和 4 年度土浦市内遺跡発掘調査報告書』 令和 6 年 3 月 31 日刊行予定		

45	しもたかつしょうがっこういせき 下高津小学校遺跡（第6次）	08203100	（弥生時代～中世 / 集落跡）
所在地	土浦市下高津四丁目 710 番 1	調査概要	
調査原因	個人住宅建築工事	桜川右岸の台地上端部に位置し、台地に貫入する大きな谷に東面する。今回の調査では、中世の地下式坑 1 基のほか、中世の遺物を伴う不明遺構 12 基を検出した。不明遺構からは、戦国時代の天目茶碗、中世のかわらけ、内耳鍋などが出土した。また、時期不明の井戸と思われる土坑を検出した。井戸は深さ 2 m 以上を測り、炭化物の堆積と土層が交互に堆積している状況を確認した。	
調査年月日	令和 5 年 3 月 17 日～3 月 31 日		
調査面積	115 m <sup>2</sup>		
調査主体	土浦市教育委員会		
資料保管	土浦市教育委員会		
報告書名	『令和 4 年度土浦市内遺跡発掘調査報告書』 令和 6 年 3 月 31 日刊行予定		

46	みなみだつちゅうえーいせき 南達中 A 遺跡	08203006	（古墳時代、平安時代～近世 / 集落跡、屋敷跡、墓域）
所在地	土浦市中字南達中 858-7 ほか	調査概要	
調査原因	道路建設事業	土浦市南部、花室川左岸の台地端部の標高 20～24 m ほどの緩斜面部に立地している。古墳時代前期から平安時代中期にかけて断続的に営まれた墓域及び集落跡と、室町時代の屋敷跡、近世の墓域を確認した。	
調査年月日	令和 4 年 12 月 1 日～5 年 3 月 31 日	6 世紀後葉の古墳 3 基はいずれも周溝のみで、主体部は確認できなかった。出土遺物の時期差から古墳造成後一定期間墓前祭祀を行っていた可能性がある。	
調査面積	2,267 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和 6 年度以降刊行予定		

47	さいしよやしきいせき 税所屋敷遺跡	08205109	（縄文時代、古墳～平安時代 / 包蔵地）
所在地	石岡市茨城一丁目 5391 番 7	調査概要	
調査原因	個人住宅建築工事	恋瀬川左岸の標高約 23m の斜面上部に立地する。確認された遺構は、竪穴建物跡 7 棟（縄文時代 2 棟、古墳時代 3 棟、奈良・平安時代 2 棟）、土坑 1 基、ピット 1 基、性格不明遺構 1 基のほか、縄文時代の遺物包含層がある。	
調査年月日	令和 4 年 5 月 16 日～6 月 10 日	遺物は、縄文土器、土師器、須恵器が出土しており、長期間にわたり継続した集落が営まれたことが推測できる。	
調査面積	100 m <sup>2</sup>		
調査主体	石岡市教育委員会		
資料保管	石岡市文化財管理センター		
報告書名	令和 6 年度刊行予定		

48	にじがはらいせき 尼寺ヶ原遺跡	08205061	（奈良・平安時代 / 集落跡）
所在地	石岡市若松三丁目 8578 番 1 ほか	調査概要	
調査原因	宅地造成工事	恋瀬川左岸の標高約 25m の台地平坦部に立地し、調査地は常陸国分尼寺跡から東に約 100m に位置する。	
調査年月日	令和 5 年 2 月 6 日～3 月 6 日	確認された遺構は、奈良・平安時代の竪穴建物跡 9 棟、掘立柱建物跡 2 棟、時期不明の土坑 2 基、ピット 1 基である。多量の軒平瓦を用いたカマドを伴う竪穴建物跡が確認され、常陸国分尼寺を支えた集落の様相が推測できる。	
調査面積	296.87 m <sup>2</sup>		
調査主体	石岡市教育委員会		
調査支援	有限会社日考研茨城		
資料保管	石岡市文化財管理センター		
報告書名	令和 5 年度刊行予定		

49	なかつがわいせき 中津川遺跡	08205151	(縄文時代、弥生時代、近世 / 集落跡)
所在地	石岡市中津川平足塚 229 ほか	調査概要	
調査原因	道路建設事業		石岡市の南東部、恋瀬川左岸の標高約 22m～24m の台地上に立地している。縄文時代の竪穴建物跡や大型土坑は、いずれも中期中葉と考えられ、埋没後にできた窪地に土器等を廃棄した状況を確認した。
調査年月日	令和 4 年 8 月 1 日～10 月 31 日		また、大型土坑は密集しており、1 基からハマグリ・サルボウ・オキシジミ・ウミニナ等の地点貝層を確認した。
調査面積	1,152 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和 6 年度以降刊行予定		

50	ばばだいたい いせき 馬場台第 2 遺跡	08208211	(縄文～平安時代 / 集落跡)
所在地	龍ヶ崎市若柴町字馬場台 348 番地ほか	調査概要	
調査原因	市道路整備事業		今回の調査では、縄文時代のピット 2 基、古墳時代前期の竪穴建物跡 9 棟、土坑 1 基、ピット 3 基、平安時代の竪穴建物跡 2 棟、時期不明の土坑 1 基、ピット 32 基が検出された。主な遺物は、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土製品・石製品がある。古墳時代前期の竪穴建物跡 9 棟は、重複することなく位置している。焼失したと考えられる竪穴建物跡が 3 棟検出された。
調査年月日	令和 4 年 2 月 1 日～4 月 22 日		平安時代の竪穴建物跡 2 棟は、6 m ほど隣り合った位置で検出され、カマドはそれぞれ北東壁に据えられている。
調査面積	1,293.7 m <sup>2</sup>		
調査主体	龍ヶ崎市教育委員会		
調査支援	株式会社 東京航業研究所		
資料保管	龍ヶ崎市教育委員会		
報告書名	『馬場台第 2 遺跡八幡作遺跡佐貫 3 号線整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』		

51	やわたさくいせき 八幡作遺跡	08208216	(縄文時代 / 集落跡)
所在地	龍ヶ崎市若柴町字八幡作 104 番地	調査概要	
調査原因	市道路整備事業		今回の調査では、縄文時代早期の竪穴建物跡 1 棟が検出された。主な遺物は、縄文土器である。
調査年月日	令和 4 年 2 月 1 日～4 月 22 日		試掘調査も含め、今回の調査地点では、西側に隣接する八幡台城跡に関連する遺構・遺物の検出はなかった。
調査面積	50 m <sup>2</sup>		
調査主体	龍ヶ崎市教育委員会		
調査支援	株式会社 東京航業研究所		
資料保管	龍ヶ崎市教育委員会		
報告書名	『馬場台第 2 遺跡八幡作遺跡佐貫 3 号線整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』		

52	うしろはらいせき 後原遺跡	08217088	(奈良・平安時代 / 集落跡)
所在地	取手市米ノ井字後原 11 番 1	調査概要	
調査原因	共同住宅建築工事		小貝川と利根川に挟まれるように東西に伸びる北相馬台地の根幹部に位置し、標高約 22m の台地上に立地する。当該遺跡は、古くから宅地化された地域に所在するため、全容が把握しにくい遺跡であるが、今回の調査では、北にカマドを有した小型の竪穴建物跡 1 棟を検出し、遺構の分布密度や遺跡の南西側の範囲を類推できる有益な調査となった。
調査年月日	令和 5 年 3 月 7 日～3 月 31 日		
調査面積	64 m <sup>2</sup>		
調査主体	取手市教育委員会		
資料保管	取手市埋蔵文化財センター		
報告書名	令和 6 年度以降に刊行予定		



<b>53</b>	<small>ささぎいせき</small> <b>大角豆遺跡 (第20次)</b>	08220113	(縄文時代～近世 / 集落跡)
<b>所在地</b>	つくば市大角豆字基畑 825 番	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	宅地造成工事	市南東部、花室川西岸の標高 16～19mの台地上に立地する。調査地は遺跡東部に位置し、昨年度調査区の南側隣接地に当たる。	
<b>調査年月日</b>	令和4年3月1日～4月7日	炉跡4基(縄文)、溝跡3条(不明)、土坑141基(縄文140、不明1)、ピット30基(縄文)を確認し、縄文時代中期中葉～後葉を主体とする。多数の縄文土器が出土した。	
<b>調査面積</b>	776 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	つくば市教育委員会		
<b>調査支援</b>	つくば市出土文化財管理センター		
<b>報告書名</b>	令和6年3月刊行予定		

<b>54</b>	<small>おおてらまえいせき</small> <b>大寺前遺跡</b>	08220531	(古墳時代～近世 / 集落跡、包蔵地)
<b>所在地</b>	つくば市大 市道4-1429号線地内	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	市道改良工事	市北東部、桜川西岸の標高約6mの台地低位面に立地する。溝跡2条(中世、近世以降)とピット4基(不明)を調査した。中世の溝跡は、上幅約3m、深さ約1.4mで、16世紀後半の土師質土器が出土しており、戦国時代の所産と考えられる。ピットは、溝跡西側の法面上部や法面際で検出された。調査区中央のピット2基は、溝跡に沿うように並び、両者の間は約1.8mであった。これらは橋脚や柵列の一部の可能性がある。	
<b>調査年月日</b>	令和4年9月12日～16日		
<b>調査面積</b>	28 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	つくば市教育委員会		
<b>資料保管</b>	つくば市出土文化財管理センター		
<b>報告書名</b>	令和8年3月刊行予定		

<b>55</b>	<small>ふるくきたのさきいせき</small> <b>古来北ノ崎遺跡</b>	08220532	(縄文時代、奈良時代～近世 / 集落跡、包蔵地)
<b>所在地</b>	つくば市古来字島ノ前 1180 番5	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	個人住宅の浄化槽工事	市東部、桜川低地へ続く谷津に面した標高6mの台地低位面に立地する。ピット2基等を調査した。ピット1は平面形が円形で、径0.49m、深さ0.50m。覆土は水平に堆積しており、柱痕や抜き取り痕は確認できなかったものの、柱穴跡と思われる。ピット2は、調査区南西隅で検出されたため、規模や形状は不明だが、深さが0.5m以上ある。いずれも戦国時代終末～江戸時代初め頃のものとして推定される。	
<b>調査年月日</b>	令和4年11月24日		
<b>調査面積</b>	4 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	つくば市教育委員会		
<b>資料保管</b>	つくば市出土文化財管理センター		
<b>報告書名</b>	令和8年3月刊行予定		

<b>56</b>	<small>やたべだいろくてんたいせき</small> <b>谷田部大六天下遺跡</b>	08220405	(縄文時代～平安時代 / 集落跡)
<b>所在地</b>	つくば市谷田部 4342 番1ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	造成工事	市南部、谷田川西岸の標高約20～23mの台地平坦部から斜面部に立地する。竪穴建物跡3棟(縄文1、弥生1、平安1)、炉穴13基(縄文)、土坑27基(縄文20、不明7)、火葬墓1基(平安)などが確認された。縄文時代の炉穴は早期後葉、建物跡は前期中・後葉で、遺構外からは早期から後期までの土器が出土している。弥生時代後期前半の建物跡からは、石英破片50点が出土した。火葬墓の骨蔵器は土師器の常総型甕であった。	
<b>調査年月日</b>	令和4年9月5日～12月5日		
<b>調査面積</b>	1,924 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	つくば市教育委員会		
<b>調査支援</b>	毛野考古学研究所茨城支所		
<b>資料保管</b>	つくば市出土文化財管理センター		
<b>報告書名</b>	『谷田部第六天下遺跡』令和5年3月31日		

57	しまなせきのだいこふんぐん 島名関ノ台古墳群	08220052	(古墳時代 / 古墳群)
	せきのだいまみなみえーいせき 関ノ台南 A 遺跡	08220386	(古墳～平安時代 / 集落跡、古墳群)
所在地	つくば市島名字関ノ基212番39	調査概要	
調査原因	個人住宅建築工事	市中央部、谷田川西岸の標高20mの台地上に立地する。調査の結果、古墳時代前期の竪穴建物跡1棟、後期古墳の周溝1条を確認した。建物跡は、東西・南北約7.1m、深さ0.4mで、焼失住居である。周溝は、西側の一部のみの調査のため、規模は不明だが、上幅は4.5m以上、深さ約1.2mを測る。また、外側の法面で南北約3m、東西約1.4m、深さ約0.6mの周溝内土坑を検出した。周溝と土坑の構築時期は異なり、土坑掘削時に周溝の一部が改修されている。	
調査年月日	令和5年1月11日～2月3日		
調査面積	119㎡		
調査主体	つくば市教育委員会		
資料保管	つくば市出土文化財管理センター		
報告書名	令和8年3月刊行予定		
58	うえのむろいせき 上ノ室ハマイバ遺跡 (第17次)	08220503	(古墳～平安時代 / 集落跡)
	所在地	つくば市上ノ室1744番3	調査概要
調査原因	個人住宅建設工事	市東部、桜川に続く谷津に面した標高約26mの台地上に立地する。調査地点は、遺跡範囲の北東側に当たる。竪穴建物跡5棟(古墳2、奈良・平安3)、土坑11基(不明)などを確認した。一帯には、古墳時代前期から平安時代までの遺構が密に分布していることが分かった。	
調査年月日	令和5年3月6日～30日		
調査面積	120㎡		
調査主体	つくば市教育委員会		
調査支援	株式会社勾玉工房		
資料保管	つくば市出土文化財管理センター		
報告書名	令和8年3月刊行予定		
59	やたべじんばにしいせき 谷田部陣馬西遺跡	08220632	(縄文時代、古墳時代 / 集落跡)
	所在地	つくば市谷田部字陣場2430番地ほか	調査概要
調査原因	土地区画整理事業	つくば市南西部、谷田川と西谷田川に挟まれた標高約22mの傾斜地に立地している。小規模な谷を取り囲むように、縄文時代中期の集落跡を確認した。竪穴建物跡や袋状土坑、円筒状土坑が複雑に重複しており、大規模な集落が営まれていたことが想定できる。	
調査年月日	令和5年1月1日～3月31日	また、古墳時代の遺構としては、初期段階のカマドをもつ竪穴建物跡等を確認し、5世紀中葉から6世紀前葉に集落が営まれていたことが判明した。	
調査面積	3,000㎡		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		
60	でどいせき 出戸遺跡	08449013	(縄文時代、古墳時代～近世 / 集落跡)
	所在地	稲敷市幸田字出戸953番地ほか	調査概要
調査原因	介護医療院新築工事	南に利根川、沖積低地を臨む標高約28mの台地先端部に立地する。縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世、近世の複合遺跡である。竪穴建物跡37棟(古墳15、奈良・平安22)、掘立柱建物跡5棟(奈良・平安2、中世3)、中世の方形竪穴遺構22棟、地下式坑4基、土坑墓1基等を検出した。集落は5世紀中葉から10世紀前葉に営まれ、6世紀後葉と9世紀中葉～後葉を盛期とする。拠点的大集落の幸田・幸田台遺跡と関連する遺跡であり、台地整形を伴う中世後半の遺構群が発見されている。	
調査年月日	令和4年9月20日～5年1月19日		
調査面積	2,316㎡		
調査主体	稲敷市教育委員会		
調査支援	株式会社地域文化財研究所		
資料保管	稲敷市教育委員会		
報告書名	『出戸遺跡 介護医療院新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』		

<b>61</b>	<small>とうじょうじょうあと</small> <b>東条城跡</b>	<b>08446046</b>	<b>(中世 / 城館跡)</b>
<b>所在地</b>	稲敷市下太田 348 番地ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	道路整備事業		稲敷市南西部、利根川と小野川に挟まれた丘陵上標高約 5 m の北側裾部に立地している。東条城跡の東部で、盛土によって平場を造成した痕跡を確認した。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 11 月 1 日～12 月 31 日		盛土は 3 時期に大別でき、第 2 期では第 1 期の盛土を掘り込む溝の存在も確認した。調査区中央の谷部では、2 か所の整地遺構を確認したが、性格は不明である。
<b>調査面積</b>	2,756 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>資料保管</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>報告書名</b>	令和 6 年度以降刊行予定		

<b>62</b>	<small>かまたいせき</small> <b>鎌田遺跡</b>	<b>08482021</b>	<b>(縄文時代、奈良・平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	つくばみらい市南太田 278-2	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	道路整備事業		つくばみらい市東部、中通川左岸の標高約 20～24 m の台地上に立地している。縄文時代及び奈良・平安時代の集落跡を確認した。縄文時代中期後葉の竪穴建物跡と袋状土坑や円筒状土坑が、重複して調査範囲全面に広がっていることが判明した。奈良・平安時代には、昨年度調査した北側から台地縁辺部近くまで集落が続くことを確認した。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 4 月 1 日～7 月 31 日		
<b>調査面積</b>	672 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>資料保管</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>報告書名</b>	令和 6 年度以降刊行予定		

<b>63</b>	<small>さんじょういんじょうあと</small> <b>三條院城跡</b>	<b>08482015</b>	<b>(縄文時代、室町時代 / 集落跡、城館跡)</b>
<b>所在地</b>	つくばみらい市南太田 420-5 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	道路新設事業		つくばみらい市東部、中通川左岸の標高約 12～13 m の台地上及び低地に立地している。台地平坦部から縄文時代中期後葉の竪穴建物跡を確認し、城跡が築かれる以前に集落が広がっていたことが分かった。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 4 月 1 日～7 月 31 日		調査区北東側斜面部では、室町時代の城跡に伴う帯曲輪跡や堀跡を、また、郭の平坦部からは、方形竪穴遺構や地下式坑等を確認した。
<b>調査面積</b>	432 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>資料保管</b>	公益財団法人茨城県教育財団		
<b>報告書名</b>	令和 6 年度以降刊行予定		

<b>64</b>	<small>おおやかいづか</small> <b>大谷貝塚</b>	<b>08380109</b>	<b>(弥生～平安時代 / 集落跡)</b>
<b>所在地</b>	稲敷郡美浦村大谷 1170 ほか	<b>調査概要</b>	
<b>調査原因</b>	道路整備事業		遺跡は、霞ヶ浦に注ぐ高橋川左岸の標高 23～25m 程の台地上に立地する。調査の結果、既往の調査で明らかとなっている同時代の集落範囲が、さらに北側に広がっていることが判明した。また新たに奈良時代の竪穴建物跡なども検出され、本遺跡が縄文時代以降、長期にわたって生活の場になっていたことがうかがえる。
<b>調査年月日</b>	令和 4 年 10 月 1 日～12 月 16 日		
<b>調査面積</b>	1,048 m <sup>2</sup>		
<b>調査主体</b>	美浦村教育委員会		
<b>調査支援</b>	関東文化財振興会株式会社		
<b>資料保管</b>	美浦村文化財センター		
<b>報告書名</b>	『大谷貝塚』令和 5 年 3 月 31 日		

65	かみじゅくいせき 上宿遺跡	08443201	(古墳時代～近世 / 集落跡)
所在地	阿見町実穀 881 ほか	調査概要	
調査原因	道路整備事業	阿見町南西部、乙戸川左岸の開析低地及び標高約 24mの台地上に立地している。奈良時代前葉から平安時代の集落跡を確認した。8世紀前葉の竪穴建物跡が主体で、微高地に集落が広がっていたことが判明した。	
調査年月日	令和4年11月1日～5年3月31日		
調査面積	1,655 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

66	じっくしんでんいせき 実穀神田遺跡	08443200	(縄文時代、古墳～奈良時代 / 集落跡)
所在地	阿見町実穀 970 ほか	調査概要	
調査原因	道路整備事業	阿見町南西部、乙戸川左岸の開析低地及び標高約 24mの台地上に立地している。古墳時代から奈良時代の集落跡を確認した。古墳時代のものとして、6世紀前葉の竪穴建物跡2棟を確認した。そのうち1棟は焼失建物跡である。奈良時代は8世紀前葉を中心とする竪穴建物跡7棟を確認した。このうち1棟は、規模が1辺8mの大型の竪穴建物跡で、円面硯等が出土している。	
調査年月日	令和4年11月1日～5年3月31日		
調査面積	2,380 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

67	すずめのみやいせき 雀宮遺跡	08204001	(縄文時代、古墳時代 / 集落跡)
所在地	古河市宮前町 6402 番 17	調査概要	
調査原因	宅地造成及び分譲住宅建設工事	市域北西端、渡良瀬川左岸沿い標高 19mの河川段丘上に立地する。試掘調査で確認されていた一辺7mを超える古墳時代後期の竪穴建物跡1棟のほか、中世以降とみられる井戸跡1基などを確認した。	
調査年月日	令和4年3月19日～4月14日	遺物は、竪穴建物跡から土師器(坏・高坏・甕・甗)、須恵器(ハソウ・甕)、表土から縄文土器(早期条痕文系・鶴ヶ島台式、前期黒浜式)、石器(切目石錘・石鏃)などが出土している。	
調査面積	115 m <sup>2</sup>		
調査主体	古河市教育委員会		
調査支援	株式会社真和技研		
資料保管	古河市教育委員会		
報告書名	『古河市埋蔵文化財調査報告書 第29集 雀宮遺跡』令和5年8月28日		

68	ひがし かどにし かどしろあと 東の門西の門城跡 (第5次)	08543015	(古墳時代～中世 / 集落跡、城館跡)
所在地	古河市山田字諏訪前 973 番 1 ほか	調査概要	
調査原因	県営圃場整備事業	市域南東部、大川(旧長井戸沼東枝)右岸、標高約 20m前後の台地縁辺部から平坦部に所在する。本年度は、遺跡範囲北西部に位置する道路敷部分を対象とした。調査区内から古墳時代後期(7世紀代)の竪穴建物跡3棟と平安時代(9世紀～10世紀代)の竪穴建物跡3棟などを確認し、古墳時代後期～古代の集落跡のさらなる広がりが確認された。土師器や須恵器などのほか、特出される遺物として、9世紀後葉から10世紀前半とみられる第2号竪穴建物跡から出土した人名が刻書された滑石製紡錘車がある。	
調査年月日	令和4年12月1日～令和5年2月6日		
調査面積	350 m <sup>2</sup>		
調査主体	古河市教育委員会		
調査支援	株式会社東京航業研究所		
資料保管	古河市教育委員会		
報告書名	『古河市埋蔵文化財調査報告書 第32集 東の門西の門城跡(第5次)』		

69	ゆうきは いじあと 結城廃寺跡	08207021	(奈良時代～中世 / 寺院跡)
所在地	結城市上山川字結城寺北乙 52-1 ほか	調査概要	
調査原因	史跡整備		結城市東部、鬼怒川西岸の台地上に位置する。史跡整備に伴う調査を行い、奈良・平安時代の軒廊跡及び鐘楼跡または経蔵跡と推定される掘込地業を確認した。さらに、掘込地業の周囲には整地層が広がり、出土遺物から9世紀前半以降に整地されていることが判明した。また、古代及び中世の区画溝を新たに確認した。遺物は、多量の瓦のほか、推定軒廊跡の掘込地業から鴟尾が、瓦溜からは三彩陶器が出土した。
調査年月日	令和4年8月1日～令和5年3月15日		
調査面積	400 m <sup>2</sup>		
調査主体	結城市教育委員会		
調査支援	国士館大学考古学研究室		
資料保管	結城市教育委員会		
報告書名	令和5年度刊行予定		

70	かとりま えいせき 香取前遺跡	08207054	(縄文時代～近世 / 集落跡)
所在地	結城市武井 412-2 番地ほか	調査概要	
調査原因	県営圃場整備事業		結城市南西部、西仁連川東岸の微高地上に位置する。弥生時代から平安時代の集落跡、室町～戦国時代の区画溝などを確認し、縄文～近世までの遺物が出土した。特筆する成果として、弥生時代の竪穴建物跡から銅鏃が出土した。中世では、多数の井戸跡や堀跡を検出したが、過年度調査と比較すると、今年度検出した堀跡は出土遺物が少なく、令和4年度調査区一帯は、当時の居住区画から外れていた場所であった可能性が考えられる。
調査年月日	令和4年7月8日～令和5年3月15日		
調査面積	7,500 m <sup>2</sup>		
調査主体	株式会社勾玉工房		
資料保管	結城市教育委員会		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

71	やなぎしたびーいせき 柳下B遺跡	08207029	(古墳～奈良時代 / 集落跡)
所在地	結城市結城字柳下 12171 番地 1	調査概要	
調査原因	宅地造成工事		結城市北部、田川西岸の台地上に位置する。古墳時代の竪穴建物跡1棟、奈良時代の竪穴建物跡1棟を確認し、土師器や須恵器、灰釉陶器、墨書土器、青銅製の巡方などが出土した。
調査年月日	令和4年12月3日～12月23日		
調査面積	50 m <sup>2</sup>		
調査主体	関東文化財振興会株式会社		
資料保管	結城市教育委員会		
報告書名	『柳下B遺跡－宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』		

72	かごぬまいせき 籠沼遺跡	08211071	(縄文時代、平安時代、近世 / 集落跡)
	かごばいせき 籠場遺跡	08211072	(縄文時代、平安時代、近世 / 集落跡)
所在地	常総市坂手町字籠場 2893 番 2 ほか	調査概要	
調査原因	道路整備事業		常総市南部、鬼怒川右岸の標高約 18～20mの台地及び谷津に立地している。籠沼遺跡では、縄文時代前期と平安時代の集落跡を確認した。縄文時代前期の竪穴建物跡の覆土中からは、ヤマトシジミ主体の地点貝層を確認した。平安時代は集落跡のほか、須恵器壺を蔵骨器とした火葬墓1基を確認した。籠場遺跡では、縄文時代前期の竪穴建物跡や遺物集中地点を確認した。
調査年月日	令和4年8月1日～10月31日		
調査面積	4,502 m <sup>2</sup>		
調査主体	公益財団法人茨城県教育財団		
資料保管	公益財団法人茨城県教育財団		
報告書名	令和6年度以降刊行予定		

73 いしくらしいせき  
石倉西遺跡

08502057 (縄文時代、古墳時代～中世 / 集落跡、墓域)

所在地 筑西市鍋山字前田 189 番地ほか  
調査原因 道路改築事業  
調査年月日 令和 4 年 8 月 1 日～11 月 30 日  
調査面積 4,213 m<sup>2</sup>  
調査主体 公益財団法人茨城県教育財団  
資料保管 公益財団法人茨城県教育財団  
報告書名 令和 6 年度以降刊行予定

## 調査概要

筑西市東部、小貝川と大川に挟まれた標高約 28m の平坦な低台地上に立地している。奈良時代前葉から中世にかけて、断続的に営まれた集落跡等を確認した。古代の竪穴建物跡は 8 世紀前葉から 9 世紀後葉のものが主体となる。そのうちの 1 棟からは、刀子や鎌等の鉄製品のほか、金銅製の帯金具も出土している。また、同時期の掘立柱建物跡も 10 棟確認し、当集落が公的な役割を担っていた可能性が考えられる。

74 みなみしい おはちまんまいせき  
南椎尾八幡前遺跡

08503039 (弥生時代～中世 / 集落跡)

所在地 桜川市真壁町椎尾字八幡前 1763 番 2 ほか  
調査原因 店舗建設工事  
調査年月日 令和 4 年 10 月 17 日～11 月 18 日  
調査面積 258 m<sup>2</sup>  
調査主体 桜川市教育委員会  
調査支援 有限会社日考研茨城  
資料保管 桜川市教育委員会  
報告書名 令和 6 年 3 月 31 日 (刊行予定)

## 調査概要

桜川市南部に位置し、桜川左岸の標高 33.4～33.8 m の舌状台地南縁部に立地する。発掘調査区は、平成 5 年度に発掘調査された古墳時代集落跡 (茨城県教育財団) の東側隣接地にあたる。調査区では、古墳時代中～後期の竪穴建物跡 7 棟、土坑 3 基等が出土しており、平成 5 年度に発見された集落跡は、さらに東側へと広がることが判明した。出土遺物は、弥生土器 (壺)、古墳時代土師器・須恵器のほか、中世の土師質土器小皿等が出土した。

75 ごんげんやまいせき  
権現山遺跡

08521114 (旧石器～縄文時代、奈良・平安時代 / 集落跡)

所在地 八千代町大字菅谷字香取西 104 番 4  
調査原因 賃貸住宅建設工事  
調査年月日 令和 4 年 3 月 22 日～4 月 1 日  
調査面積 54 m<sup>2</sup>  
調査主体 八千代町教育委員会  
調査支援 株式会社東京航業研究所  
資料保管 八千代町歴史民俗資料館  
報告書名 『八千代町埋蔵文化財発掘調査報告書 15 権現山遺跡』

## 調査概要

西側を飯沼川低地、東側を鬼怒川低地に挟まれた結城台地に立地する。今回の調査では、竪穴建物跡 1 棟、土坑 7 基を検出した。土坑のうち 1 基は深さ 1 m 以上の袋状土坑であり、町内では初めて発見された縄文時代の遺構である。調査範囲全体から縄文時代中期の土器が出土したほか、土製栓状耳飾、加工途中の石鏃等が出土した。

76 きゆうなかゆうきしょうがっこうていせき  
旧中結城小学校庭遺跡

08521108 (縄文時代、古墳時代～中世 / 集落跡)

所在地 八千代町佐野字高島 1136 番ほか  
調査原因 民間企業の駐車場造成事業  
調査年月日 令和 4 年 10 月 24 日～5 年 1 月 18 日  
調査面積 1,800 m<sup>2</sup>  
調査主体 八千代町教育委員会  
調査支援 株式会社東京航業研究所  
資料保管 八千代町歴史民俗資料館  
報告書名 令和 5 年度刊行予定

## 調査概要

東側に鬼怒川の旧河道を臨み、北側を山川沼、南側を北沼に挟まれた標高 25～28m の舌状台地に立地する。調査の結果、古墳時代の竪穴竪穴建物跡 7 棟、溝跡 4 条、中世のものと思われる井戸跡 1 基、中世以降の溝跡 2 条、近世の井戸跡 1 基を検出した。遺物は土師器坏や甕、須恵器の蓋といった古墳時代の土器が主に出土した。

令和6年3月31日発行

茨城の文化財 第62集

茨城県教育委員会